東京チャック株式會社

【所在地】大森區新井宿七丁目五〇番地　監査役　高野五郎
【電話】大森(06)六九八〇番　〃　石川昇一
【營業項目】
ドリルチャック各種
旋盤用インデペンデントチャック
同　スクロールチャック
同　コンビネーションチャック
ミーリング用チャック
工作機械用精密チャック各種
【資本金】拾六萬圓
【拂込金】拾六萬圓
【決算期】五月、十一月
【前期配當】六分
【現在の役員】
社長　志村喜太郎
常務　塚田武雄
取締役　内藤巳三郎
〃　原德治
〃　宮田庄吉
〃　石川頼三

【沿革一斑】

所謂新興會社の一であつて昭和十四年一月一日の創立に係はるもので、從來池貝チャック株式會社の專屬下請工場であつた内藤製作所を合併し、山路鐵工所時代よりの優秀なる熟練工を多數吸收し、製作機構と陣容を整えて操業を開始したものである。

その製作品は何れも技術の卓越性を誇つてゐるが、就中、當社の代表的製品たるドリルチャック各種の優秀なる性能と耐久力とは、絶對的に他の追隨を許さないところである。その他の旋盤用インデペンデントチャック、同スクロールチャック、同コンビネーションチャック、ミーリング用チャック並びに工作機械用精密チャック各種等も亦一として當社の獨創的考案と技術とを發揮せざるはなく、市場に「東京チャック」の盛名を馳せて殆んど獨占的信用を獲得してゐるのである。

斯くの如き盛況は專ら、經營主腦者の協力一致と計畫、營業方針、技術的研究對勞者の溫情、工場内の各福利施設等に何れの角度から檢討しても斷じて他の大會社に遜色を見ないほど完璧を誇つてゐるからに外ならぬ。

一體、チャック類の需要は平和産業時代にも相當多量に達してゐるが、就中今次の支那事變が勃發して以來は、急速なる需要增加を招來したもので、これが戰時産業の中樞たる重工業に執つて如何に必須缺くべからざるものであるかは、當社の過去二ケ年間に於ける目覺しい發展振りに徵しても明かなところであらう。

然し乍ら當社の短期間に於ける隆昌飛躍は單に時局の影響にのみ依存してゐるのではない。製品そのものゝ優秀性が當社發展の原動力を爲してゐるのは云ふまでもない。

而して社長志村喜太郎氏を初め常務取締役塚田武雄氏その他の重役諸氏がよく時局の認識と産業報國の精神に徹してゐることも亦その隆昌の背後をなしてゐるのは勿論で將來の雄飛もこの點に存してゐる。

小澤武之助

【生年月日】明治十四年三月三日
【出身府縣】埼玉縣
【原籍】埼玉縣入間郡所澤町七四一
【現住所】横濱市鶴見區東寺尾町一六七二
【電話】鶴見四二二六番
【學歴】明治三十九年東京高等工業學校機械科卒業
【經歴及現在職業】
昭和二年小澤製作所創業
昭和十四年六月三機工業株式會社と合併取締役となる
横濱鐵工機械器具工業組合理事長
神奈川縣鑛山用機器製造工業組合理事長
神奈川縣化學用機器製造工業組合理事長
【趣味】園藝
【家族】
長男　武　三十歳　日本大學工學部機械學科卒業、東洋鋼材株式會社員
次男　進　二十四歳　昭和十五年日本大學工學部機械科卒業　目下研究中
長女　靜枝　二十六年　辯護士田中豊吉氏に嫁す
次女　芳枝　二十一歳　鶴見高女卒業後東京家政女學院卒業目下家庭にて家事見習中

わが工業教育界に於ける愛稱「藏前」なる名稱は、現在、學燈を大岡山に移して東京工業大學と昇格改稱した爲め、そこに的確性を失つたのは已むを得ないけれども、今日尙ほ一般の話柄を去らない事實に鑑みれば、如何に根强く「藏前」なる威力がわが工業界を支配し、奥深く内面的に喰入つてゐるかを無言の裡に立證するものと看做して差支へあるまい。

この前提は本欄の主人公小澤武之助氏に執つて不可缺のものであるのは、啻に氏は「藏前」なる東京高等工業學校の出身者であるばかりでなく、能く母校の工業精神を身を以て實踐し來り、同校創立者にして本邦工業教育界の恩人故手島精一先生より直接受けたる薫陶を、工場内に於て實現せるが故に外ならないのである。

氏が母校を卒業したのは日露戰爭の大捷直後であつて、我が工業界は從來の家内工業の域を脱して漸く工場工業への轉換期に入り工業企業化の曙光が射しかゝつた時代で氏が雄飛するには好機會であつたことを忘れてはならない。

卒業後、氏は專ら學究的生活と實際的研究とに沒頭して徐ろに獨立の機會を窺つてゐたのであるが、越えて昭和二年に愈々小澤製作所を創立したのが飛躍の第一歩であつた。

爾來極めて順調なる進路を辿つてゐたところ、偶々支那事變の勃發に際會して事業發展の刺戟を受けたのである。即ち同十四年六月三機工業株式會社と合併してその取締役に就任し今日に至れるものである。横濱の各種工業組合の理事長に推されて盡瘁殊功を樹てゝゐるところ氏の人望手腕の程が推知し得るのである。

亀戸コークス合名會社

【所在地】 城東區龜戸町九丁目一七五番地
【電　話】 本所一、三六一番
【營業項目】 煉炭製造販賣
【資本金】 百　萬　圓
【現在の役員】

代表社員　初田泰太郎
　　初田康助

【支店工場の所在地】

事務所	城東區大島町一ノ五三
龜戸本工場	城東區龜戸町九ノ一七五
龜戸分工場	城東區龜戸町一ノ一〇三
大島工場	城東區大島町一ノ五三
荒川工場	足立區南宮城町八一一
砂町煉炭工場	城東區北砂町二ノ四一

【沿革一斑】

現下の事變下に於て最も時局的重要性を有するものは公私の燃料である。生產部面に於ても個人の生活に於ても燃料の節約とそれが補充對策が肝腎である。燃料國策なる標語は單なる字句に非ずして極めて切實味を以て我々の生活に滲透してゐる所以はこゝに在る。

當社が斯る公私生活に執つて重要資料たるコークスを製造販賣してゐるが、當社の經營者が斯る國家的意義を能く認識してゐるところが特記すべき當社の良心と云つてよい。

東京鑄物工業組合

【所在地】 本所區太平町一ノ二八
【電　話】 墨田七、九五六番　六、四一九番
【營業項目】 材料强弱試驗、化學定性、量分析試驗
【沿革一斑】

當局に於ける重要物產同業組合の制定と業者への勸奬とに依り、本邦に於ける各種の產業組織が統制整備せられて來たことは、剴下の時局に照らして頗る歡ぶべき傾向である。當東京鑄物工業組合は他組合に率先して逸早く結成し華々しい活躍を遂げて、戰時日本鑄物工業界に貢獻しつゝあることは、斯業界に關心を拂ふ者の均しく熟知する通りであつて、組織の强固なることと組合役員諸氏の獻身的な努力とは他に多く例を見ないところと云つてよい。

その活躍範圍は各方面に亘つて多彩を帶びてゐるが、組合の機關誌として「組合時報」を發行し既に第三十二號に及び斯業界の動向、監督當局の示達、組合の例會等を巨細洩れなく詳報に努めてゐる。最近十一月の例會には貯蓄報國會をも併催し出席者一八五名、平岩常務理事より先月中の事務報告の後襲に開會せる全國工業組合大會狀況及地方出席者の當組合施設見學の實況映畫外三種の文化映畫を映寫一同觀賞し、次で貯蓄報國抽籤を執行し和氣藹々裡に閉會した。

尙ほ當組合の事業として注目すべきことは常に重要なる調査を行つてゐることで、十六年一月以降三月迄の特殊需要量調査及び鑄鋼品需要量調査が當面の懸案である。

日本石綿工業株式會社

【所在地】 蒲田區安方町二六八番地
【電　話】 蒲田三、八三九番
【營業項目】 國產優秀石綿採掘加工販賣特許
　　三光「テックス」製造販賣
【資本金】 拾　萬　圓
【拂込金】 全　　額
【決算期】 毎年十一月
【現在の役員】

代表取締役	本間重一郎
取締役	村上清
同	日根野弘勝
同	增山鐘太郎
監査役	橋本繁造
同	藤平喜三郎

【支店工場の所在地】

石綿工場	蒲田區安方町二六八番地
テックス工場	栃木縣矢板町字上町
營業所	日本橋區茅場所二ノ一六　清水ビル內

【沿革一斑】

當初、本間重一郎氏の個人營業として昭和十一年創始營業を開始したが、忽ち擴張の必要に迫られ同十四年十二月株式會社に變更擴大した、因に本間代表取締役の私宅は淀橋區百人町二ノ八七番地である。

元武宏之

【生年月日】 明治三十年六月十五日
【出身府縣】 兵庫縣加古郡加古川町木村
【原　籍】 右に同じ
【現住所】 芝區櫻川區二〇番地
【電　話】 芝四三六番　四三〇三番　二五九八番
【學　歷】 大阪高工機械科卒業
【經及現在職業】

株式會社三信商會　代表
株式會社齋藤鐵工所　取締役
東洋興產株式會社　取締役
信和興業株式會社　監査役

氏の經營する株式會社三信商會の事業は、次の如き三項目に分類せられてゐる。

一、化學機械部
　搾油、食料油、石鹼製造、グリセリン蒸餾、硬化油・油脂分解、眞空乾燥各裝置、オートクレーブ、耐酸各種ポンプ類
二、電氣化學部
　食鹽電解、苛性曹達、オスモーズ各種裝置、其他化學機械
三、特殊鋼部
　高速度鋼、磁鋼工具

以上がその概要であるが、工場を城東區北砂町八ノ一一七番地（電話本所三八四〇番）に設け、工場內の諸施設には間然するところなく完備してゐるのは云ふまでもない。

氏は今は壯齡の最高潮で、元氣橫溢たる活躍振りは將來の發展を豫告するものとして斯界注目の標的とされてゐる。

勢能體育工業株式會社

【所在地】目黒區柿ノ木坂八番地
【電　話】荏原　六、八二二番
【營業項目】體育用機械器具の製造販賣請負工事
體育館の設備、公園遊園地の設備
【資本金】八　萬　圓
【拂込金】全　　額
【現在の役員】社　長　勢　能　力　藏
專　務　勢　能　久　雄
取　締　役　山　元　光　雄
同　福　田　八　五　郎
監　査　役　勢　能　榮　一
【支店工場の所在地】第一工場　目黒區柿ノ木坂八番地
組立工場　目黒區柿ノ木坂九番地
精密機械部　目黒區上目黒五丁目
【沿革一斑】
創立明治四十一年と云へば三十餘年以前の由緒ある會社で當初、島取縣八頭郡用瀬町三八三番地で同番地に工場を設備して營業を開始したのである。爾來、逐年順調なる發展を透げたので愈々大正十五年に市内淀橋區大久保町に東京出張所を特設して帝都に進出、昭和六年には本店及工場を擧げて目黒區上目黒五丁目二五九一に移轉し同八年三月合資會社勢能一心堂商店に社名を變更同十年十二月株式會社に變更擴大、翌年十一月現地に移轉同十四年九月社名を現稱に變更して今日に至れるものである。製品の販路は六大都市を初め九州、四國、北海道、天津、上海、樺太、各官廳、各學校、各工場等各方面を網羅してゐる

昭和釀造工業株式會社

【所在地】向島區寺島町二丁目一一〇番地
【電　話】墨田　六、一三四番
【營業項目】清酢、ソース、釀造販賣、ビネガー
【資本金】十　五　萬　圓
【拂込金】七　萬　五　千　圓
【決算期】五月、十一月
【現在の役員】取締役社長　神田吉松
專務取締役　安井二雄
常務取締役　尼子三郎
取締役　安井敬七郎
監査役　尼子勝吉
【沿革一斑】
昭和十四年四月十七日を以て創立せられた爲め、沿革として多く語るべきものがなく、而かも工場内の諸設備に年餘を費して完備を急ぎ、翌十五年四月漸く竣功したので、營業を開始して以來未だ八ケ月に過ぎない。然し經營が非凡で製品が事變下の國民生活に必須缺くべからざる日用品であるだけに、忽ち隆盛を極め、販路の擴大と共に市場に於ける聲價は嘖々たるものがあり、將來の發展が今から豫測するに難くないのである。
製品中清酢は日本の傳統的味覺に、又ソースは洋風の眞味を發揮して孰れも食卓の王者ともいふべき優秀品揃ひであるから今後の活況こそ期待すべきである。

新興國策工業株式會社

【所在地】向島區寺島町四丁目一八八番地
【電　話】墨田　一、七一三番　三、一三九番
【營業項目】人造皮革、アルギン酸曹達、リンリコーム
合成樹脂、其他代用化學工業品
【資本金】二　百　萬　圓
【拂込金】壹百五拾萬圓
【決算期】五月、十一月
【現在の役員】取締役社長　原　安三郎
常務取締役　小林壯之助
取締役　宇治川良太
取締役　濱谷市十郎
同　安藤珍成
監査役　淺野修一
同　飯森梅男
同　渡邊信一
【支店工場の所在地】埼玉縣北足立郡朝霞大字根岸一〇〇
電　話　朝霞　五一一番
【沿革一斑】
社名が既に說明してゐる通り所謂新興會社で、共和レザー株式會社と同一系統であつて工場敷地二萬五千餘坪建坪三千坪の廣大なるもので近く竣工完備の豫定である。

桑澤ゴム株式會社

【所在地】瀧野川區瀧野川町二一八六番地
【電　話】大塚二五八四番　板橋九八四　一三四二番
【營業項目】工業用ゴムホース、產金用ゴムホース、其他各種ホース、航空機用部分品、自動車用部品其他、硬、軟テニスボール野球ボール、量水用部分品、工業用品一般
【資本金】參　拾　萬　圓
【拂込金】參　拾　萬　圓
【積立金】壹　萬　七　百　圓
【決算期】六　月
【前期配當】六　分
【現在の役員】社專務長　北桑
常務取締役　荻澤
同　取締役　山折
同　監査役　高澤忠辰松
桑島謙三吉雄
岡越芳實
田智英郎
孝次郎
【支店工場の所在地】大阪市南區大和町一九番地
大阪出張所　廣島市比治山本町一一七三番地
廣島出張所　京城府大島町三二番地
京城出張所
事變勃發するや、逸早く統制せられたのはゴムと皮革であつたが、それ程ゴムは時局に敏感であり、重要であるだけに、當社の使命も亦大なりと云はねばならぬ。

岩崎錄平

【生年月日】明治三十二年二月十一日
【出身府縣】靜岡縣
【原　籍】靜岡縣安倍郡美和村定久保一六六
【現住所】牛込區市ヶ谷仲之町四八番地
【電　話】牛込　七二六番　五一二四番
【學　歷】錦城中學卒業後早稻田大學政經學部科卒業
【經歷及現在職業】早大卒業後明治製糖株式會社入社、清水組を經て大阪小倉、アスファルト株式會社創立常務として經營、後株式會社日本放熱器製作所常務
現在高千穗工業所、愛國鑄物工業所設立經營中
【趣　味】旅行
【家　庭】

妻	久子	三十一歳
長光	九歳	
武彥	八歳	
正俊	二歳	

都の西北早稻田の森にと、萬餘の若き學徒が絶叫する早稻田大學が多くの人材を社會の各方面に提供してゐることはいふまでもないが、近來、特に工業界方面への進出目覺しいことは注目に値ひする處で、岩崎錄平氏の如きはこの新領域に於ける活躍の代表的一人と云つて差支へない。

元來靜岡縣人は事業家としての機略に富んでゐるが、氏はその例に洩れず將來新事業への活躍は刮目すべき處である。

東京タングステン株式會社

【所在地】京橋區新川町二丁目二番地
【電　話】京橋　四〇〇番
【營業項目】メタリツク、タングステン、メタリツクモリブデン　タングステン酸曹達、モリブデン酸曹達。
【資本金】十八萬圓
【現在の役員】

取締役社長	芳本　薫
取締役	高妻　福
同	島德太郎

【支店工場の所在地】
工場　葛飾區青砥町四丁目三三〇番地
電話　新宿五四一子
工場長　有澤芳松

營業の本據を都心たる京橋區に、又生產機關の工場を江東の東端に夫々內容の充實せる機械を有して本邦に於けるタングステン工樣界に重きを爲すものは即ち當社である。

當社は資本力に於て必ずしも巨額を誇らないが、よくこれを活用して製品の卓越性を遺憾なく發揮せるは、重役諸氏の經營宣しきに依るは勿論なるも、製作機關に直接參與し、生產勞務者の監督の任にある工場長の功績も亦決して見逃してはならぬ

即ち工場長有澤芳松氏は宮城縣の人明治三十四年生れ東北帝大工學部金屬科出身の新鋭で敏腕家の聲望高い。靜江夫人との間に二男一女がある。

昭和電工株式會社川崎機械工場長

山口瀧之助

【生年月日】明治二十二年二月二十三日
【出身府縣】佐賀市
【原　籍】世田谷區北澤三丁目八八八番地
【現住所】右に同じ
【電　話】松澤　二六六三番
【學　歷】佐賀工業學校機械部
【經歷及現在職業】芝浦製作所設計部　齋藤製作所設計部
電業社原動機製造所技師
昭和電工株式會社川崎機械工作所長
【趣　味】寫眞
【家　族】

妻	ノ	明治二十三年六月十六日生
長女	美奈子	大正三年六月五日生　他嫁
次女	美千奈子	大正五年十一月廿六日生　他嫁

流石に葉隱武士の本場たる佐賀の生れだけあつて、溫和の裡に稜々たる氣骨を有してゐるところは、剃下の時局に適合した工業人と云はねばならない。この獨特の性格が昭和電工株式會社の川崎機械工場長たる重責を完うし得る所以でもあり、又將來の發展性を多分に內包する强味でもある。

當社が現在のわが戰時產業界に重要なる一環をなす實情に鑑みるならば、氏の如き有爲の人材こそ缺くべからざる人的資材である。

殊に產業報國の運動が國家的な一つの機構にまで發展して重要視せられてゐる、現在では、工場長の職責は益々時局的色彩を多分に加味せられて來たのである。その意味で氏が昭和電工の川崎機械工場長として、渾身の努力を拂つてゐるのは推服に堪へない處である。

理研アルマイト工場長

今泉平吉

【生年月日】明治廿三年九月二十四日
【出身府縣】群馬縣
【原　籍】群馬縣勢多郡新野村大字大久保二五〇番地
【現住所】世田谷區玉川等々力町二ノ四七〇番地
【電　話】田園調布二七五六番
【學　歷】海軍機關學校卒業
【經歷及現在職業】
明治四十四年七月二十一日機關學校卒業
大正元年十二月　海軍機關少尉
昭和十年十一月十五日海軍機關大佐
同　十二月一日　豫備役被仰付
其の間驅逐艦朝潮機關長として青鳥封塞戰に從事、五十鈴、衣笠、足柄、長門、機關長、海兵團教官、工機學校教官、佐世保艦船部員、横須賀防備戰隊機關長を經て昭和十二年理研アルマイト工業株式會社東京工場長に就任現在に至る。
【趣　味】特になし　讀書、散步位
【家　族】妻　壽子　四男　二女あり。

所謂理研コンツエルンの一翼として重きをなしてゐるのが、理研アルマイト工業株式會社である。堀田正恒氏を會長に平沼覺治郎氏を社長に其他專務二人常務二人取締役四人及び監査二人の堂々たる重役陣を形成し、重要な東京工場長の椅子を占めてゐるのは即ち今泉氏で全く適材適所との噂は斯界に專らである。適材の要素には氏の人格美が種々擧げられるが、氏の既往の閱歷が說明してゐる通りで、流石に海軍々人出身の嚴格性と、胸宇に懷く脉々たる溫情味で、これが多くの職工から敬慕せられる大なる原因である。

株式會社 碌々商店製作部

【所在地】京橋區新佃島西町一丁目一番地
【電　話】京橋(56)五九二三番
【營業項目】工作機械製造業、旋盤ボール盤
【資本金】百萬圓
【拂込金】八十五萬圓
【前期配當】年一割
【現在の役員】
取締役社長　野田正一
專務取締役　中根勵爾
取締役　塚原
監査役　難波又三郎
【支店工場の所在地】
支店　大阪、札幌
出張所　呉、小倉
工場　京橋、深川、本所、蒲田

苟くも機械工具類を語る者で、碌々商店の盛名を知らないものはなからう。それ程當店の存在は偉大で業勢の伸展してゐることも市場に於ける信用も亦絶對的である。

取扱ふところの製品は各種の機械類に及んでゐるが、就中當店の眞價を決定的ならしめてゐるものは工作機械、旋盤、ボール盤等であるが、これ等の優秀なる技術や性能の素晴しさに至つては他に多く追隨を見ないところと云はれてゐる。古い沿革と新しい創造的技術、耐久力と廉價とは特色中の特色である。

【沿革一斑】

創業明治三十四年といふ由緒ある沿革を有し、都下の老舗中でも異色を放つてゐるのは當店である。

殊に時計は日本の文明開化を促進する上に大なる役割を持つてゐたことは、明治文化史上明かな處であつて、當店の文化史的功績は決して尠くないと云つてよい、その意味に於て創業以來四十餘年に達する當社の發展過程は單に當店の過去を飾るばかりでなく、明治文化の側面史を形成する重要資料であつて、精巧々緻なる技術に於ては市場既に定評がある。

株式會社吉田時計店

【所在地】下谷區上野元黒門町一二
【電　話】下谷一一五一—六番
【營業項目】時計製造卸、各種精密機械
【資本金】二百五十萬圓
【拂込金】全額
【現在の役員】
取締役社長　吉田庄五郎
取締役　木島倉造
同　佐藤健三
同　吉田壽太郎
監査役　吉田ヒデ
【支店工場の所在地】
大阪、府下日野
姉妹會社工場　埼玉縣上尾、東洋時計

【沿革一斑】

創業明治三十四年といふ由緒ある沿革を有し、都下の老舗中でも異色を放つてゐるのは當店である。

殊に時計は日本の文明開化を促進する上に大なる役割を持つてゐたことは、明治文化史上明かな處であつて、當店の文化史的功績は決して尠くないと云つてよい、その意味に於て創業以來四十餘年に達する當社の發展過程は單に當店の過去を飾るばかりでなく、明治文化の側面史を形成する重要資料であつて、精巧々緻なる技術に於ては市場既に定評がある。

愛國紙器工業株式會社

【所在地】小石川區戸崎町八八番地
【電　話】小石川(85)五〇四八番
【營業項目】紙製チウブ
【現在の役員】取締役社長　福田晉治
【支店工場の所在地】
小石川工場　小石川區久堅町七四番地
電話　小石川　二六八番

【沿革一斑】

日本に於ける製紙技術は年と共に益々精巧を極めつゝあるのは周知の通りであつて、單に技術の巧緻を誇るばかりでなくその應用範圍、派生的利用範圍が漸次各方面に擴大せられて來たことも大に注目すべき特色と云はねばならない、

このわが製紙技術の發達を考察する場合に、決して忘れてはならぬものはこの愛國紙器工業株式會社の製品である。

云ふまでもなく今日市場に流布せられてゐる各種の紙器は、その種類に於てもその數量に於ても決して尠くないが、强靱なる耐久力を有し效用價値の優良なる當社特製の紙製チウブの如きは、市場に悠々濶歩する偉觀を呈してゐるのである。

然らば何故斯くの如き市場に壓倒を獨占する盛況を獲得したかといふに、經營主體者の良心的營業方針と、所謂産業報國的經營の成果であると云ひ得やう。現に當社の紙製チウブは商工省より國策代表品中の優良品として推稱せられてゐる逸品である。

社長福田晉治氏は溫厚篤實といふと平凡なる性格の持主の如く聞えるが、溫情の中に一片稜々たる氣骨があり現に堀内製紙の常務をも兼務する活動家である。

株式會社東京アメリカ商會

【所在地】芝區田村町三丁目一ノ三
【電　話】芝三八三番　八〇二番
【營業項目】自動車取替部分品、附屬品及び修理機械用工具
【資本金】拾五萬圓
【拂込金】全額拂込
【決算期】五月、十一月
【前期配當】二割
【現在の役員】
代表取締役　野田豊太郎
取締役　江南宗太郎
同　中村信治郎
監査役　人見稜威夫
【支店工場の所在地】
大阪市、名古屋市、北京、天津

路上の王者たる自動車が、近來益々日本の交通界を支配するに至つたことは何人も否定すべからざる事實であつて、從つて製作技術の進歩の著しいことは驚嘆に値ひするところである。

殊に部分品の製作技師の卓越せることは特記すべきで、就中當社の製品が他の製品を壓倒して市場に嘖々の好評を博してゐることは、全く經營者の非凡なる營業方針に基くものと云ひ得る、こゝに當社の豊かな將來性が潜在する。

根岸福太郎

【生年月日】 大正二年三月五日
【出身府縣】 東京府
【原籍】 日本橋區蠣殼町二ノ一六
【現住所】 右に同し
【電話】 茅場町 七八〇番
【學歴】 府立第一商業學校
【經歴及現在職業】 創業 天明三年 六代目表具師
【趣味】 音樂
【家庭】 弟 清次郎 二十五歳 出征中
清子 二十五歳 壽子 二歳

創業は江戸時代の天明三年といふ記錄的由緒を有してゐる當家は、老舗の尠くない東京でも恐らく屈指の老舗であらう、而かも當主は六代目を繼いでゐる少壯氣鋭の人物だけに、この古き家歴にこの新人を戴くことは、正に對照の妙と云ひ得るであらう。

云ふまでもなく表具師は都下に夥しいが、その技術が元來日本趣味に依つて胚胎發達せるものである丈けに、何れも練磨と巧緻なる技巧とを必要とする關係上、眞に其の眞價を遺憾なく發揮してゐるものを求めたならば決して多いとは云ひ得ない。當家はその稀なるものゝ隨一であり、代表的の裝潢師と云つてよい。加ふるにこの日本趣味を基調とする技術が、直接間接、日本精神の昂揚と保持とに與つて力あることは強調すべきであらう。

小川富士男

【生年月日】 明治三十五年二月十二日
【出身府縣】 福岡縣嘉穗郡穎田村
【現住所】 市川市市川
【電話】 市川 四〇〇番
【學歴】 早稲田大學商科卒業
【經歴及現在職業】
葛飾瓦斯株式會社 常務
東京コークス株式會社 常務
丸鐵工所 取締役
三光工業株式會社 社長
日本汽罐製造株式會社 監査役
【趣味】 スポーツ、宗教、禪宗
【家庭】
妻 淑子 明治四十年生 御茶水高女卒
長男 和伸 昭和二年生
次男 昭久 昭和五年生
長女 澄江 昭和七年生
二女 須代 昭和十一年生

私學の雄早稲田大學が、社會の各方面に幾多の人材を輩出してゐることは多言を要しないであらう。

本欄の主人公も亦この學園の特色を發揮する一人で、同校の商科卒業後に於ける氏の華々しい活躍振りは到底凡人の企て及ぶところでなく、少壯の意旺んに才腕又冴えある氏の將來に於ける發展的領域こそ刮目すべきであらうと思ふ。

大石主計

【生年月日】 明治三十年一月
【出身府縣】 靜岡縣磐田郡上淺羽村諸井一、〇七一
【現住所】 横濱市神奈川區澤渡四八
【電話】 神奈川 二、八七八番
【學歴】 東京帝國大學工學部電氣科、大正十一年卒業
【經歴及現在職業】 東京電燈株式會社配電係長
日本橋營業所長 現在 横濱支店長
【家族】 委子（妻 卅九歳）
哲太郎（長男 十六歳 東京府立四中）
秀馬（次男 十四歳 神奈川縣立二中）
俊子（長女 十三歳 尋常六年）

帝都の電燈、電力を殆んど壓倒的に支配する東電の使命は、市民の日常生活との關係は極めて重大であるのは云ふまでもない。

從つてその運營機關の重要ポストに在る人材に、嚴格なる人物銓衡を行ふのは當然で、現在、當社横濱支店長大石主計氏の人物、手腕、力量の凡庸ならざるはおのづから推測し得るであらう。氏は靜岡縣の人物明治三十年生れ東大出身の秀才で委子夫人との間に二男一女がある。

堀内製紙株式會社

【所在地】 小石川區氷川下町三〇番地
【電話】 大塚 一〇一九番 一七五八番
【營業項目】 製紙業、キレー紙、半紙、障子紙、塵紙、トイレットペーパー、コッピー紙、紐紙、厚紙、防水紙、防火紙
【資本金】 百九十五萬圓
【拂込金】 全額
【積立金】 二十萬圓
【決算期】 六月、十二月
【前期配當】 一割五分
【現在の役員】 社長 堀内壽太郎
常務 福田晋治
取締役 工場長 宮崎龜之助
取締役 小泉新之助
監査役 岩月地和之助

【沿革一斑】

創業明治二十一年と云へば正に營業開始以來五十三年の貴い史的記錄の保持者で、この老舗たる過去の沿革は無言に製品の卓越性を物語つてゐると見て差支ない。

元來、日本紙の需要はわが國民の生活樣式が漸次洋風化して來たとは云へ、漸次增加しつゝある現狀に鑑みて最も重視すべき生產品と云はねばならない。從つて本邦に於ける家庭用紙の專門的製造に半世紀に亘る永い經驗と技術の練磨を有する當社の眞價は絶大である。

電陽社　浮谷仁康

【現住所】市川市市川新田一一一
【電　話】六七九番　九〇六番
【營業項目】京成電氣軌道株式會社工事委託店
渡良瀬電氣株式會社工事委託店
常陽電氣株式會社工事委託店
電氣内外線工事設計請負、變電所設計請負、電動機發電機配電盤修理販賣、電氣瓦斯水道材料器具販賣。

【趣　味】俳　句

帝都の東郊を扼する市川市の事業を談じ、市政自治を論ずる者は、斷じて忘れてはならない人物がある。

それは抑も何人かと云へば、電陽社の浮谷仁康氏が即ちそれだ、率直に云へば市川市の業界自治界を通じて、代表的な地位を占めてゐるものと云つて差支へあるまい。

生來、趣味性に富み、事業の電氣業と凡そ緣遠いと思はれる俳句に長じ、感吟名句を吐いて同好者間に於ける宗匠株であるなど、誠に氏の完成せられた人格美を立證するものと云ひ得るであらう。

實はタイトルの浮谷仁康とは後日の姓名であつて、本名は浮谷元吉と呼ぶのである。事業に熱心で、風韻を愛する氏は發展を希ふ爲めに、戸籍名の「元吉」を改めて現在常に慣用してゐる「仁康」と改めたものである。

前項に掲出して置いた營業種目に在る通り、各種の電氣工事器具類を營み、京成電軌及び渡良瀬電氣二大會社の委託店であることは、無言に氏の厚い信用を裏書きするものであると看做してよい。

淺井辰三郎

【生年月日】明治元年三月十三日
【出身府縣】福　岡　縣
【現住所】葛飾區本田若宮町二ノ七五
【電　話】墨田　二〇〇三番
【經歷及現在職業】日本製紐株式會社々長
【趣　味】宗教、碁
【家　庭】妻　げん　長男　衛　二男　三女あり

福島縣下の名門の人として、明治元年三月十三日に生誕した本年は古稀以上の老齢に在りながら、尙ほ嬰鍔として壯者を凌ぐ元氣振りは、氏の心身兩面に亘つて非凡であることを裏書きするものだ。

少年時代に專ら經學を研究し、造詣するところ甚だ深いものがあり、稍々長ずるに及んで將來の志を工業界に舒べんと固い決意をかためたものである。

爾來、幾多の多彩な經歷を重ねて今日の地位をかち得るに至つたものであるが、その間、即ち明治二十八年の交に初めて日本製紐會社に入社して以來、渾身の能力を斯界に傾注し、大正四年には遂に現位を占め、遂に今日に至つたので、同社の發展に貢獻するところ甚だ大なるものがある。

叙上の如き豊かなる經歷の持主であるから、斯界に扶殖した勢力と信用とは、實に驚くべきもので、現在、東京織物製造組合理事長に推されてゐるのを初め、その他業界に於て各種の要位を占め嘖々たる令名を馳せてゐる。

山本電機株式會社

【所在地】目黑區向原町二ノ二四七番地
【電　話】荏原(08)三三五六番
【營業項目】有線無線通信機製造販賣
【資本金】七萬五千圓
【決算期】十二月一回
【現在の役員】
社　長　山　本　正　雄

【沿革一斑】

その組織は株式會社であるが、事業は山本氏の個人的事業と云つても差支へないほど、當社の事業は即山本家の事業と云ひ得るものである。

大正元年十一月二十日を以て生れた氏は、學修を卒へると父君の業たる現業に携はるに先立つて、北總電氣會社に勤務し專ら技術の練磨に努めた。この勤務期間に於ける氏の苦心と、尋い體驗とは今日の成功を收める上に、尠からざる推進力となり、基調となつたことは說明するまでもなからうと思ふ。

素より永く他の支配下に在つて、雌伏することを潔しとする氏ではない。機會あらば、起ち上つて自ら事業の采配を振はうと、私かに時期の到來を待望してゐたのである果然機會は到來した時は昭和六年である。奮起發祥の場所は荏原區である。愈々現業たる有線、無線の通信機の製造を初めたのである。

創業以來の氏の奮鬪振りは、正に目覺しい限りであつた。朝早く夜晩く、懸命になつて努力した効果は果然その好成績を收めたので、忽ち營業所の狹隘を告げたので、新たに現地を物色してこれに營業所並に工場等を一切新築して移轉大擴張したのは、創立以來、僅々二年後の昭和八年であつた。

叙上の如き飛躍的な成績に徵して見ても、氏の敏腕と、非凡なる活躍とが凡そ想像し得られるところであらう。

氏は大正元年の生れと云へば未だ三十歲に達せざる少壯の工業家である。眞にその本領を發揮するのは寧ろ今後であると云はねばならない。從つて氏が社長として、事業一切を操つてゐる當社の將來は極めて多望であり、多彩であると云つても、決して過褒の言ではあるまいと信ずるのである。

こゝに於て氏の幼少時代の過去を回想して見るならば、氏は疾くより嚴父に死別したことは、勿論、この上ない不幸であるが、然し今日の氏の成功を見るにつけても、天はこの薄倖兒に對して、一つの試煉を與へたものと看做し得ると思ふのである。何となれば、嚴父の物故以來に於ける氏の奮勵振りは一段と生彩を加へ來つたからで、その成果が遂に氏をして今日あらしむるに至つたものである。

斯く觀じ來たると、氏の將來は益々多角的となり、輝しい生彩を放つであらうと信ずる。

時局の進展に即應すべく先年事業を株式會社に改組擴大すると同時に、自ら社長の椅子に据つたものである。

現在、家庭には母堂ヨシさん(五〇)が健在であり、令閨貞代さん(二六)は貞淑の譽高く長男久信君(二)をあげ一家頗る圓滿である。

都金鋼製作所主

伊藤友健

【生年月日】明治三十年
【出身府縣】千葉縣
【現住所】本所區龜戸五丁目二〇五番地
【電話】墨田一九八二番
【營業項目】金網製造業
【經歷】

刻下一億國民の合言葉たる職域奉公とか、臣道實踐とかいふ内容そのものは、決して新體制が叫ばれ出した今日の創造せられたものではない。日本の肇國以來脉々として流れ來つたわが國民の傳統的精神である。

然し、これが今更ら事新しく絶叫せられて來た所以は、國内情勢が國際關係に即應すべく極めて窮迫し來つたからで國内體制の統一と整備との必要に驅られて、强調せられ來たつたものであるが、眞に國家的觀念を抱き、皇室中心の思想に生き來つたものならば、既に今次の新體制運動の叫ばれない以前から、身を以てこれを實踐し來つたところである。

こゝに略歷を點描せんとする伊藤友健氏などは、正にこの意味に於ける先蹤者であり職域奉公の實踐家と云つてよい。

最近即ち昭和十五年十一月施行せられた都市新市域の區會議員選擧に際して、氏は城東區より堂々と名乘りをあげ、堂々と大捷を博し、堂々と區政の新體制化に率先活躍の火蓋を切つたが、これは氏が年來自個の職業を通じて公共の爲めに進んでは直接間接國家の爲めに職域奉公を實踐し來つた爲めばかりでなく烈々たる愛國心と、切々人を化する隣保相扶の精神との成果に依るものと見るべきであらうと思ふ。

現に氏は城東區區會議員の新鋭として區政の爲めに盡瘁しつゝある。闘士である多年養ひ來つた氏の自治區政に對する經綸、識見は、現在愈々實行に移されつゝあるのであつて、氏が敢て區會議員に出馬した眞意は、決して他の徒らに名譽慾に驅られた、平々凡々たる區會議員と袋を一つにしたものではない。眞に職業を通じて、區政の爲め國家の爲めに身を挺して働かう、奉公しやうといふ淸い奉公心の發露に外ならない。

偖てこゝで氏の過去に於ける略歷を顧みて、更らに將來に於ける活躍に期待することとしよう。

氏の略歷

一、龜戸五丁目町會長
一、在鄕軍人會第五班後援會々長
一、龜戸青年學校後援會副會長
一、東京市國民精神總動員龜戸五丁目實踐委員長
一、東京府國民貯蓄奬勵委員
一、龜戸町五丁目東部國民貯蓄組合長
一、東京金物同業組合東京金網聯合會長
一、東京金物同業組合物價協力委員
一、東京金網商工業組合理事
一、香取神社氏子總代
一、大嶽山　大瀧山東京内陣講々元
一、成田山　不動尊城東不動講々元
一、笠間稻荷東京神親講副講元
一、西新井大師世話係
一、亀戸不動教會信徒總代

高橋光隆

【生年月日】明治十六年四月二十三日
【出身府縣】福島縣若松市
【原籍】右に同じ
【現住所】青森市莱陽路五十七號
【學歷】東京高等工業學校電氣科
米國イリノイ州立大學電氣科
【現職】謄澳電氣股份公司副董事長
外に山東起業會社取締役、青島商工會議所常議員
【趣味】園藝、ゴルフ、謠曲
【家庭】妻　晃子　四十六歳
長男　精一　十七歳
長女　和子
【經歷】

史蹟に富む福島縣若松市からは、古今を通じて多くの人材を輩出してゐる。既往の史的人的は姑く措いて、現代の活社會に令名を馳せてゐるもののみを求めても決して尠くない。

現に大陸を活舞臺として、東亞經濟の確立と日支提携を身を以て實踐しつゝある高橋光隆氏は、その代表的人物の一人と看做して差支へあるまい。

明治十六年四月二十三日を以て福島縣若松市の名門家に生れた氏は、學序を追ふて進み、現在の東京工業大學の前身たる當時の東京高等工業學校に入學した當時は同校第一次の校長としてその創始者たるばかりでなく、本邦工業教育の殊勳者たる手島精一先生が、この誇るべき學燈を高々と翳してゐた當時であつて、氏は先生より親しく教育薫陶せられた一人であつた。

所謂この「藏前」の校門を出ると最初に入社したのは古河鑛業會社日光電氣精銅所であつた。次で日光電氣軌道會社の技師長に拔擢せられ、同社の發展に貢獻するところは甚だ尠くなかつた。

然し進取的な氏は、決してそれを以て滿足しなかつた。敢然、渡米して最近科學の研究に努めんと、米國イリノイ州立大學電氣科に入學した。そして專心電氣學の專門的研究に汲頭したのであるが、碧眼者流の中に伍して彼等に驚異の眼を瞠らしめるほどの優良なる成績を收めて卒業すると、この新知識を齎して歸朝したのである。

大正三年、三井物産株式會社に入社したが、同八年には中國工商株式會社常務取締役に就任して愈々氏の大陸的活躍の幕が切つて落されたのである。

越えて大正十二年には謄澳電氣股份有限公司の常務董事に就任したので、それ以來氏の實業家としての眞價は遺憾なく發揮せられ、北支中支を舞臺とする活躍は實に目覺しいものであつた。次で同公司の副董事長となり現在に至つたものである。

尙ほ活動的な氏は、餘力を山東起業會長取締役、青島商工會議所常議員を兼任し、縱横にその敏腕を揮つてゐるところ流石にその教養と天禀の然らしむる所以と云はざるを得ない。

今や支那事變の進展に鑑みて、大陸にこの先蹤的業績を收めた氏の先見の明に敬服せざるを得ない。

趣味は園藝、ゴルフ、謠曲等甚だ多角的である。

山田政藏

【生年月日】明治三十三年九月七日
【出身府縣】靜岡縣
【原　籍】熱海市熱海八六九ノ一
【現住所】本所區東兩國三ノ三二
【電　話】本所　三三八八番
【學　歴】慶應義塾商業部卒業
【經歴及現在職業】
昭和三年創業、銅鐵諸機械工具商

由來靜岡縣人の特色は堅忍不拔の强いことを、胸中に脉々たる溫情を湛へてゐることである。

本所の東兩國の一角に、堂々たる店舗を構え、銅鐵諸機械工具商を營んで盛業四隣を壓する概ある山田政藏氏は、この靜岡縣人特徴を遺憾なく發揮してゐると見て差支へない。

日本屈指の湯の町、風光明媚に惠まれた湘南の名勝の地たる熱海の人であつてこの天然の風光に育まれた氏の人格が溫順であり人情美の濃やかなことは自然が及ぼす影響の尠くないことはこれに依つて見ても首肯せられると思ふ。

鄕里に於て小學校を卒へると上京して慶應義塾の商業部に入學し、專ら商工學の修業に勉勵して常に級中の優等生を以て終始し、優良なる成績を收めて卒業したが、直に斯界の人となつて專念その商業の秘訣の體得に努めたのである。性來明晰なる頭腦の持主である氏は忽ちその秘奥を探求することが出來たのである。こゝに於て氏は愈々獨立して一家を成さんと徐ろにその機會の到來を待望措かなかつた。

昭和三年、遂にその好機會に惠まれたのである。先づ營業發祥の地を何處に選ぶかと嚴選した結果、江東こそ格好最適の地として東兩國三の三二の現地に決定したのである。

現地に店舗を愈々決定して、創業した氏の活躍振りは涙ぐましいほど懸命であり研究的であり、進取的であつた。故に多くの期日を待たずして着々と繁榮の途を一路邁進したのである。然しその背後にある並々ならぬ苦心を決して見逃がしてはならない。そして氏の略歴を書く者に執つてこの氏の準備時代が最も興趣のある一頁と見るべきであらう。

爾來、今日まで實に十二年の貴い年月を重ねたのである。氏の事業は益々基礎を强固にし、對社會の信用が高まり、市場に於ける製品の壓價はこれ亦向上したのはいふまでもない。

今日本所は勿論江東一圓に亘つて同種同業の店舗は決して尠くない。然し山田政藏氏の事業の如く堅實で躍進的氣運の溢れてゐるものは、恐らく他に多く類を見ないであらうと思ふ。何となれば氏は多くの店員を督勵し、自ら業務の第一線に起つて奮勵してゐる勤勉の態度は、見る者に一種の感激を與へずにはおかないからである。

氏は未だ四十になるかならぬの壯者である。男子としての本統の活躍は實に將來に期待せらるべきであるからで、殊に常に小成に安んざる氏の果敢なる性格は決して現在の業勢に停滯する筈がないからである。

竹久豊市

【生年月日】明治三十五年二月二十日
【出身府縣】岡　山　縣
【現住所】名古屋市東區布施町三二
【學　歴】明大法科卒
【經歴及現在職業】
日本陶器工業組合聯合會專務總理事
【趣　味】スポーツ、讀書
【家　庭】妻　尙子（明治二十九年）
長女　彌生　二女　禮子　二男　徹

日本の陶磁器は、單に日本內地に於ける陶磁器でなく世界の陶器であり磁器であることは何人も認むる處である。

と同時に、名古屋の陶器は即ち日本の陶器であると斷じても、必ずしも過言ではあるまいと思ふ。それほど名古屋は日本陶器の本場であり中樞であることは、これ又萬人周知の通りである。一言で云へば名古屋は日本陶器のメッカといふべく、その製作の年產額の夥しいことは實に驚嘆に値ひするところと云はざるを得ない。

斯くの如く名古屋に於ける陶器製作の振否は、啻に名古屋產業の消長を物語るばかりでなく、實に日本の對外陶器輸出の趨勢を支配することは云ふまでもないのであるから、同地方一圓に大小集中する陶器工業者の統一統制が必要であることはこれ又多く說明を俟たずして明かなところである。

この意味に應へて設立せられたものは名古屋陶器工業組合であり、更らにそれを國家的見地から、わが對外貿易の振興の立場から總括せられたのが即ち聯合會である。從つてその聯合會の專務理事の重責こそ國家的であると云つても敢て奇矯の言ではないのである。竹久豊市氏の人物、手腕、更らに同業者間に於ける信用聲望の凡庸ならざるは、何人も推知し得るところと信ずる。

岡山縣士族の名裔を享けて明治二十五年二月生れた氏は、明治大學法科に學んで大正三年優秀なる成績を以て卒業すると、直ちに實業界に活躍の第一歩を踏み出したのである。

當初、神戸の瀧川義作氏の事業に參與し、同氏の片腕となつて華々しい活動を展開して大に貢献するところがあつた。獨立した今日でも尙ほ同氏の事業に關與し、滿洲方面の大陸開發の產業に一臂の勞を割いてゐることを附記せねばならない。

爾來活躍の本據を專ら名古屋に置き、逐年その勢力を扶殖し、着々信用を高め來たつたのであるが、昭和十一年に至つて愈々現職に推戴せられ、名古屋陶器工業の統制と進步の爲めに挺身努力し、牢記すべき多くの功績を樹てゝゐるのである。尙ほこの外に餘力を割いて各種大會の重役に就任し、縱橫に敏腕を揮つて中京實業界に嘖々たる令名を馳せてゐるが精力の絕倫なるは驚くばかりである。

趣味はスポーツと讀書とであることから見ても、氏は精神的修養と肉體の鍛錬に注意を拂つてゐることが、これに依つても推測し得るであらう。尙子夫人は同縣人角南作造氏の二女で縣立林野高女出身の才媛であり、家政に努め令息令孃の養育に細心の注意を拂つてゐるが、趣味も亦近代的で教養に富んでゐる好配である。

石田新一郎

【生年月日】 明治二十年五月十一日
【出身府縣】 松本市
【現住所】 名古屋市昭和區廣島町五ノ五四
【學歷】 明治四十五年東大電氣科卒
【經歷及現在職業】 矢作水力取締役
【趣味】 俳句、スポーツ
【家庭】 妻 秀子 明治二六年九月生 五男 五女あり。

中京の財界を論じ、中京の電氣業界を語る者は、黙じて見逃がしてはならぬ巨擘がある。本欄の主人公石田新一郎氏は即ちその人である。

明治二十年五月十一日、北信一圓屈指の名門にして松本市の人望家に生を享け少年時代から既に伶悧、頴敏の譽が高かつた。俗にいふ旃檀は双葉より馨しの譬の通り、氏は疾くもその鋭鋒を現はしたのである。

鄉里の中學校より高等學校と順次進學し、東京帝國大學に入學、拔群の成績を收めてその電氣學科を卒業したのは明治四十五年であつた。

それ以來、實業界の人となつて東西に活躍し、漸次、その地歩を進め來つたものであるが、中京を活躍舞臺の本據として以來は、一層その華々しさを加へ、矢作水力株式會社の取締役に就任し、遂に中京電業界の大立物となり今日に至つたものである。

今やわが電氣業界は、國家の戰業體制の强化に伴れて、益々その統制と機構の整備に重點を置くことは、何人も熟知せる通りであるが、わが矢作水電の使命は單に中京を中心とする東海一體の地域を支配するばかりでなく、實に國家を背景とする電業問題に聯關するものと云はざるを得ない。

從つて同社の重椅に在る石田氏の責任も亦重且つ大なりと云はざるを得ないのである。

氏は本年漸く五十臺を出たばかりの壯氣橫溢たる活動期に在るのである。この壯齡と、天賦の頴智と、豊富なる學殖の三拍子揃つた强味は、今後那邊にまでその眞價を發揮するか、殆んど豫測すべからざる處と云つてよい。

元來、わが國は山國である地形の關係上、水力電氣には頗る惠まれてゐる國柄であつて、これが事業の振否は汎く國家産業の消長に係り、國力の隆替を左右するものと見るべきである。故に民間の各會社は、單に私利私益のみに囚はれず、所謂、公益優先と云ふ國家的立場に立脚して、それを經營し、それを企畫運營すべきであるが、在來の實情は必ずしも然りとは云ひ得ない狀態に在つたのである。

然し、中京を舞臺とする矢作水力が斯る實情に介在しながら、常に電氣業の國家的意義を自覺し、それが昂揚を以て社是として終始渝らざる營業方針を堅持し來つたことは、實に特記に値ひするものであるが、その背後に、わが石田氏の存在することを決して見逃がしてはならぬと思ふ。

斯る意味に於て、石田氏の功績は甚だ大なるものがあり、且又、今後に於ける氏の活躍に期待するところ尠くないのである。

永友義啓

【生年月日】 明治三十五年八月二十八日
【出身府縣】 宮崎縣
【原籍】 右に同じ
【現住所】 芝區赤羽町四
【電話】 三田 七五八 三四四〇 三四四一番
【經歷及現在職業】 昭和十四年東京研磨材工業所を創む
【趣味】 眞宗、スポーツ
【家庭】 妻 房子 共立女子專卒 長男 幸啓、二男 邦明、長女 啓子

今年はいふまでもなく皇紀二千六百年祝典の年であるが、その遠き發祥を按するに九州の聖地がその根源となるべきもので、その佳き歳に、宮城縣人中の新進異彩ある人物を評傳することは、そこに何か一脉の聯關性を感ぜざるを得ないのである。

その新人とは抑も何人か、即ちこゝに略傳を草せんとする永友義啓氏その人である。明治三十五年八月二十八日を以て宮城縣士族永友平三郎氏の二男として生れた氏は、鄉里に在つて學修を卒へると疾くも實業界に雄志をのべんと志し、當初、日洲銀行に勤務したのである。然るに將來工業方面に活躍の進路を轉向せんとの考から、決然として飜意し、昭和二年に吳製砥會社に轉じたのである。これが氏をして今日在らしむる機緣となつたのである。

同社に精勵すること前後三ヶ年に及びその間にその才幹を認められて拔擢せられ、同五年には同社の東京出張所に轉任したのである。

爾來、驟命の努力を注いで斯業の研究と、商機の動向とに留意して識見を養ひ技能を練磨し、他日の獨立に備へるところがあつたのである。果然、時機は到來した。即ち昭和十四年愈々獨立獨行、現業を創始したものである。

即ちこの東京研磨材工業所はそれであつて、創設以來、僅々一年にしか過ぎないが、その短時日に反比例して著しい發展を遂げたことは、これ全く所主永友氏の奮闘努力の結果と見るべきであらうと思ふのである。

現に營業の本據を芝區赤羽町三番地に構へてゐるが、工場を市内世田谷區新町三丁目五二四番地（電話世田谷三六〇八番）に特設し、營業所と相呼應して連絡の敏活を圖り、運營の圓滑と迅速とを期してゐるが、將來への發展性はこの機構の整然たる裡にも存在してゐるものと見て差支へない。

飜つて現下のわが國内の諸情勢に眼を轉じたならば、事變の進展と國際的複雜化とに順應すべく、凡ゆる機構の再檢討と再組織とが叫ばれつゝある現狀であるが、當所の如き特殊なる研磨工業と雖も當然、斯る統制化の一翼となるべきであつて、氏の如き現段階に於ける世界情勢に對しの活眼を放つて、産業報國の愛國心に燃える新人に對しては、吾人は全幅の信頼と期待とを寄せざるを得ないのである。

從つて、氏の事業の將來に對して、單に個人的發展を遂げることは、何等疑ふ餘地がないと同時に、公益的にもその果敢なる發展は想像するに難くあるまいと信ずる。

泰東精螺工業株式會社

【所在地】千葉縣松戸町上矢切
【電　話】松戸　二〇九番
【營業項目】
螺旋鋲、一般製造販賣、精密機械工具製造販賣、木捻子(鐵及眞鍮共)糸捻子、ナット、ベルト、航空機及自動用精密螺子。
【資本金】拾五萬圓
【現在の役員】
取締役社長　高津啓爾
取締役副社長　船津新平
專務取締役　稻葉吉次
取締役　高津正義
同　人見平次郎
監査役　内藤正儀
同　關根錦衛
【沿革一斑】
日本に於ける螺子工業界の最高峰を占めてゐる當社は、謂はゞ日本全工業の發達を推進する原動力と看做していゝであらう。
一體、當社が主力を注いで製作に專念してゐる螺子は、大正七八年の頃から高津社長が專門的に學理上と實際上から研究に研究を重ね來つたものであるだけにその精巧精緻なることゝ、性能の著しいことと、更に耐久力の强い、永久性を持つてゐることは、全く他に比類を見ない當社獨特の美點であつて、現在本邦工業界に寄與するところ尠くないのは、荀くも業界に一隻眼を有する者の皆均しく認識するところである。
斯くの如く高津社長の過去に於ける苦心と研究とは、單に當社の發展を招來したばかりでなく、汎く本邦工業界の進歩發展に及ぼした好影響は、玆に特筆すべきであらうと思ふ。
抑も高津社長は明治二十五年八月三十日を以て、土地の名家で信望家である高津八郎氏の五男として富山市總曲輪町に於て生れたのである。
少年時代から雄圖を抱く氏は上京して開成中學校に學び優良なる成績を以て卒業すると、疾くも實業界に活躍せんと斯業界に身を投じたのである。
當初、東京螺旋鋲株式會社に入社したのであるが、忽ちその天賦の才幹を認められ、重役諸氏の厚い信頼を蒙つた。そして順次上進して遂に工場長に拔擢せられたのである。
この工場長時代に於ける氏の獻身的な熱心さは、當時を知れる者の一人として推服措かざるところであつて、現在、尙ほ好話柄とされてゐる程であつて、今日それが氏の個人的眞價を昂め且又會社の發展に寄與するところとなつたことは云ふまでもない所だ。
然し斯くの如き進取的であり、研究的な氏であるから、獨立獨行の機會を待望してゐたことは當然で、徐ろにその機會の到來を窺つてゐたのである。
果して數年後にはその好機に惠まれるに至つた、即ち大正十四年の奮起創業がそれである。爾來、今日まで實に十有六年の歲月を閲してゐるが、その間にも不斷の研究と努力とを續けてゐるから製品の卓越性に至つては斯界を曉しうする概がある。尙ほ高津社長の外船津副社長外各重役諸氏の協力一致は、將來の發展に盤石の重きを加へてゐる。

古川吉

【生年月日】明治四十一年十一月十八日
【出身府縣】千葉縣勝浦町
【原　籍】右に局じ
【現住所】芝區白金三光町九九
【電　話】高輪　二九一二番
【現在職業】
始動電動機齒車、自動車部分品一式製作
【趣　味】寫眞、旅行
【家　庭】妻キヨ子　明治四十四年
【經　歷】
千葉縣の人江澤岩吉氏の長男として勝浦町に於て明治四十一年十一月十八日呱々の聲をあげ、その後、古川家を興してその姓を冒したものである。
鄕里に在つて學修を卒へると、果敢なる性格の持主たる氏は、將來、工業界に雄飛せんとの固い決意を固め、疾くより江澤製作所に勤務したのである。そして他の同僚が徒らに給料の爲めのみに終始して、偸安に汲々たる間にも、未來に大望を懷いてゐる氏は、僅少の時間と雖もこれを惜んで研究と練磨とに努力したのである。
斯る奮鬪振りは、諺にいふ艱難辛苦汝を玉にすとの言葉通り、氏をして今日の地位を獲得せしめたのである。
この生きた。尊い氏の閲歷は、啻に今日の地盤を獲得せしめたばかりでなく、進んで將來への發展性をも胚胎するものと云ふべきであらう。
現在、氏が主力を注いでゐる始動電動機齒車、自動車部分品等の卓越した技術に至つては實際、文字通り特筆すべきもので、精巧で、性能が豊かで、而かも耐久力に富んでゐることは、市内に同業多しと雖も容易に匹敵するものを知らない有樣である。
然らは、斯くの如き隆々他を壓する聲價と、發展と牢固たる地盤とは抑も何に依つて來たるかと云へば、一に氏の人格美の現はれと、良心なる態度とに依るものと云はねばならない。
思ふに日本は電氣國である。これは地勢的に依る當然の天惠とも云つてよい。故に水力電氣の企業化は隨所に實現せられて居り、從つて各種電業がこれ又隨所に發達してゐるのは、世人の知悉する通りである。が、これ等の電氣業の發展進歩に寄與するものは、その背後に精巧なる機械、機具類の製作に俟つところ尠くないことを斷じて勿諸に附すべきでない。
こゝに、始動電動機齒車、自動車分品の精巧にして性能の素晴しさに至ては、市場既に定評のあるところで、延いては汎や我が電業界の發展に貢獻するところ甚大であつて、氏の事業は直接間接、わが國斯界の爲めに功績尠くないのである。
この觀點からして、將來、氏の雄飛こそ、吾人の翹望措かざるところと云はねばならぬ。切に自愛を祈つて已まぬ所以はこゝに在るのである。
家庭は極めて圓滿で、キヨ夫人は田口平五郎氏の次女で、極めて貞淑であり家政に努めてゐる内助の功は又沒すべからざるものがある。

東京鐵製ナット工業組合

【所在地】 城東區大島町一ノ九〇番地
【電　話】 本所四四九七番　八一五二番
【營業項目】 鐵製ナット及丸角座金の製造業者よりなる組合なり。

【沿革一斑】

平時に在つても然りであるが、殊に國家が戰時狀態に入つて、外國に對し戰鬪行爲を繼續する非常時に在つては、國內に於げる總ゆる生產機關の統制化が是非必要とするところである。

叙上の趣旨からして、現在、わが日本の產業界が監督當局の勸奬と示唆とに依るとは云へ、率先して自發的に各種の工業組合が結成せられ、孰れも有効適切なる運動と成績とを展開しつゝあるのは、國家の爲め大に慶すべき現象と云はざるを得ない。

この東京鐵製ナット工業組合の如きも敍上の如き國家的意義を自覺し、所謂產業報國の趣旨顯現の爲めに同業者相協力して創立せられたるもので、創立以來、極めて活潑なる運動を繼續し、成績大に見るべきものが多々あるのである。

今その內容の概要を摘記すれば次の如きである。即ち本組合は鐵製ナット及丸角座金工業の改良發達を圖るため、共同の施設を爲すを以て目的とするもので、事業の內容種類は左の如くである。

事業及其の執行

一、製品、設備の檢査並取締
二、統　　制
三、製品の加工及共同設備
四、製品の販賣
五、營業に必要なる物の供給
六、資金の貸付及貯金の受入
七、營業に關する指導研究及調査
八、其の他の施設

以上の如き八項目に分れてゐるが、これ等は創立以來著々として實踐に移され大に見るべき成績を收めつゝあるのである。

次に本組合の役員に就て見るに、本則の第八十八條に、左の役員を置くと規定してゐる即ち。

本組合の役員

一、理　事　九　名
一、監　事　二　名

で尙ほ理事の內一名を理事長に、一名を專務理事とし理事の互選を以て之を定むとしてあり、理事及び監事は總會に於て組合員中より之を選任す但し特別の事由あるときは組合員に非ざる者より之を選任することを得となしてゐるから、本組合の役員は嚴選主義を標榜してゐるだけに、その責任も重大であると同時に、對社會的聲望も亦甚だ大なりと云ふべきであらう。

これを要するに、當組合の使命は同業の發展と協力を期するのは當然であるが更に進んで同組合の社會的意義、國家的意義の闡明に努めつゝあるから、刻下の我が國情に照らせば益々その發展を期待して已まないものである。

尙當組合の將來に對して吾人が待望してゐることは、更らに新局面への發展と進出とである。

社團法人　土木工業協會

【所在地】 麴町區內幸町二丁目一番地三大阪ビル
【電　話】 銀座三七一五番　四三五七番
【營業項目】 土木請負工業に關する調査研究指導
【積立金】 一二五、〇〇〇圓
【決算期】 年一回、三月三十一日
【現在の役員】

理事長　鹿島精一
常務理事　原　孝次
同　瀧山　興
同　林　平七
同　宮長平作
同　小谷　清
理事　大林義雄
同　西本健次郎
同　栗原源藏
同　有田芳太郎
同　飯田清太
同　清水釘吉
同　錢高久吉
同　飛島　繁

【支店工場の所在地】
大阪市東區今橋二ノ一九　神田ビル
下關市西南部町坂本ビル　九州支部
札幌市北四條西三ノ一　北海道支部
關西支部

【沿革一斑】

昭和十二年十月、商工大臣より設立の認可を受けて創設せられたるもので、本邦に於ける土木請負工業の向上發展と統制融和を圖り、併せて斯業に關する學術技藝の研究を爲すを以て目的とすと　その定款の第一條に規定してゐる通り、わが土木請負業界の團結的機關である。

左に本會の目的達成の爲め掲げてある事業を摘記すれば次の如く。

本會の事業

一、會報の發行
二、土木請負工業に關する調査研究指導及報告
三、土木請負業の公正なる發達を圖る爲の施設
四、官公署其他企業者の諮問照會に對する應答並工事の狀況、成績等の調査
五、請負工事の調査又査定並請負人の選定及推薦
六、會員相互の共濟
七、請負に關する紛議の調査
八、前各號に附帶する事項

敍上の如き八項目に亘つて規定して居り、創設以來支那事變の發展推移に伴れて活潑なる活躍をなし、斯界の發展を促進するところ甚だ大なるものがある。

尙ほ會員は、名譽會員と正會員の二種となし、名譽會員は土木に關する學識又は功勞ある者より評議員會に於て之を推薦し、又正會員は帝國內に營業所を有し土木に關する請負業を營む者たることを要し、正會員五名以上の紹介に依るを要すと規定してある。

敍上の如き整然たる規約の下に公認せられたる社團法人組織であるから、當會の使命は極めて重大であると同時に、刻下の戰時體制に即應する强力なる產業機構と云はねばならない。

これを要するに現在の日本に於ては、各種工業界の統制化と協力化とは必須なる條件で、本會の發展こそ期待すべきである。

アルマイト輕合金工業株式會社川崎工場

【所在地】蒲田區東六郷四ノ二一
【營業項目】輕合金製品販賣
【現在の役員】
取締役社長　平沼覺治郎
專務取締役　鹽入德義
取締役　竹村利三郎
同　平田豪助
同　奥津清
同　佐久間成一
同　秦亀太郎
監査役　太田茂雄
同　成富信夫
同　木根淵淡水

【沿革一斑】

昭和八年頃と云へば我工業界は一般的に見て、滿洲事變の影響を受け、低調であり、産業不振の時代を脱却して發展の曙光が仄かに射しかけて來た時代であつた。

從つて各種の工業は漸次勃興の氣運に溢つてゐたが、當社も亦この近代戰時工業の黎明期に敢然と起ち上つたのであつて、アルマイト輕金屬工業所といふ社名が發祥當初の商號であつた。

然るに事業は豫測以上の好調を示して發展し、忽ち規模の狹小なるを痛感したので、昭和十一年九月には疾くも株式會社に改組擴大する盛況を呈した。而かもこの第一次の發展は今次事變勃發に先だつこと約一年前であつて、好運は當社に對して第二次發展を準備せしめたかの觀があるのである。

事變勃發以來の好況は今更らいふまでもない。軍需、民需共に加速度的に大發展を促進したが、殊に技術の優れた、製品の卓越した當社の隆昌は實に目覺しい限りであつた。

今、當社の現況を點檢するに、事變の進展に伴れて輕合金製品の効用が一般に認識せられたと同時に、益々その需要が增加を示し來り、各種機械部品としての註文が殺到する盛況振りである。特に自動車機關部、車輛部等各般に亘つて重要なる部品として販路が益々拓けたのは、全く當社製品の優秀性に依るものと云はねばならない。

昭和十五年上半期第七回考課狀に依り當期の利益金處分を檢すれば次の通りである。

十五年上半期成績

三一、七五一圓二六錢　當期利益金
八、七五二圓一五錢　前期繰越金
合計　四〇、五〇三圓四一錢

之を處分すること左の如し

二、〇〇〇圓　法定積立金
七、四八九七圓　固定資産償却金
二、五〇〇圓　役員賞與金
一二、〇〇〇（年一割二分）　株主割當金
二、〇〇〇圓　職員退職積立金
四、〇〇〇圓　諸税金引當金
一〇、五一六圓四一錢　後期繰越金

以上の如き好成績を示してゐるが、これに依つて考察して見ても當社が如何に堅實なる營業方針を持して着々社礎を固めつゝあるか推測に難くない。

あづま珐瑯工場主　鈴木基之

【生年月日】明治二十七年十月二十八日
【出身府縣】東京市
【現住所】向島區吾嬬町東五ノ六一
【電話】墨田二五二六番
【學歴】本所高等學校
【經歴及現在職業】
嚴父玉三郎長男大正九年家督相續事業擴張今日に至る。
令弟　滿氏は吾嬬町五の三七に鈴木珐瑯工場を經營す。
【家庭】
母　玉子　六十八歳
夫人　一江　三十七歳
長男　基司　八歳

岐阜縣の人鈴木玉三郎氏の長男に生れた氏は、郷里に於て所定の學修を卒へると疾くも將來工業家として立身せんとの固い決意を固めた。近隣の學校仲間の幼少年達は、惡戯に餘念のない頃既に確乎たる將來の志望を定め、理想に燃えてゐたことは、氏の凡庸でない資性と意志の人であることを裏書するものと看做して差支へあるまい。

嚴父は進歩的な性格の持主で、郷里に於ては何業に從事しても土地狹隘で男子の鵬圖を展開するには適しない。まして工業に天分を發揮せんと欲するならば東京移住を決行した。こゝで氏も亦父母に伴れられて郷里を去つて東京の活舞臺に乘出したのは少年時代であつた。

本所に居を構へたので氏は當區内の高等小學校を卒へると直に父業に携つて工業の實際に身を投じ凡ゆる勞苦をも物ともせず。從業員達に伍して貴い體驗を嘗め盡したのである。大正九年家督を相續するに及んで一層氏の活躍振りは熱が加へられ、活氣が横溢し、事業が益々擴大するばかり、從つて製品の眞價も年一年と昂めなれて行つた。この順風に棹さすが如き發展の背後には、並々ならぬ氏の劉苦經營と奮闘努力とが潜在してゐることを決して見逃がしてはならないのである。

今や東都工業界に於て、あづま珐瑯工場と云へば、苟くも斯工業に關心を拂ふ者の一人として知らざるものはなく、その優秀なる製品に驚嘆と激賞の聲を放たざるものはあるまい。何となれば製品に對ては全精神を打込んで、固く良品第一主義を堅持して一歩も讓らない氏の性格が、製品の上に顯現せられてゐるからである。製品即人格とは實に氏の場合に云はるべきであるからである。

現在、四十臺の男盛り働盛りである氏は、男子としての眞骨頭を發揮するのは寧ろ今後に殘されてゐる問題であるから將來の輝しい飛躍が今から想望するに難くはあるまい。

尙ほ氏が溫い家族主義の人であることは、令弟滿氏をして同業を同區吾嬬町五丁目に獨立經營せしめてゐるが、新進の鈴木珐瑯工場は即ちそれであつて、兄弟互に激勵し合ひ扶け合つて銃後産業の爲めに報告精神の發揚に一家一門打ち揃つて奮闘してゐるところ、稀に見る業界の美談と云つて差支へないと思ふ。

カネヨシ商會　都答院包義

【生年月日】明治二十七年九月六日生
【現住所】淺草區菊屋橋二丁目八番地
【電　話】淺草　三六八番
【學　歴】師範學校卒業
【經歴及現在職業】エボナイト材料、一般卸小賣業、カネヨシ商會主

當初、教育者として兒童訓導の聖職に身を捧げんと志し、鄉里の師範學校を卒業すると　縣下の小學校に奉職して教鞭を執ること五年に及んだ。

然し、氏は自個の本然の性格と天分とが寧ろ實業界に在るを感知すると、飜然として教壇を去つて業界に身を投じたのである。即ちエボナイト工場技師として技術を練ること十五年、愈々獨立の機會を把握して現地に創業を開始したのは昭和十二年二月十六日であつた。

營業品目

一、萬年筆用材料各種
一、電氣絶緣用板、棒
一、醫療器用材料
一、人絹用可型物製品
一、電信、電話機用材

志賀商會　志賀英一

【現住所】芝區新橋二丁目八番地（芝口ビル）
【電話】銀座六八七一番　三二二八番
【經歴及現在職業】特殊鋼一般、中間鋼一般、陸海軍規格鋼、熱處理火造一般特殊鋼協議會特約店

本據を芝區新橋二丁目の芝口ビル内に置き、廣く營業網を張つて隆々たる業勢を伸長せしめてゐる志賀商會は、東都に於ける斯業界の中堅と云ふべきであらうと思ふ。

先づその取扱つてゐる營業科目を點檢するに、特殊鋼一般と中間鋼一般を初めとして陸海軍規格鋼、熱處理火造一般の多彩に亘つてゐるが、これ等は何れも他店の企及すべからざる卓越性を有してゐるばかりでなく、經營方針は極めて時局に即應する報國精神の滿ち溢れたものであるから、正に國策に順應せる時代の奮鬪家と稱するに躊躇しない。

要するに、商會主志賀英一氏の事業は過去や現在に在るのでなく、寧ろ今後に眞の發展を實現するものと見るべく吾人の期待もこゝに存するのだ。

鹽尻製作所　鹽尻　嵩

【生年月日】明治三十二年九月一日
【現住所】深川區三好町三丁目二番地
【電　話】本所(73)九四番
【經歴及現在職業】金屬挽物一般製作自動車航空機部分品

成功の秘訣は素より精勵にも在るが、先づ不可缺の條件は旺盛なる研究心である。

本欄の主人公として、東都の金屬挽物業に異彩を放つてゐる鹽尻製作所鹽尻嵩氏が今日の地位を築き上げた經路には、この研究的結晶がその原動力をなしてゐることを見逃がしてはならないと思ふ。

即ち金屬挽物一般の外に、自動車航空機部分品の製作に全力を注いでゐる氏は如何なる細部の技術に對しても不斷の研究を重ね、最近科學の學理を應用するばかりでなく、優良品にして而かも耐久力價の三大特色を兼備せしめんと、粒々たる苦心を佛つてゐるところ、到底他の企及すべからざる特徴であり誇である。

山田鐵太郎

【生年月日】明治三十年一月五日
【出身府縣】福島縣郡山市
【現住所】向島區寺島二ノ六二番地
【電　話】墨田四四七六番　四四五〇番
【經　歴】

一體、東北人の特色とする美點は忠實であり事業に對する粘着力の强い、謂はゞ底力の强靱性に在るのである。

その特色を十分に發揮し、福島縣人の爲めに萬丈の氣を吐く人を東都の工業界に求めたならば、誰を偖て措いてもこの山田鐵太郎氏に拇指を屈せざるを得ないであらう。

明治三十年一月五日、福島縣の人山田又藏氏の長男として郡山市に呱々の聲をあげ、所定の學校教育を卒へると將來工業界に驥足を伸ばさんとの鐵の固い意志と希望を抱いて上京した。そして斯界の人となつて刻苦慘憺、技術と經營方法を研究練磨を重ね愈々獨立したのは昭和三年八月であつた。創業以來既に今日まで十二年を經過してゐるから、技術の卓越と市場の信用とは驚嘆すべきものがある

東京製鐵株式會社

【所在地】麴町區丸ノ内三ノ二
【電　話】丸ノ内三〇〇七　五三〇〇　六四〇二　六四六一
【營業項目】薄鐵板特殊鋼、普通鋼、鍛鋼品各種、木炭銑鐵
【資本金】六百萬圓
【拂込金】三百七拾五萬圓
【決算期】五月、十一月
【前期配當】一割
【支店工場ノ所在地】
横濱工場　横濱市鶴見區末廣町一ノ一一番地
平製鋼所　福島縣平市堂之前四番地
函館製鐵所　北海道上磯郡上磯町字久根別

金山炭礦　福島縣石城郡川部村

現下の我が國情に於て、最も産業界の躍進を必要とするが、就中、急務中の急務は製鐵事業である事は何人も認むる通りであり、國家的である。當社の重大使命が時局的である所以は即ちこゝに在る殊に當社が營業項目に掲げてゐる薄鐵板や特殊鋼に至つては軍需上にも或は又民需にも多量に達してゐるが、當社の製品は殊に夥しいと云はねばならず、尙ほ當社の木炭銑鐵は時局柄特記すべき獨創的なものである。

富田喜右衛門

【現住所】城東區龜戸五丁目四一番地
【電　話】墨田(74)六九五四番
【經歴及現在職業】自轉車泥除製造販賣

假りに、自動車を路上交通の王者とするならば自轉車は路上の尖兵と云つてよい。この路上の尖兵が戰時下ガソリン拂底の今日、益々需要の激增を來たしたのは當然であつて、我々日常の合言葉である「國策線」を一路邁進せんとせば、宜しく自轉車を驅らねばならないであらう。

この國策的交通機關の激增と平行して益々必要に迫られたものは勿論その部分品であるが、中でも泥除の需要は正に驚異的と云ひ得るのである。

然し泥除器の製作所は多く、その種類は又夥しい數に上つてゐるが、技術の優良と耐久性に富んでゐることに掛けては恐らく富田泥除製作所の製品の右に出づるものはあるまいと信ずる。何となれば所主富田氏は多年研究苦心を重ねた結果獨創的逸品を發明したからで、市場の花形と云はれるのも當然である。

服部組

【所在地】麹町區丸ノ内一丁目二番地
【電　話】丸ノ内　一七六一番　六四一八番
　　三二四一—三番
【營業項目】
土木建築工事（設計請負）
鐵骨家屋、橋梁、鐵塔、鐵道車輛、
各種タンク、起重機、輸送機、其他
化學工業用機械製作及建設
【現在の役員】
相　談　役　田中榮八郎
取締役社長工藤四郎
專務取締役上條宇宙司
常務取締役廣澤九八
建築部長取締役高松榮
工作部長取締役畠中鎌吉
【支店工場の所在地】
大運出張所　大連市山縣通五十八番地
　正隆ビル　電話二（2）六〇一番
第一工場　蒲田區羽田町一丁目一四一
　四番地　電話羽田六八九番
第二工場　蒲田區羽田町一丁目一一四
　七番地

【沿革一斑】
當初、創立明治三十三年の沿革を誇る株式會社服部製作所の一翼たる工事部として發揮したるものである。故にその母胎たる服部製作所の發展とコースを共にして着々各種の工事施工に聲價を昂めて來たものであるが、昭和七年の春上海派遣軍の命を受け砲煙彈雨々たる危險地域に於て、組立式鐵骨兵舍倉庫及び飛行機格納庫を所定の期間に完成したる爲め、上海軍より感謝狀を授けられ、引續き滿洲に於て關東軍の御用を受け、次で同十年には名古屋工廠熱田兵器製作所に於て難工事とせられた飛行機工場をこれ又期間中に完成して表彰狀を授けられた。
　玆に昭和十一年七月服部製作所營業種目中の土木建築を悉皆繼承獨立せしめ新たに合資會社服部組を設立すると同時に本據を東京に置いて專ら土木建築、鐵骨家屋、鐵塔製作及び建設工事に一路邁進したもので、これが當社創立の沿革である。然るに支那事變の進展に伴ひ各種事業が勃然と繁榮に趨いたので、忽ち從來の機構にては不充分を告げたので、昭和十五年四月愈々業務擴張を決し現在の如く株式會社に改組したもので、目下山東省及び天津に於て建築報國に全力を注ぎ興亞建設の爲め貢獻するところ甚だ大なるものがある。
　その創業の昭和七年以來、實に官私幾多の大工事を完成したが、本年度に入つてから受註請負つた會社名のみにても甚だ多數に上つてゐる。
　昭和十五年度發註先社名
日本發送電株式會社、東邦鋼業株式會社、淺野セメント株式會社、名古屋工廠、小田急電氣鐵道株式會社、荒井鐵工所、上海恒產株式會社　雨龍電力株式會社、江界水力電氣株式會社、佐藤工業株式會社
　以上の官民有力會社工廠であつて、これ等發註先の社名を一瞥しただけでも、當社の施工技術の優良にして期日確實なる特徴を推知するに難くはあるまい。
　これを要するに日滿支一體の發展は一に產業的の開發に在るのであるからその基礎となり原動力ともいふべき土木建築こそ興亞開發の尖兵ともいふべきである

日本土木建築業組合聯合會

【所在地】麹町區內幸町二ノ一
　　大阪ビル一號館
【電　話】銀座　六三四六番
【決算期】九　月
【現在の役員】
顧　問　清水釘吉、大林義雄
　　鹿島精一、竹中藤右衛門
會　長　原　孝　次
副會長　錢高久吉、島田　藤
主　事　松岡英介

【沿革一斑】
日本における土木建築界の權威者を各役員として網羅し全國に散設せられてゐる各土木建築業組合の綜合的團結を行ひ汎く斯業界の向上發展と、同業相互界の發達と向上とに寄與するところ甚だ大なるものがある。
　偖て現下のわが國內外の諸情勢と、當聯合會の事業との關係に就て、以下少しく考察を試みて見ようと思ふ。
　舊い戰爭の觀念からすれば、土木建築と戰爭とは直接の關係を有してゐないけれども、近代の科學戰からはこの觀念は最早や時代遲れと云はねばならぬ。何となれば、國境も海洋もない飛行機の發達に依つて、戰場には何等地域的制限を加へることが不可能となつたからである。
　故に攻勢に出てゐても、何時何ん時敵の飛行機が飛來して後方攪亂を企てないとは限らないから、この危襲に備へることが絕對に必要である。そしてこの後方の發展並に共榮を圖り、延いては國運の隆昌に貢獻せんとの目的を以て、大正八年十一月創立せられたものである。
　今、前項中に揭げた役員諸氏の顏觸を見るに、顧問には先づ清水組、大林組、鹿島組、竹中組、の各代表者を列ね、會長には原組の代表者を戴き、副會長には錢高組島田組の各代表者を推してゐる。一事に照らしても、その機構の全國的であることが判るであらう。
　而かも主事には敏腕で機智に富み、如才のない松岡英介氏を据えるなど、人的陣容の整備してゐることは他の組合聯合會にも容易に比格すべきものがないと云ひ得る。
　即ち大正八年の創立せられて以來、今日まで二十有二年の沿革を有してゐるがその間に於ける當會の事業は頗る顯著なるものがあり、他の同業組合聯合會と共に不即不離の關係に於て、本邦產業攪亂に對する防衛は專ら土木建築に依らねばならないのは忽論である。
　こう考へ來るならば、土木建築の時局性は新しく濃化せられて來たといふべきで、本組合聯合會の使命が益々重加せられて新部面が派生して來たことはおのづから首肯出來ると思ふ。
　幸ひに前揭の諸役員諸氏は、わが斯業界の各權威者揃ひであつて、よく協力し合ひ、よく談し合つて意見に寸分の扞格をも認めないといふから、敍上の如き時局に即應する使命を自覺し、職域を通じて報國の精神に燃えてゐることは、他の組合聯合會などに較べて格段の相違である。

合名會社 明光堂鐵工場

【所在地】本所區亀澤町二丁目二番地ノ一
【電　話】本所　二二六番　二四五三番
【營業項目】工作機械、製罐機械、罐詰機械及附屬器具製作
【資本金】壹　萬　圓
【拂込金】全　額
【決　算】十　月
【前期配當】一　割
【現在の役員】代表社員　佐々木民治
〃　佐々木サヨ子
〃　佐々木幸一
【支店工場の所在地】東京府南多摩郡南村字金森
【沿革一斑】

東京市の人太刀川平四郎氏の經營に係る明光堂製罐工場に多年工場長として勤務してゐた佐々木民治氏が、愈々獨立の機運熟したので昭和四年同工場を辭し獨立して開設したものである。

初め個人名義で營業を開始したが同九年十月には組織を改め、社名も亦合名會社明光堂鐵工場と變更した。そして製罐機械、罐詰機械、並に工作機械等の製作を主としたのであるが、獨創力に富み研究家である佐々木民治氏は苦心慘憺のものが多いので、專賣特許を受けた優良品は甚だ尠くない。從つて性能の卓越性に至つては他の追從を許さないのは云ふまでもない。

現在は陸軍糧秣廠、專賣局、農林省等其他の各官廳を初め、農事、水産各試驗場、各學校、民間に在つては製罐會社、罐詰會社、麥酒會社、航空工業會社等頗る多方面に亘つて提供し嘖々たる好評を博してゐる。殊に事變の進展に伴れて罐詰事業の勃興に伴れて該機械の註文殺到し來り、加ふるに軍需工業の殷賑を極めたので工作機械製作の受註又夥しい數に達し、從來の規模では到底需要を滿たし得ない爲め、昭和十三年一月、東京府下南多摩郡南村字金森に敷地二萬七千有餘坪の宏大なる敷地を買收し、これに第二工場を新設し今日に至つたものである。

然らば代表者佐々木民治氏とは如何なる人物であるか、以下その要點を摘記することゝする。

秋田縣川邊郡下北手村實川字堂ケ下一一八番地に於て、明治三十三年六月七日呱々の聲をあげた氏は、大正七年、函館工業學校を卒業すると、米人技師に就て親しく技術の指導を受け斯業を重ねた。同九年に至り輸出食品會社の飯濱工場に勤務したが、その後、大阪の東洋製罐株式會社に轉じたが、再轉して太刀川平四郎の經營に係はる明光堂製罐工場に入社工場長の要位に就いた。

それ以來、五年間必死の努力を拂つて精勤したので、主家の隆盛に貢獻するばかりでなく、自分自身の技術に著しい進境を齎した。同四年辭して現地に獨立し今日に至るものである。その間昭和九年十月合資會社に改めたもので、自宅を本郷區彌生町二番地八ノ一三四（電小石川五五三七番）に構え、サヨ子夫人との間長男忠敏君、次男忠次君、三男忠行君、四男忠輝の四令息がある。

株式會社細谷機械製作所

【所在地】麻布區新廣尾町三ノ一五五
【電　話】三田　四六九四番
【營業項目】工作機械一般
【資本金】拾　萬　圓
【積立金】五　萬　圓
【決算期】十　月
【現在の役員】社　長　細谷忠四郎
取締役　荻野光平、古川勝藏
監査役　十藏寺宗雄
【沿革一斑】

現在の如き一大變革期には得意の人と失意の人とがあり、世間の噂に上ぼる成功者もあれば、世間から同情の涙を注がれる失業轉業者もあり、榮枯浮沈常ならずの感があるが、要するに、時代の動向に活眼を放ち、よく時の流れを乘り切る實力のある者は、結果、成功の彼岸に達するのである。

この細谷機械製作所の細谷忠四郎氏などは、正に時代を見拔き、時代を支配して今日の成功をかち得た俊材の一人と推すべきであらうと思ふ。

氏は神奈川縣足柄下郡の人で、少年時代から機智に富み、悧發の譽が高かつた。郷里の高等小學校を卒へると、男子の事業としては工業より外はないとの强い信念を抱いて上京した。

固よりこの信念があり、加ふるに精勵で骨身を惜まない忠實な性格の持主であるから、上京後、工場裡の人となつて煤煙にまみれ、齒車の叫び、ハンマーの響を聞きながら働き、胸の燃えるやうな希望に勞苦を物ともせず、せつせと修業を積んだのである。

果然、その進境は素晴しかつた。腕も上達すれば、斯業の經營に對する理解も十分出來、又、諸準備も全く成つたので愈々年來の宿望たる獨立の機會に際會することが出來たのである。その發祥の地は麻布區新廣尾町一丁目一一二番地であつた。

それ以來、年と共に益々發展しつゝあつたところ、遂には狹隘を感じたので、昭和十年に現地へ移轉擴張を決行したのである。

然るに二年後には測らずも今次の支那事變が勃發した爲め、俄然一段の活況を呈し、注文に應じ切れない程の隆昌を來たしたのである。そして、軍部、民間の兩方面から優秀な技術と、期日嚴守の堅實な營業方針を認められ、益々その聲價を昂めるに至つたのである。

こゝに於て、在來の個人經營では當底需要を充たし得ないので、改組擴大の必要に迫られ、現在の如く資本金十萬圓の株式會社に躍進したのは昭和十四年十二月であつた。

資本力が强化せられ、重役陣も整備せられたので、それ以來の營業成績は舊に數倍し全く面目を一新した。そして工作機械の製作技術が益々市場に喧傳せられるに至つたのである。

尙ほ附記せねばならぬのは。細谷社長を輔佐する重役諸氏に荻野光平氏、古川勝藏氏、十藏寺宗雄氏等の有力者が强固なる圓陣を作つてゐることだ。

木下無線研究製作所

【所在地】
目黒區上目黒四丁目二一七八番地
【電　話】澁谷一四八〇番、二〇三三番
【營業項目】無線電信電話送受信、電波計、ヘトゲン周波計、飛行機用送受信機、高速度受信機、方向測定器、精密電波測定裝置、研究並に製作
【資本金】拾二萬圓
【拂込金】全　額
【現在の役員】
所　長　木下金作
技師、技手四名、助手三名、工員二十名
【支店工場の所在地】
分工場　目黒區中目黒三丁目八
【沿革一斑】
現代は無線時代である。と同時に精密機械萬能の時代でもある。

こういふ時代の要求に即應して、良い製品を廉く、一般市場に提供することは謂はば國益に應へる所以でもあれば、所謂公益の優先を圖る所以でもある。

この木下無線研究製作所は、規模の點に於て必ずしも大とは云ひ得ないが、技術の精巧で、性能の優れてゐる製品の提供者として、東都に斯業多しと雖も恐らく他に匹敵するものは、さう澤山あるまいと信ずる。

製品は前に摘記した通り、無線電信電話送受信器、電波計、ヘトヂン周波計、飛行機用送受信機、高速度受信機、方向測定器、精密電波測定裝置、以上數種の科學的研究並に製作に全能力を傾注してゐるが、不斷の努力と、最新の學理を常に採用して、固い科學的基礎を確立し、その上に練磨を重ねた技術を十分に發揮してゐるから、市場の信用を獲得してゐるのも何等怪しむに足らないのである。

尙ほ社内の人的構成を見るに、所長木下氏の下に、技術の優秀なる技師並び技手四名を擁し、その下に更らに助手三名撰り抜きの工務員二十名を配して居り、これを上目黒の營業本部及び本場とすれば、中目黒三丁目の分工場には工場長以下十數名の工務員を嚴選して製作陣營を整へてゐるから、人的機構の上から云つても、決して他の大會社などに比較して何等遜色を見ないのである。

現在の資本力は全額拂込の十二萬圓で、年產額は十五萬圓と云はれてゐるがこれも漸次增加の傾向を示してゐるから、近い將來に於ける當製作所の發展は實に目覺しい限りであらうと思はれる。

更らに現下のわが斯業に目を放てば時局の重大性に影響せられて新舊大小の會社工場が、隨所に多く活躍し出現して、無線日本の爲めに、萬丈の氣を吐いてゐる有樣は、誠に賴母しい狀態と云はねばならぬ。然し、時局今後の推移と複雜化に備へる爲めには、決して萬全の構えとは云ひ得ない。

そこで問題は、現存する斯業の各會社なり工場なりが、玆に新たなる飛躍を必要とするのであるが、これは老朽な會社に俟つよりは、當所の如き新進の意氣に張り切つてゐる中堅どころに期待すべきであらうと思ふ。木下氏に一層の奮闘を祈る所以である。

有機酸工業株式會社

【所在地】
京橋區寶町一ノ七　味の素ビル
【電　話】京橋一一三一—九番
六一七五—五番、三六一三番
【營業項目】枸橼酸及其の他
【資本金】百　萬　圓
【決算期】三月、九月
【現在の役員】
社　長　鈴木三郎助
重　役　花田才藏、鈴木六郎
藤川信太郎
監査役　鈴木　忠治
【支店工場の所在地】
蒲田工場　蒲田區南六鄕一ノ五三
【沿革一斑】

本邦の化學工業は他の諸工業に比較して寧ろ發達の過程は短いのである。

第一次の歐洲大戰に依つて今まで稚態を脱し得なかつた日本の化學工業は、俄然、急角度を以て發展したことは、當時を回想すれば何人も肯けるところだ。換言すれば前の歐洲大戰がわが日本の化學工業を生んだ母胎であると云つても決して奇矯の言ではないのである。

その當時、やれ染料成金だの、やれ藥種成金だの、やれ何々成金だのと種々化學工業に關係する成金輩が宛ら雨後の筍の如くぞく〳〵と生れたことは、吾人の記憶に未だ新たなるところであつて、斯業の會社や工場が簇出したばかりでなく既設のこの種の會社はいづれも素晴しく膨脹したのである。

當社は敍上の如き日本新興工業の中に在つて、注意すべき成績を收めてゐることは、これ又、斯業通のみな認むるところと云つていゝ。

現在、當社は枸橼酸及び其他の有機酸の製造を營んでゐるが、これ等の製品の品質良く、而かも價格の廉價なることなど幾多の特色を有し、市場の花形として持て囃されてゐるが、これは全く經營者の必死の努力に依るものと云はざるを得ないので、「味の素」の本舗鈴木系の偉大なるバックがあつてこそ、この好成績を收め得たのである。

それと同時に、鈴木系を中心とする强力な重役陣と、豐富な資本力が總べての根抵を作つてゐることは勿論で、社長の鈴木三郎助氏を中心に、花田才藏氏、鈴木六郎氏、前川信太郎氏、鈴木忠治氏等の重役諸氏は何れも業界の錚々たる人物のみである。

それが今一つ附記せねばならぬことは當社の重要な製作機構たる蒲田工場の長に、新進氣鋭の士齋藤力氏といふ適材を配してゐることである。

齋藤氏は神奈川縣愛甲郡荻野村上荻野の人で、明治三十八年九月十日を以て生れ未だ三十臺の颯爽たる青年である。

東北帝國大學法學部を卒業すると、昭和九年ラサ工業株式會社々長秘書となり同十二年に及んだ、次で昭和酒造株式會社川崎工場經理課長に就任し、引續き勤務したが、同十四年九月當社に招聘せられて現職に就任したのである。

自宅は市内品川區北品川四ノ七二七番地（電話大崎一八一〇番）に構え、松子夫人（山脇高女、實踐國文專攻科卒）との間に長男昌雄君、長女圭子孃がある。

菅澤三郎

【現住所】城東區南砂町七ノ四七〇
【電話】本所(73)八八五七番
【經歷及現在職業】
船舶諸機械、軍需品鍛造

今日の如く社會の諸機構が整然として、密度が細やかになつた時代では、成功の要訣は單に勤勉と努力のみでは不充分である。必ずその背後に時代の動向を察知し、業界の機微を看破して他に機先を制することが何よりも必要條件である。

菅澤鐵工所の所主菅澤三郎氏の今日を致した成功の裏面に潜むものは、卽ちこの秘訣たる機微を見貫く烟々たる活眼であつた。

明治四十二年六月二十日、千葉縣香取郡佐原町に生れた。氏は幼少の頃から俊敏の性顯悟の質は他の兒童達に伍して斬然一頭地を抽んじてゐた。稍長ずるに及んで將來工業界の人たらんとの素志漸く固く、年と共にこの希望は燃え盛つたのである。

依つて敢然上京して斯界の人となり專念技術の練磨に努め、疾くも獨立の機會を把握したのは全く氏の機敏なる性質に由るもので菅澤鐵工所を創設以來燎火の如き勢を以て發展を續けて今日に至つたもので、將來の雄躍は期して俟つべきである。君子夫人との間に長女京子孃をあげ、趣味は釣魚である。

飯笹小四郎

【生年月日】明治二年四月二十二日
【出身府縣】長崎縣
【原籍】長崎縣東彼杵郡大村町
【現住所】澁谷區松濤町七番地
【電話】澁谷一、五二一九番
【學歷】東京高等工業學校機械科卒
【現在職業】飯笹鋼業所主
【趣味】自家專門技術の研究と讀書習字
【家族】妻秀子、長男工大、次男日本大學出身、共に自家工場に勤務、長女は王子製紙技師根岸水澄に、二女は醫學博士富永實氏へ、三女は事業家小澤忠次郎氏へ、四女は醫學博士山口正義へ嫁す。

【經歷】明治二十七年、藏前の愛校に依つてわが工業界に偉大なる人的資材を提供してゐる東京高等工業學校の出身者で、その機械科を卒業すると直ちに某機械製作所に入社した。これが氏の斯業界に巨歩を踏み出した抑もの發祥である。

斯業に二十餘年間從事、大正十二年獨立して機械工業所を創立、專ら製紙機械附屬品の設計製作を開始した。金屬材料研究の爲め東亞大學金屬材料研究生として入學、斯學の最高峰本多光太郎博士に師事して專念研鑽すること多年、昭和三年横濱市鶴見區平安町（電鶴二八二三番）に工場設置し同十年飯笹鋼業所と改稱自ら職工に伍して奮鬪學理と實際を調和して今日の盛名を獲得した。就中ドリルロッド研削事業の精度優秀なる製品に至つては全く他に四傳を知らない。

斯くの如き急速なる發展は氏を中心に二令息が共に協力一致せる爲めで、輸入品驅逐の逸品として市場に嘖々たる好評を博してゐる。

熊野治一

【生年月日】明治十九年三月九日
【出身府縣】廣島縣
【原籍】世田ヶ谷區代田二丁目一〇三三
【現住所】右に同じ
【電話】松澤三、一二九番
【學歷】京都帝大電氣工學　大正三年卒
【趣味】書畫
【家族】妻ミサオ、長男秀治、次男民治、長女房子、三男末治、良子、佳子、瀾子

人國記の筆法に依れば、廣島縣人の特徴は、物事に對する理解力の敏捷であることと、數理の頭腦の明晰であることだ。この人爲的色彩を明確に表はしてゐるのは、こゝに略傳を述べんとする熊野治一氏である。

鄕里の中學から高等學校を經て京都帝國大學に進み、その工科大學の電氣工學科を卒業したのは大正三年である。

然るにその翌年には測らずも歐洲に一大戰火が勃發した。第一次の歐洲大戰がそれで、爾來五ヶ年に亙つて有史以來の大戰禍を展開した。が、この戰禍に遠いわが日本は、對外輸出貿易が急角度を以て發展し、國内の諸產業が超度の大發展を展開したのである。この間に於ける氏の活躍は、先づ最初の出發點と云つてよいが、これが漸次堅實なる步調を保つて進み、遂に今日の華々しい活躍を示すに至つたものである。

氏は今や五十五歲の分別盛りで、壯氣尙ほ燃ゆる如きものがあり、素より學殖があり、識見亦亨遠で、戰時下のわが產業界の動向を省察するの明に富んでゐるから、よく今日の地位と聲望を獲得することが出來たのである。

ライオンスレート株式會社

【所在地】大森區提方町二一〇番地
【電話】大森(06)五〇八五、五七八五、七〇七二番
【營業項目】ナミイタスレート、大平イタ、石綿煙突、石綿バッキング
【資本金拂込金】四十五萬圓三十五萬圓
【決算期】五月、十一月
【現在の役員】
代表取締役　今田清一
常務　堀江新次郎
監査役　井上房一郎
戸塚仁一郎
宮田雪太郎
井上米三郎
建俊一
高島茂壽
水生清一

帝都に於ける新興工業地帶と云へば何人も、先づ大森區一圓に指を屈するであらう。

元來、大森地方は明治初年以來、專ら漁撈業の地として潮風の滿々たる異色の地域であつたのである。然るに星移り物變つて明治より大正となり、大正より昭和年代に推移するに從つてこの地方色は著しい變化を呈して來た。俗にいふ桑海の變も啻ならざるほどの激變振りであつて、往年の漁業地が、昭和の今日には工業地帶として生產帝都に、重要なる一廓を形成するに至つた。

前提は稍々冗長に流れたが、これを要するに、大森一圓の工業地帶としての特色と、その發展とに對して、驚異の眼を放たざるを得ないが、それにはこゝに略敍せんとする本邦スレート工業界の權威たる「ライオン・スレート」の本據たるライオンスレート株式會社の存在を斷然忘れてはならぬ。製品の優良性、價格の低廉など他に比類を見ない特色は「ライオン」の商標に依つて表徵せられてゐる。

日本不銹鋼工作株式會社

【所在地】蒲田區下丸子町五一
【電話】蒲田三九三七、五六九四番
【營業項目】不銹鋼製化學機械ポンプ及送風機製作
【資本金】拾壹萬圓
【積立金】四千五百圓
【決算期】四月、十月
【前期配當】年二割
【現在の役員】
專務取締役　計見一
取締役　國岡保衛、津守完、橋本守雄
監査役　淺川省三、小川松郎

【沿革一斑】今次の支那事變は、日本の工業界に一大飛躍の機會を與へた或は新設するもの、或は增員擴大せるもの、或は輕工業より重工業へ百八十度の轉向せるもの等、複雜なる變化を呈したのである。

この日本不銹鋼工作株式會社などは、新興會社中の異色ある新鋭會社の第一線に起つものと云つてよい。

即ち昭和十三年三月に設立せられたもので、資本金も戰時下の資本統制の爲め、已むを得ず十一萬圓（全額拂込）の少額であるが、基礎の强固なることと、經營方針の堅實なることは、正に新設會社の精華を見做して可なりであらう。

何となれば、不銹鋼製化學機械、ポンプ及び送風機の製作に掛けては技術の優良なること容易にその比類を知らざる程であるから、市場に於ける聲價の隆々たるは決して異しむに足らない處だ。

最近の業務成績を見るに、年二割の株主配當を行ひ、尙ほ綽々たる餘裕を示してゐるのも、これ又當然であらう。

田中況

【生年月日】明治三十年八月一日
【出身府縣】兵庫縣
【現住所】横濱市神奈川區白幡町五〇八
【學歷】京都帝國大學工學部大正十一年卒
【經歷及現在職業】日本カーボン株式會社生產部長兼中央研究所長
【趣味】讀書、音樂、庭球
【家庭】妻、長男淳一、長女澄子、二男亮一、二女晴子

日本カーボン界の最高峰を占むるものは、何と云つても日本カーボン株式會社であらう。そしてその生產部長兼中央研究所長の榮職を占め、本邦斯界の爲めに萬丈の氣を吐くものは、この田中況氏である。

明治三十年八月一日を以て兵庫縣に生れたといふから、今年は正に四十有三歲で、男子としては脂の乘り切つた潑剌たる意氣に燃える年配である。而かも大正十一年に京都帝國大學工學部を優秀の成績で卒業した豐かな學歷を有してゐるから、年配學殖、識見、手腕と何一つ批の打ちどころのない好い條件を具備して活動してゐる。

京都帝國大學に在學中から、カーボンの化學的研究とその製作術の研究に深甚の努力を傾注した氏は、學窓を出て實社會に出てからは、果敢なる活躍を開始し、遂に今日の地位と聲望とを獲得するに至つたものである。

令閨は大阪市淸水谷高女出身の才媛、長男淳一氏は川崎中學五年在學、長女澄子孃は横濱高女三年生、其他二男亮一君、二女晴子孃があり、一家の團欒は稀に見る和やかさである。

田中千壽舍

【所在地】江戸川區東小松川三ノ三六七八
【電話】江戸川一四九番
【營業項目】濕布用油紙、醫療用亞仁油紙、分娩用油紙、
【現在の役員】天童胞衣壺代表者　田中與吉

近來、衞生思想の發達に付れて、各種の衞生用品の製作技術が目覺しい發展を遂げて來たのは、何人も認むるところである殊に各種の油紙類の製作技術の發達は、正に驚異に價ひするところで、都下に該品の製作業者は、必ずしも尠くないけれども、名實共に斯界の逸品と云はれるものは極めて稀と云つてよい。

こゝに略記せんとする田中千壽舍の製品は、實にその稀なるものゝ代表者である。

即ちその商標は「天童」印であつて、醫療用亞仁油紙が十五種類、濕布用油紙が數種類、分娩用油紙も亦數種類、それから天童胞衣壺に至つては實に特許紙製品として天下一品の優良品として、自他共に許すところである。

然らば斯くの如き聲價は如何にして獲得せられたか、と反問するならば、吾人は代表者その人の不斷の研究心と、學理的討究考案の賜ものなりといふに躊躇しない。

代表者田中與吉氏は、斯業に對して十分なる學理的研究を遂げ、それに醫學的智識を基調とせる創案とに依つて、專心、從來の改善に努めた結果に外ならぬと思ふのである。

現下の戰時日本に執つては、凡ゆる生產品は悉く必需品であるが、殊に銃後衞生の立場から、人的資源の確保から該品の如き優良なる衞生用品は絕對的重要品であると云つてよい。

中村工務店
中村乙吉

【現住所】淺草區永住町一四三番地
【電話】淺草四二三番
【經歷及現在職業】土木建築請負業

都下に於て土木建築業の請負業者は頗る多い、或は組織の宏大を誇り、或は資本力の强大を誇り、或は機構の整然、施工力の絕大を誇るものなど、幾多の巨豪が各その本據を守つて群雄割據の態を呈してゐる。

けれども、土木建築請負業の眞價は、必ずしも俎上の如き諸項目のみに依るものではないのである。要は技術の精練と、施工に當つて萬事良心的でならなければならない一點である。殊にこの最後の條件が、必須的要素である。

この意味からして、眞の土木建築請負業者として名と實とを兼備するものとして、こゝに中村工務店代表社員たる中村乙吉氏を推すべきであらう。

中村氏は石川縣金澤市の人である。加賀百萬石の城下といふ古い、尊い史的名邑たるこの金澤市に於て、氏は明治十九年九月二十一日呱々の聲をあげたのである。即ち金澤市出身の人物は古人、新人共に名を謳はるゝものも決して尠くないが、この新人中の一異彩としてこの中村乙吉氏などは特記すべき人材であると信ずる。

少年時代から怜悧の資性を有する氏は、鄕里に在つては多くの愛兒達の間に伍して、既に鋒鋩を露はし、疾くも將來あるを想はしめたほどであつた。果して小學校卒業の頃から、その天禀が徐々に顯著となり、年と共に益々色彩を明かにしたのである。

鄕里の小學校を卒業すると、將來の雄志を抱いで上京した。そして築地工手學校に入學し、卒業後直に土木建築業に雄飛し、遂に今日に至つたものである。

合名會社 大洋カーボン製作所

【所在地】大森區馬込二ノ西三ノ二五五九
【電話】大森三九六七番
【營業項目】カーボン製作
【現在の役員】代表社員 坂戸慶吉 同 熊倉三郎
【沿革一斑】

帝都にカーボン製作業者は、必ずしも尠くないが、品質の卓越性に於ても、技術の巧緻にして耐久力の強い點に於ても、更らに價格の低廉なる點に於ても、斷然、一頭地を拔いて他を壓倒する優良品は、卽ちこの大洋カーボン製作所の製品である。

謂はゞ、當製作所の製品は東都斯界のナンバーワンであつて正に最高峰を占むるものと云ひ得る。

然らば何故かくの如き優越的聲價を昂め得たかと云へば、只にその專門的研究を重ね來つたばかりでなく、不斷に科學的檢討を怠らず、歐米諸國の該品を比較研究して、更らに獨創的技術を發表し、常に良心的な營業方針を堅持してゐるからに外ならない。

一體の工業は支那事變以來、專ら重工業化し、一部の平時產業はおのずから隆昌も低調となつたのに比し、戰時色の濃厚なる重工業は急角度を以て殷賑を極むるに至つたことは、何人も熟知する通りであるが、該カーボン工業に於ても事變の影響が極めて甚大であつたことは到底否まれない處である。

然るに能くこの變動期に際會して、善處し益々その眞價を發揮し、斯業を通じて報國の一途に邁進しつゝあるのは、流石に斯界の白眉たる威力と信用と眞價とに依るものと見て差支へないと思ふ。

S.A.S 榮屋石綿紡織所

【所在地】四谷區坂町九十四番地
【電話】四谷(35)一一四九番
【營業項目】石綿糸、石綿紗布、石綿紐、石綿パッキング、石綿蒲團、石綿紙加工品、石綿ゴム加工品、ブレーキライニング、常盤灰、都灰、石綿板
【現在の役員】代表者 杉山金司
【沿革一斑】

石綿の用途は工業の發達と共に、益々廣範圍に擴大せられて來たことは周知の通りで、就中、防熱、保溫、保冷、防音、絶緣、化學用、濾過用等には燃料を節約して製品原價を低下せしめ、一定の保溫保冷其他に石綿の使用は製品の均齊と優良を期し得べく亦是等裝置及び防火、防音、或は石綿服、石綿手袋等は不慮の災害を最少限に防止し、機器、汽罐の性能を充分に發揮せしめ、又これ等の耐久力を保護する等、工業家には絶對不可缺の必需品として一般より認識せられるに至つたのである。

當榮屋石綿紡織所では、前項に摘記せる通り、石綿糸、石綿織布等を初め數種の紡織を行ひ、極めて精緻にして耐久力に富む最優良品として、隆名を市場に恣にしてゐることは、一に所主たる杉山金司氏の奮勵努力の結晶と云はねばならない。

卽ち市場に於ける「つばめ」印の商標は、宛ら斯界の王者の如き威力と、女王の如き魅力とを兼備し、年一年と發展の過程を辿りつゝあるのも、何等異しむに足らないところである。工場には紡織部、保溫部、加工部、纖維部の四大部面に分たれ整然たる機構を以て盛業を續けつゝあるのは偉觀と云つてよい。

河野勝次

【生年月日】明治二十九年六月廿五日
【出身府縣】佐賀縣佐賀郡川福村
【原籍】右と同じ
【現住所】芝區白金三光町一〇〇
【電話】高輪一五五九番
【學歷】大阪工業專修學校卒
【經歷】久保田鐵工所、東京瓦斯芝浦製作所、荏原製作所
【現在職業】プレス航空機部分品製作(河野製作所)

佐賀縣人中に立志傳中の人物を求めたならば、必ずしも尠くない。然し、眞に同縣人の誇とする彼の葉隱武士の稜々たる氣骨を業績にも行動にも、言動にも、遺憾なく發揮して佐賀縣人の爲めに、長虹の如き氣を吐くものに至つて甚だ尠ない。

プレス航空機部分品の製作に於て、他の同業者を壓倒する河野製作所主河野勝次氏は、何れの角度から見ても、その尠なきものゝ代表的人物である。

鄕里に在つて學業を完修すると、疾くも工業界に活躍せんとの強い信念を抱き、上京して最初に入社したのは久保田鐵工所であつた。この青年時代の刻苦精勵が、氏の工業家としての素養を豐富ならしめ、活躍の基調をなしたものと云つてよいであらう。

次て東京瓦斯芝浦製作所に轉して機能を磨き、更らに荏原製作所に再轉して、一層實を養ひ、資力と機運に惠まれたので、愈々獨立したのは昭和二年であつた。工場を大森區池上と立川とに設置してゐるが、既に工場協會理事に推され尙ほ町會長として自治の發展に盡力してゐる。

相模商會

【所在地】本所區厩橋四丁目六番地
【電話】墨田(74)四三四七番
【營業項目】工業用ゴム製品
【支店及工場所在地】葛飾區本田寶木塚町四九七番地 電話本田六二六番

戰時日本の非常時統制の種々相は、色々なる方面から觀察も出來、評價もなし得るが、然しその基調を爲すものは、番事が戰爭目的の爲めに統制せられ、强化せられたことである。

殊更らその特色の著しいものは、民間に於ける護謨の使用統制であつて、今次の支那事變が勃發すると直ちに皮革と一緒に統制品の第一線に上げられたのである。

それも當然の結果であつて、護謨くらゐ用途の廣い、効用價値の豐富で、多方面に亙つてゐるものは恐らく他にあるまいと思ふ。

從つて戰爭の進展に伴れて、生產部面に必要とする工業用護謨の需要は、謂はゞ三段跳びともいふべき大飛躍をなしたのは世人の熟知する通りである。

斯る時局の機敏に影響せられて、著しい發展を遂げたのは、この相模商會である。本社を本所區厩橋四丁目六番地に置き、製作機關たる工場を葛飾區本田寶木塚町四九七番地に設置し、兩々相俟つて殺到する註文の製造に忙殺せられ、今日の如き牢固拔くべからざる基礎を築き上げたのである。

忌憚なく評するならば、資金に於ても、將又、工場その他の諸設備に於ても、必ずしも巨大なりとは云ひ得ないが、然し製作技術の優れてゐる點や、製品の優秀なることや、廉價なることなど、他社に見られない特色を有してゐる。

槇野鐵工所

槇野義一郎

【生年月日】明治二十九年三月
【出身府縣】茨城縣眞壁郡雨引村
【現住所】本所區錦糸堀町一ノ八
【學歴】早稲田工手學校機械科

現時の我が工業界に於て、早稲田工手學校出身者に對する好評は、吾人これを隨所に又隨時に耳にするところである。それは如何なる點に對してであるかと云へば、同校出身者は綜括的には如何なる點に對して極めて忠實であり、熱心であるといふ點である。他の高級な專門學校や大學に學修した人物よりも、工場の實際に最も適合し、眞に工場人として働き拔く特色を有してゐるからだとのことである。

この批評は正に肯綮に中つた言であると信ずると同時に、同校出身者の成功者の一人として、當欄の主を紹介し、そして前提の言を立證し度いと思ふのである。

明治二十九年三月、茨城縣眞壁郡雨引村に於て生れた氏は、少年時代から非凡の頭腦と、機智に富んだ性質とを疾くも現はして居つた。そして將來の志望を工業界に伸張せしめようと決心すると、上京して早稲田工手學校機械科に入學した。素より天賦の英材であるから學校の成績の惡からう譯がない。多く優良なる成績を收め、同校を卒業すると、直ちに技術の練磨研究に專心努めた。

天禀の然らしむることゝは云へ、その進境の目覺しさは稀に見るところであつた。そして逸早く獨立のチヤンスを掴んで、現在の如き獨立した槇野鐵工所を創立、これが經營に全幅の努力を注いだのである。

今日の成功は當然であると同時に、氏の將來に絶大なる期待をかける所以である。

原晋一

【生年月日】明治九年一月十二日
【出身府縣】山口縣
【原籍】玖珂郡岩國町川西
【現住所】大森區田園調布三ノ六七三
【電話】田園調布三四四六番
【經歴及現在職業】戸塚純鐵製造所長
【家庭】丸子製作所長女とみ他嫁長男於英雄
取締役技師長丸子製作所電氣主任
次男規矩雄

よく謂はれる「新興工業」といふ言葉に、最も的確にぴつたりと刎合するもので、恐らく原晋一氏の事業の如きはなからうと何となれば、純鐵製造事業であつて斯業に多年研究し續けて來た氏が、商工省より昭和十五年六月二十二日認可を受け、去る十一月より一部の操業を開始したとは云へ、今尙ほ諸機關の工事中に在り、これが完成を告げるのは明春一月末であらうと觀測せられてゐるほど、未完成のものであるからである。

然し未完成とは、製作機關の物的建設に對して云つた言葉であつて、事業の本質に就て云つた言葉では斷じてない。が、純鐵製造の科學的、工業的成功を期する爲めに、原晋一氏が今尙ほ涙ぐましい粒々たる研鑽を續けてゐるのであるから、新興工業の尤なるものと評しても、强ち奇矯の言ではなからうと信ずる。

それは偖て置き、この戸塚純鐵製造所長たる原氏は、明治九年一月十二日を以て山口縣玖珂郡岩國町川西に生れた工業家で本邦斯界に貢獻しつゝある隱れたる功勞者である。

東京電氣株式會社

【所在地】川崎市柳町一二〇〇番地
【電話】川崎三六六一番　蒲田三九〇一番
【營業項目】各種無線電信電話送受信機、模寫傳送裝置、テレビジョン裝置、各種眞空管、各種放電管、擴聲裝置、各種マイクロフオン、テレックス碍子、其他電氣機械器具
【資本金】二、四〇〇萬圓
【拂込金】一、五〇〇萬圓
【決算期】毎年四月、十月
【前期配當】八分

【現在の役員】

取締役會長	山口喜三郎
同社長	清水與七郎
常務取締役	柚木清三郎
同取締役	宗正路
同	新開廣作
同	吉村萬次郎
同	道田貞治
取締役	山田卯三男
同	降幡敏
同	今岡賀雄
同	河村允明
同	大山喜四郎
同	藤岡圭助

【支店工場の所在地】

工場	川崎、天津
出張所	東京、横須賀、大阪、金澤、奥、廣島、福岡、小倉、臺北、名古屋、仙臺、札幌、京城、天津、北京、上海

【沿革一班】

昭和十年十月從來の東京電氣株式會社に於て經營せる無線事業一切を繼承し當初東京電氣無線株式會社（資本金六百萬圓）、と稱し、同十二年千二百萬圓に增資、同十四年九月社名を現稱に改更、同十五年八月二千四百萬圓に增資今日に至る。

東京熱電線製造所

【所在地】大森區新井宿七ノ九
【電話】大森（06）六一四三番
【營業項目】ニクローム線、ユーリカ線、マンガニン線、ステンフツス線、純ニツケル線、バイメタル鈑、ステンレス鑄鋼、製造販賣
【支店工場の所在地】
第一工場　大森新井宿七ノ九
第二工場　大森區入新井三ノ一七

【沿革一班】

各種の熱電線を製作して、汎く市場に提供し、嘖々たる好評を博してゐるものは卽ちこの東京熱電線製造所である。

思ふに熱電線の需要は、平時に在つても益々增加の傾向を帶びてゐたが、支那事變勃發以來、頓みに激增を招來し來つたことは隱れなきことろで、斯業の隆替は懸つて國家の緩急に在りと云つても決して過言ではないのである。この國家的意義をよく體得して、優良なる製品を多量に製作し來つた當製作所は正に產業報國の精神を他に率先して實踐したものと看做してよからうと思ふ。

今當製作所の製品を一瞥するに、ニクローム線を初めとして八種の熱電線を揭げてゐるが、これ等は一として當製作所獨特の技術を發揮せざるはなく、一として研究的成果を製品の上に示さないものはないのである。

刻下の非常時局は益々複雜多岐を極める際國防上重要物資たる當所製品の發展を切望せざるを得ない。

川崎公

【生年月日】明治二十九年十一月十七日
【出身府縣】千葉縣
【原　籍】千葉縣夷隅郡東村字山田二二五三
【現住所】杉並區馬橋四ノ四七六
【電　話】中野　六四五七番
【學　歷】早稲田大學商學部
【現在職業】昭和電工株式會社横濱工場事務課長
【家　族】妻　八重子　三十八歳　千葉縣立大多喜高等女學校卒業　長女　良子　十六歳　府立高等女學校在學

早稲田大學商學部出身者で、同期卒業者中でも一と際異彩を放つてゐる成功振りは特筆すべきところと思ふ。

即ち同校を優等の成績を以て卒業すると、昭和五年六月、昭和肥料株式會社に入社したのが活社會に手腕を揮ふ抑もの發端である。それ以來七ケ年の永きに亙つて宛ら一日の如く孜々榮々と社務に忠勤を抽んじた爲め、忽ちその力量を重役に認められ經理課長に拔擢せられた。

越えて同十四年六月には昭和電工株式會社に轉じて會計課長の重責に就いたが、約一年有餘の後即ち同十五年八月に至り、簡拔せられて同社の横濱工場事務課長に轉じ現在に至るものである。昭和電工は世人周知の通り我が斯業界に在つても屈指の大會社であるから、氏の責任も從つて重いと同時に、存分にその敏腕を發揮するに好個の活舞臺と云つてよいであらう。

神岡水電株式會社

【所在地】日本橋區茅場町二丁目八番地
【電　話】茅場町（66）三八六〇番
【營業項目】發電所建設工事、電力供給事業
【現在の役員】

取締役會長	林　新作	取締役	石川榮次郎
常務取締役	龍岡　義延	同	武部　弘成
取締役	原田　信作	監査役	辻　儁一郎
同	古田　正康	同	加藤　貢
同	工藤　正平	同	内ケ崎贊五郎

過般の昭和十五年三月の上半期に發行した考課狀は、第三十六期の營業報告であるほど當社の創業は相當に古いものであつて、この過去の沿革が何よりも當社の强固なる基礎を雄辯に物語つてゐると見て差支へない。併かも尙ほ左に掲ぐる利益金處分書を點檢すれば、健實なる營業方針が窺はれるであらう。

當期純利益	二八九、二六六圓餘
前期繰越利益	二、五八六圓餘
合計	二九一、八五二圓餘

之を處分すること次の如し

法定準備金	一五、〇〇〇圓
役員賞與金	二四、〇〇〇圓
配當金（年八分）	二五〇、〇〇〇圓
後期繰越利益	二、八五二圓餘
合計	二九一、八五二圓餘

日本線材製品工業組合聯合會

【所在地】日本橋區蠣殼町一ノ二（日線ビル）
【電　話】茅場町（66）自三四八一　至三四八四番
【現在の役員】

理事長	石津　武雄	理事	岡島　孝亮
代行員	大島　義男	同	吉田　俊次
常務理事	中島　知道	同	水口　達
理事	鵜塚彦兵衛	同	打浪　吉朝
同	森　彌四郎	監事	杉田與次郎
同	松浦　徹夫	同	長谷川良三

近來各種の工業組合が結成せられ、産業報國の愛國心を基調とせる團體が隨處に果敢なる活躍を展開しつゝあるのは、時局柄誠に歡ぶべき現象と云つてよい。

當聯合會は線材製品工業といふ特殊の工業組合を統一した大同團結である丈けにその機能の絶對的、廣汎的、進歩的であるのは敢て說明の限りでなく、都下斯界の權威者有力者を網羅せる當會の堂々陣容は、銃後の固き護りとして重視せられてゐる。

藤野舜正

【現住所】市川市市川町
【營業項目】彫刻家
【經　歷】

帝都の東郊として風光明媚の市川市に居を定め、淸閑なる地にアトリエを構へて、造形藝術の粹たる彫刻に神來の氣韻を表現し、本邦斯界に於ける新進の譽高いのは、本欄の藤野舜正氏である。

元來、彫刻は歐洲にも發達した藝術であるけれども、わが日本に在つても古來から日本獨得の巧緻なる技術を以て發達したものである。然し、日本の過去に於ける彫刻は主として佛教の影響を受けたる爲め、佛教の彫刻に偉大なるものがあり、歷史上にも多く名工を輩出してゐることは、少しく國史を修學せる者の皆齊しく熟知する通りである。

然るに、明治文化の發祥して以來、歐米の文化が堰を切つて潛入し來り日本傳來の文化に對して尠からざる影響を與へたことは、これ又隱れなき事實であつて、この混亂時代、和洋折衷時代を經過して初めて、新日本を表徵すべき獨創的な新しい藝術が生れたのである。

藤野氏の彫刻はこの新日本の文化を表現し、新日本の彫刻を代表すべき、獨創的の藝術であることは、一般の定評であつてその意味に於ける逸品が甚だ尠くないのである。

今は産業部面と云はず、文化部面と云はず、總て國策の線に沿つて職域奉公に邁進しつゝある時であるが、氏は藝術を通じて烈々たる報國精神に燃えてゐる斯界の俊髦である。

模範賣藥株式會社

【所在地】牛込區津久戸町
【營業項目】製藥販賣
【資本金】十萬圓
【現在の役員】
專務取締役　大島和吉
取締役　中村信治
監査役　歌橋又三郎
三荻村武郎
原金太郎

【沿革一斑】
日露戰役直後、即ち明治三十九年の交に、當時二十臺の青年氣鋭の士が十數名相諮り相協力して製藥事業を企畫したと云へば、少くとも明治文化史の裏面史として、將又、側面史として興味の豐かなことはいふまでもないところである。
その年の十月、資本金三千圓を以て愈々創立の運びとなり、小規模ながら颯爽と雄々しい產聲をあげたのである。これが即ち今日のこの模範賣藥株式會社である。
爾來、社會の幾多の變遷に遭遇しても、依然として社是は變るところなく、今日に至つたものであつて、現在、公稱資本金十萬圓を擁し、日本全國に三千餘軒の取引店を有する華々しい店勢を展開してゐる。

營業品目
一、模範胃散、カタル錠
一、ヒルニン
一、チゲスフード
一、快通
虔修六神丸、鼻耳液
模範目藥
セメンエン散
清月丸
等の外、數十種の良藥良劑に及んでゐる。

東洋眞空工業株式會社

【所在地】横濱市鶴見區鶴見町一一六七
【電話】鶴見三六〇四番
【營業項目】無線電信電話用送信各種眞空管
無線電信電話用整流各種眞空管、一般ラヂオ用各種眞空管
無線電信電話裝置及各種部分品、特殊硬質硝子製品
【現在の役員】
取締役會長　石井泰助
取締役社長　千葉修三
常務取締役　萱沼秀二
取締役　渡邊富三郎、濱野茂
監査役　山本知恒、京田豐吉
顧問　牧野良三、佃久米太郎
【支店工場の所在地】
出張所　麴町區丸ノ内三ノ四　有樂館
營業所　神戸葺合區小野柄通三ノ一五三
工場　城東區龜戸町六ノ一四三
【沿革一斑】
昭和五年二月、東洋電氣合資會社に於て、無線部を設置し、無線送信用並に信用眞空管の製作を從事したのが、その發祥である。
次で四年九月、別に東洋眞空管工業所を設立し、前記無線部と相協力して事業の發展を期し、同六年十月新に資本金十五萬圓の會社を設立し、前記の會及び東洋電氣合資會社無線部を併合したが、更に同十一年十月、合併擴大して今日に至る。

新井皓一郎

【生年月日】明治二十五年八月十日
【出身府縣】群馬縣
【原籍】品川區大井林町三三四
【現住所】右に同じ
【電話】高輪五七一三番
【學歷】東京高等工業學校機械科卒業
【經歷及現在職業】
新興化學研究所經營
【家庭】妻四十二才　二男三女アリ
群馬縣の生んだ新進氣鋭の工業家として、新興化學研究所の經營社新井皓一郎氏の過去半生に於ける奮鬪記は、正に懦夫をして起たしむるの概がある。
鄉里の中學校を卒へた氏は、進んで現在の東京工業大學の前身たる、當時の東京高等工業學校機械科に入學し、常に級中の秀才たる榮譽を恣にして卒業すると、最初に、勤務したのは、品川の金子電氣商會であつた。
併し、獨立心の旺盛な氏は永く他の支配下に在つて甘んじる筈がない。何時かは機會を作つて獨立し、一と旗あげんと好機の到來を窃かに希望してゐたのである。昭和十三年五月愈々宿望を達して現業を創立した。その製品たるアルクラフトは、純國產の鐵鋼の防錆、防腐の加工品で、名實共に日本の化學を誇るに足る。獨創的優良品で、その性能の驚嘆すべきことは、一度び使用せる者の異口同音に禮讃措かざる處である。

淺野セメント株式會社
スレート部東京工場

【所在地】深川區高橋三ノ六ノ一
【電話】本所（73）七九番　四三八番
【營業項目】波板スレート、平板スレート、國光スレート
石綿瓦、製造
【資本金】壹億貳千百參拾壹萬圓
【拂込金】七千參百七拾四萬參千圓
【決算期】四月、十月
【前期配當】六分
【現在ノ役員】
工場長　内藤義一
製造係長　高松魁之助
庶務課長　高橋六郎
【支店工場の所在地】
工場　深川區高橋三ノ六ノ一
分工場　深川區清澄町一ノ八
【沿革一斑】
當工場は本邦の洋灰事業の最高峰たる淺野セメント株式會社の一部面であつて、その技術の精巧なること、耐久力の旺盛なることとは、到底、他に匹敵を見ざるところである。一體、當工場は大正三年十二月十五日に、初代淺野總一郎氏に依つて創立せられたるもので、翌四年二月淺野スレート株式會社となり彼の大震災直後の同年十月淺野セメントに合併して現名に改稱せられ今日に至るものである。

吉岡鑛太郎

【出身府縣】 埼玉縣
【學　歷】 慶大理財科　大正六年卒
【經歷及現在職業】 横濱ゴム株式會社經理部副部長兼調度課長
【家　庭】 妻 京子 四十二才　純一郎 十九才　松子 十六才

横濱工業界を談ずる者は、何人も横濱ゴム製造株式會社に對して、その發展の素晴しさに驚嘆の聲をあげざる者はあるまい。

こは抑も何に依つて然るかと云へば、經營主腦者の協力一致と、善計とに依ることは勿論であるが、他の一つは、多くの人材をその經營陣内に網羅してゐることである。

茲に略歴を草せんとする吉岡鑛太郎氏などは、その代表的人材の第一人者である。

氏は埼玉縣の名門に生れ、鄕里の小學校より中學校を經て上京し、慶應義塾大學理財科に入學し、終始、好成績を收めて卒業したのは大正六年であつた。

その年、直ちに古河合名會社に入社し、青年社員として大に敏腕を揮ひ、多くの同僚間に嘖々たる令名を馳せた。その後、轉じて横濱ゴム製造株式會社に入社し、爾來累進に累進し、今日の如く經理部長兼調度課長の要位を占め今日に至つたものである。

因に本社は横濱市鶴見區平安町二ノ一三一番地（電話(代表)鶴見三三八一—四番）に在る。

涌井袈裟參

【生年月日】 明治三十二年十二月十日
【出身府縣】 栃木縣
【原　籍】 栃木縣芳賀郡中川村飯玲
【現住所】 世田谷區化澤四ノ三八二
【學　歴】 明治藥專　大正八年卒
【經歴及現在職業】 帝國社臟器藥研究所高津工場長
【趣　味】 登山、ゴルフ
【家　庭】 妻 久子 三十三才　長女 和子 十二才
次女 昌子 二才

栃木縣の生んだ少壯新進の工業家たり、製藥家として令名嘖々たる涌井袈裟參氏を照介せんに次の如くである。

氏は栃木縣芳賀郡中川村飯野の人で、明治三十二年十二月十日を以て生れ、鄕里で基礎學を卒へると上京して明治藥學專門學校に入學し、大正八年拔群の好成績を以て卒業した。

然し研究心の旺盛な氏は直ちに實業界に入らず、東京帝大に於て專ら藥化學の研究に沒すること同十一年に及び、豐富なる學殖を獲得したのである。その後、母校より招聘せられて教授となり教鞭を執ること昭和七年に及んだが、更らに轉じて東京女子藥學專門學校教授となり、これ又同十一年に及んだのであつた。

斯る多年の學究生活、講堂生活を重ねて來た爲め、氏の學殖は益々深く同年現職に聘せられ今日に至るものである。

高田鐵工場

【所在地】 横賀市汐留町四十一番地
【電　話】 一九一四番
【營業項目】 海陸軍官納業、土木建築用、金物工事請負、諸機械製作
【支店工場の所在地】 第二工場　横須賀市春日町一ノ四一

製作機關の主腦たる第一工場を、横須賀市汐留町四十一番地の本社に附設し、第二工場を匂しく同市ではあるが春日町一丁目四十一番地に特設し、兩々相俟つて、顯著なる營業成績を收めてゐるのは卽ちこの高田鐵工所である。

その營業科目を一覽するに、土木建築用金物工事請負、諸機械製作を營み、その主なる納入先は、陸軍、海軍の各部を主體としてゐるが、軍部方面の信用厚いことは、他に官納業は尠くないが、當鐵工所の如きは稀有であらう。

これを要するに、斯くの如く牢として拔くことの出來ない信用を官公署に植え付けることは、事甚だ容易なることではない先づ技術の卓越である。次に耐久であり、第三に期日嚴守である。この三要件を完全に具備してゐるのは當所である。

增成土木建築株式會社

【所在地】 京橋區槇町三丁目一
【電　話】 京橋　二〇八八番
【營業項目】 火力發電工事、一般土木建築工事
【支店工場の所在地】
大阪支店　大阪市西區江戸堀上通り三丁目太平ビル
【沿革一斑】

當社は、一般的な土木建築工事をも取扱ふけれども、眞にその特徴を發揮し、主力を注いでゐるのは、何と云つても火力發電工事である。

この代表的事業たる當社の發電工事は計畫より、設計、土木建築工事に至るまで全部請負ひ、又、機械電氣設備より試運轉までは增成動力工業株式會社に於て請負ひ、一切を一貫して統制ある作業施工を完成し、都下の土木建築界に特殊なる業勢を張つて、隆々他に並びなき好說を呈してゐる。

斯くの如き信用と、業績とは當社が過去三十有餘年といふ由緒深い、貴い沿革の所有者であればこそ、初めてなし得るもので、この誇るべき事業は、銃後の國力整備、培養の上に甚大なる功績を樹てつゝあるのは云ふまでもない。

帝國輕合金株式會社

【所在地】豐島區池袋一ノ八〇二
【電話】大塚（86）一二一四番　七一九八番
【營業項目】アルミニウム鑄物業　輕合金鑄造並加工
【資本金】拾九萬圓
【拂込金】全額
【決算期】十月
【現在の役員】
代表取締役　曾我正雄
常務取締役　鈴木要
取締役　齋藤碓　白井規矩　築山德治
監査役　堀田千尋　上島正亨　入江矩夫　幸塚喜五郎
相談役　秋田實
【沿革一斑】

現在のわが國情に於て、軍需、民需を通じて最も必要とせられてゐるのは、輕合金であつて、これが鑄造並に加工に從事するものは、都下に決して尠くないが、當社製品の優秀性は、容易に他の企及すべからざる特色である。

就中、アルミニウム鑄物に至つては正に他の匹敵を容さない處である。

新興油肥株式會社

【所在地】京橋區京橋三ノ四　福德ビル
【電話】京橋　七八三七番
【營業項目】藥用肝油輸出
【資本金】十五萬圓
【拂込金】全額
【決算期】五月、十一月
【前期配當】九分
【現在の役員】
社長　月本二郎
專務　中村新太郎
常務　山田健次郎　富田亮太郎
取締役　川崎大次郎
監査役　高橋彌太郎　月本啓二
【支店工場の所在地】
工場　城東區吾嬬東町八ノ二三
【沿革一斑】

貿易統制、外貨獲得といふことは、今次事變の勃發間もなく國民に呼びかけられた國策である。

その外貨獲得の爲めに、日本の化學工業の精粹を發揮し、これを米國その他の諸國に輸出して輸出報國を實踐してゐるのは當社である。即ち藥用肝油の製造に優秀性を誇る當社は「新興」の名に背かない。

田中信吾

【生年月日】明治三十六年五月九日
【出身府縣】東京市
【原籍】淺草區鳥越町二ノ二一ノ二
【現住所】牛込區東五軒町三五
【學歷】東京高等工藝卒業　大正十五年
【經歷及現在職業】
不動化學工業株式會社製造部長
【家庭】妻　美代子　長男　信博

現在の國際情勢下では、工業の種類を問はず、國家の國防目的の爲めに必要であるが、殊に化學工業などはその重要なるものと云つてよい。

斯ういふ見地からして、勤務先の會社に對して全能力を傾注し、單に社運の伸張に貢獻するばかりでなく、それを通して戰時日本の爲めに盡すところ尠くない。所謂、產業報國の精神を身を以て實踐しつゝある人は、不動化學工業の製造部長田中信吾氏である。

東京淺草の人で東京高等工藝を卒へると九州帝大の聽講生となり後應用化學の助手たること十年、共同印刷研究室に五年の歷を以て昭和十四年現職に就いた。

日本燃燒器株式會社

【所在地】下谷區上車坂二九　新田ビル
【電話】根岸　四四六一、四四六二番
【營業項目】燃燒機械、蒸氣罐、瓦斯發生機、鑛山機械
【資本金】十一萬圓
【拂込金】全額
【支店工場の所在地】
川口市壽町二二三　日燃研究所

燃燒機械といふ特殊なる機械を初めとして、蒸氣罐、瓦斯發生機、鑛山機械等の製作技術に他の容易に追從を許さない卓越性を現はし、市場に好評を謳はれてゐるのは卽ち當然である。

一體、燃燒機械や、蒸氣罐は特殊なものであると同時に總、べての工業の基礎をなすものであるから、重要性に至つては論ずる迄もない。從つてそれを專門的に取扱つてゐる當社の使命も亦大なりと云はざるを得ない。

尙ほ特記すべきは、川口市に日燃研究所を持設し、取締役研究所長佐藤清藏が專心これに當つてゐることで、當社の研究的態度は、これに依つても凡そ推知し得られると思ふ。

松土元明

【生年月日】明治三十四年五月五日
【出身府縣】山梨縣
【現住所】深川區清澄町二ノ四
【電話】本所 八五二四番
【家庭】テフ 七一八二番
妻 三十四才 四男三女あり

現代のわが産業界に立志傳中の人物を求めたならば、必ずしも尠くはあるまいが、本欄の主人公松土元明氏の如きは異彩を放つ一人であらと思ふ。

氏は山梨縣の人で明治三十四年五月五日を以て呱々の聲をあげた。

一體甲州人の美點は、物事に當つてよく機微を疾くも洞察してこれに善處する敏捷さである。世に甲州一系と稱し實業界に侮り難い覇權を扶殖してゐる。最近物故した彼の根岸嘉一郎を初め、現商工大臣と飛ぶ鳥も落ちん時代の人小林一三氏も亦然りである。

わが松土氏はこの俊敏性を誇る甲州人として、其の威力特質とを發揮するのは寧ろ今後で、吾人の期待は專らその將來に懸けられてゐる。

大正十年十二月、日本橋久松町のミシン工場に勤務の傍ら岩倉鐵道學校に通學、拔群の成績で卒業すると、二十四歳の青年期で疾くも家庭を作つたほどの生活力の旺盛な活動家で、令姉の死亡後その後を受けミシン加工業を開始したのが、今日の盛大を招來する端緒となつたのである。

製品は日清紡績加工部を初め其他各方面に供給し、又米國に輸出して外貨獲得に一役を果たしてゐる。

山東鹽業株式會社

【所在地】青島市館陶路二二
【營業項目】鹽販賣
【資本金】壹千萬圓
【拂込金】三百二十五萬圓
【前期配當】年八分 特別配當二分
【現在の役員】
取締役社長 金井寛人
專務 田中國隆
常務 杉浦仲次郎 宮澤甲子三
取締役 春木精三 久保田幾之助
野村康雄
【支店工場の所在地】
東京營業所 京橋區京橋三ノ二 片倉ビル

營業の本據を青島市に置き、大陸的に事業の範圍を擴大して顯著なる業績を擧げてゐるのは、即ち當社である。

公稱資本金一千萬圓の巨資を擁し、生活必需品の王座を占むる鹽販賣を營み、着々として發展の大道を邁進しつゝある偉觀は、正に驚異に値ひするところと云ふべきである。

本年の上半期に於ける鹽販賣取扱高は、日本專賣局納入鹽五萬八千八百四十四トン、朝鮮專賣局納入鹽四萬四千三百九十三トン、工業用鹽四萬五千四百三十六トン、漁業用鹽二千三百八十七トン、內銷原鹽二萬九千七百五十六トン、再生鹽八千七百九十八トン、總計十八萬六千六百十四トンの巨額に達した。

東京鉛亞鉛錫再生工業組合

【所在地】本所區太平町一ノ四
【營業項目】製品及設備檢査並取締、資金貸付
【沿革一斑】

今日の如く和戰兩面に亘つて、國力の總力をあげて高度國防國家の建設を目的とする時代では、總べての事業の統制化が是非必要である。

わが總ゆる產業界が、各その同種同業が一致團結して强力なる組織を結び、その統制ある組織下に在つて事業の圓滑なる運營をなしつゝあるのは、現在、わが產業界の現狀である。

この東京鉛錫再生工業組合も亦、この大勢に順應して夙に組織結成せられたものであるが、今その目的を抄記すれば次の如くである。即ち、その總則の第一條には、

一、本組合は鉛亞鉛錫及該金屬合金の滓、故、屑再生精錬及亞鉛故屑の流替工業の改良、發達を圖るため共同施設を爲すを以て目的とす、と規定してあり、第三條には

一、本組合の地區は東京府一圓とす、とあり、又役員は、理事七名、監事二名でこの理事の內一名を理事長、二名を常務理事として、理事の互選を以てこれを定むとあり、萬事强力なる組織力を以で整備してゐるから、その機能の絕大なることと斯界の發展に寄與するところ甚大なるは特記すべきである。

外山幾郎

【生年月日】明治二十九年八月二十二日
【出身府縣】岐阜縣
【現住所】本所區駒込林町三五
【學歷】東京帝大工學部 大正十三年卒
【經歷及現在職業】小林鑛業株式會社技師長
【家庭】妻 營子 三十七才 四男アリ

岐阜縣の名家に生を享け、最高の學府に學んで、天賦の頴智を一層發揚し、鑛業報國に深身の努力を拂つてゐるのは、小林鑛業の技師長外山幾郎氏である。

明治二十九年八月二十二日を以て岐阜市中新町二丁目四番地に於て呱々の聲をあぐ。鄕里の中學校を卒へると高等學校を經て東京帝國大學工學部に入學し、拔群の優等なる成績を收めて卒業しましたのは、大正十三年である。

直ちに森コンツエルン本據と謳はれた昭和電工株式會社に入社し、爾來、同社の爲めに精勵恪勤、大にその眞骨頭を現はして、社運の發展に貢獻するところ甚だ大なるものがあつた。

次で昭和十五年八月に轉じて現在の小林鑛業株式會社に入社し、技師長の重位を占めたのであつて、同社には未だ多くの時日を閱しないが、疾くも活躍の跡展々たる功績を現はしてゐるところ、流石に氏の手腕力量には敬服の外はない。

因に本社は朝鮮京城府明治町に在り、出張所は東京及び大阪の兩都に特設し、本社と常に連絡を保ち營業の圓滿を圖つてゐる。

合資會社　一元社製作所

【所在地】大森區大森六ノ二六八一
【電　話】大森　四七一二番
【營業項目】航空機器部品の製造販賣、電氣器具の製造
【現在の役員】
代表社員　吉田幸太郎
鬼鞍　信夫　御手洗荒次郎　田中　勝保
鬼鞍　弘起　山内　平八郎　吉田潤一郎
【沿革一斑】

今次の支那事變は、日本の産業界に、全く根抵からの一大變革と一大飛躍を與へたことは周知の通りである。

或は新興のもの、或は擴大膨脹のもの、或は再起のもの等種々あるが、中でも新興創立の事業の夥しさには至つては、正に目を瞬るに値ひする。

當社は斯る機運に善處して、昭和十五年六月創立せられたる新興會社中の新興である。

即ち航空機の部分品を主とし、電氣器具の製造を營み、流石に新興の名に背かない潑剌たる業務を示してゐる。

社長吉田幸太郎氏は明治四十二年二月九日福岡市に生れ、福岡高業學校を卒業し、株式會社三陽社製作所に入社したが、後ち本社經營に當つた新進少壯の事實家である。

須永勝男

【生年月日】明治四十五年二月十五日
【出身府縣】栃木縣安蘇郡上野村
【原籍】本所區厩橋四ノ一六
【現住所】右に同じ
【家庭】夫人　荻江　長男

栃木縣の生んだ少壯氣鋭の活動家であり、且又、立志傳中の花形株として、こゝに紹介する須永勝男氏の如きは、稀に見る自力自成の模範的人材である。

明治四十五年二月十五日を以て、栃木縣安蘇郡上野村に呱々の聲をあげ、鄕里の學校に於て所定の學修を卒へた。そしてその後、先氏は大正九年現業を創業したが、爾來、極めて順調なる發展を遂げつゝあつた。然るに不幸にも病歿したので、その遺業を繼いたのは弱冠の身の氏であつた。

即ち昭和十一年以來、氏の先考の遺業を繼業したのである。

今、氏の事業を見るに、左の如きものである

營業種目

一、諸機械工具類
一、自動車部分品
一、電氣機械、器具部分品
一、プレス拔型、拔型製作
一、プレス作業一般

以上の如き多角的なものであるが、何れも他社の企及を容さない優良なる製品に、市場の聲價は嘖々たるものがあり、少壯の氏の今後の活躍に期待するもの多大である。

株式會社　清水回漕店

【所在地】芝區芝浦二ノ一
【電　話】
【營業項目】回漕業
【現在の役員】
取締役　山尾敬次郎　辻尾　定吉　服部　善信
監査役　藤井卯三郎
【沿革一斑】

都下に回漕店は必ずしも尠しとしない。然し、由緒あり、信用あり、業務の隆々たるものは、即ちこの株式會社清水回漕店である。

抑も當店は、明治十三年の頃、清水清兵衞商店回漕部として創立せられたもので、爾來、極めて順調なる發展の徑路を辿り來つたが、明治四十二年八月に至り、分離して辻尾氏の個人事業となしたが、商號を清水回漕店としたのである。

その後、尙ほ引續き盛況を傳へて來た同店は、大正十一年六月、時代の進運に鑑み、組織を改めて株式會社に擴大した。

爾來、時運の變轉に依つて、業勢上に多少の消長は免れなかつたとは云へ、概して好況を續けて今日に至つたもので、大東京の貨物集散彙しい大都市の運營に、圓滑且つ迅速を以て、社會各方面より絶對的信用を博してゐる。

其の主なる航路臺灣航路、朝鮮航路、其他航路の三大別せられ、最近の年額八萬千八百トンの輸出と、三十一萬二百トンの輸入を取扱つてゐるのである。

安生孝平

【生年月日】明治三十六年九月五日
【出身府縣】東京市
【現住所】京橋區月島西河岸通一〇ノ二
【電　話】京橋　八五六〇、八五六一番
【經歷及現在職業】東京琺瑯鐵器工業組合理事長
【家　庭】妻　ふく　長男　不二夫　次男　昭吾

戰時日本の現狀に鑑みて、各産業部面は競つて同業組合や工業組合を結成して、體勢を整へ、産業報國の實踐に一路邁進せんとする形勢は喜ぶべき現象である。

而してこれ等組合の運營と發揮には、業務を統轄する理事長に適材を得て存分に活躍せしめねば十分その機能を發揮し得ないことは、これ又明かなる處である。

東京琺瑯鐵器工業組合理事長の安生孝平氏は、この意味で正に適所に配された唯一の適材といふべきであらう。

東京京橋區月島の人で、業界の元老たる安生敬三郎氏の長男として生れ、青年時代より父君を扶けて斯業に携はり、斯界に厚い信用を植えつけ、隆々たる業勢を展開しつゝある少壯實業家である。

即ち琺瑯鐵器を營む株式會社清洲商店の社長として不斷の活躍を遂げてゐるが、同業者より推されて組合理事長の重責を双肩に擔ひ、これ又、特筆大書すべき多くの功勞を樹て、斯界の信望翁然として集るの概がある。家庭にはふく子夫人との間に二令息あり、頗る圓滿である。

福永甚錄

【生年月日】明治二十八年十月八日
【出身府縣】滋賀縣
【現住所】向島區吾嬬町東一ノ一〇二
【電話】墨田 四六八二番 四六八三番 六六七三番
【學歷】八幡商業
【經歷及現在職業】
中央理化工業株式會社 常務取締役工場長
【家庭】妻 コマ 四十七才 五男アリ

滋賀縣人の特徴たる堅忍不拔の精神を發揮し、帝都の工業界一方に雄を誇つてゐる福永氏は、同縣神崎郡八幡村阿彌陀堂の人である。

郷里の八幡商業學校を卒へると、現中央理化工業社長の經營に係はる高野鉛管工場に勤務し、精勵して大に手腕を揮ひ、同工場の發展に貢献するところ甚大であつた。

その後、獨立して運送業を營み、これ又、相當の成績を收めてゐたが、昭和二年一月に至り、現在の如き中央理化工業株式會社の常務取締役に就任し、同時に工場長をも兼務し今日に至つたものである。

令閨コマ子夫人は貞淑の婦人でよく家政を修め、長男郁男君(二三)は關東商業出身で現に本社に勤務し、二男隆利君(二〇)は日本大學工學部卒業しこれ又本社の設計室に勤務、三男慶治君(一八)は聖橋高等工業學校出身で、新潟鐵工所に勤務し、其他二男あり。

株式會社 多々良製作所

【所在地】福岡縣糟谷郡志免町御手洗六
【營業項目】撰洗炭機、撰鑛機、喞筒、塵風機、捲揚機 起重機、其他鑛用機械一般
【資本金】二百萬圓
【拂込金】百五十萬圓
【現在の役員】社長 安部政次郎
【支店工場の所在地】出張所 麹町區丸ノ内昭和ビル
【沿革一斑】

昭和十三年十一月の創立に係はるもので、前項に摘記せる通りの多種多様の營業種目を營み、業勢旺んなるものある當社は新興會社中の白眉と云つてよい。

福岡縣下に於ける本社の九州工場は、敷地六萬六千餘坪の廣大なるもので、こは主として熔接工場と他の木型工場の二大工場に使用し、工場内の諸施設は驚嘆すべきものである。

東京工場はこれ又一千三百餘坪の廣大を誇り、内に機械類三十五臺を擁して製作能力絶大である。

中央に於ける東京出張所は、麹町區丸ノ内昭和ビル内に特設し、九州の本社と相呼應して業務の圓滑なる運營に萬全を期してゐるから、年と共に發展を遂げ、業勢、四隣を壓するが如き偉觀を呈してゐる。

思ふに、當社は創立未だ日淺きに似ず斯の如き潑剌たる業勢を示せるは全く社長安部政次郎氏等の奮闘と努力の賜物である。

馬場幸一郎

【生年月日】明治三十八年二月二十五日
【出身府縣】長崎縣
【現住所】江戸川區小岩町三ノ一三八三
【電話】小岩 五四六番
【學歷】帝國大學機械科 昭和三年卒
【家庭】絢子 三三 二男一女あり

最高の學府を出で、天禀の機略を遺憾なく發揮して、日本鑄鋼株式會社の第二工場長たる重位を占むる馬場幸一郎氏は、長崎縣の人である。

明治三十八年二月二十五日を以て、同縣長崎市竹粕町十六番地に於て呱々の聲をあげた。生家は該地方に於ける信望家であつて、氏は少年時代より怜悧の資性を以て喧傳せられた。

郷里の中學校より高等學校に進み、更らに帝國大學工學部機械科に入り、優良の成績を以て昭和三年卒業した。

その後、現在の日本鑄鋼株式會社に入社し、直ちに第二工場長に拔擢せられ、爾來、孜々營々と殆んど倦むところを知らぬ精勵振りを示してゐるのである。

氏は尚ほ春秋に富むところ甚だ多く、將來に於ける活躍と業績とは、今より豫見するを許さぬものがある。

令閨絢子夫人(三三)は彦根高等女學校の出身で、趣味の高雅な近代的女性で、長男幸夫君(一一)、次男雄二君(一〇)、長女幸子孃(七)の二男一女があり、家庭は頗る圓滿である。

富士運輸株式會社

【所在地】京橋區越前堀二ノ二八
【電話】運輸
【營業項目】
【資本金】三萬圓
【積立金】六百五十圓
【現在の役員】
代表 芳村源太郎 ●取締役 中村光次
常務 永井清治 監査役 吉谷專吉
【沿革一斑】

大帝都が日々に呑吐する貨物の數や、離合集散の夥しさに至つては、何人も驚異の眼を見張らざるを得ないであらう。

これに備へて、貨物運輸の迅速と圓滑を圖ることは、大帝都の動態として實に顯著なる現象である。

當社は斯る帝都の現況に應じ、それに即應せんが爲めに創立せられたるもので、創立以來、着々として業績を擧げつゝある優良會社である。

尤も當社は資本金に於ても、從つて規模に於ても決して、巨大なりとは云ひ得ないけれども、極めて堅實で、信望第一主義を社是として全職員協力一致これ努めてゐるから、社運が年と共に伸張しつゝあるのは、當然の結果と云ひ得る。

然し近々增資の計畫中と云はれてゐるから、その實現した曉に於ては、一層、生彩ある業勢を展開することは火を睹るよりも明かである。

南興水産株式會社

【所在地】芝區田村町二ノ一二
【電　話】銀座　二六〇七、五〇三四番
【營業項目】
水産物製造加工養殖輸出入業
【資本金】五百萬圓
【拂込金】全部拂込濟
【決算期】九月末
【前期配當】六　分
【現在の役員】
社　長　杉田芦郎
專務　庵原市藏
常務　上野省三
取締役　吉田春吉
色邊米作
松江春次
【支店工場の所在地】
本　社　パラオ
營業所　サイパン、ポナペ、トラック
出張所　靜岡縣燒津町、大連
【沿　革】

日本で今一番聲高く叫ばれてゐるのは大東亞共榮圏である。この共榮圏の中で最も重要な、そして緊密な線は云ふまでもなく南洋方面であるが、問題の蘭印佛印等より一と足先に、日本の勢力下に在つて、此等生命線の基底を爲してゐるものは、第一次歐洲大戰の遺産たる南洋群島であるといふに躊躇しない。

期く考へて來ると、日本が南洋を獨逸から移讓して統治者となつてから、既に二十年になつてゐるが、その間に於ける南洋諸島の産業的、文化的開發の素晴しさに至つては、正に驚異すべきものであらう。

然らば、この驚くべき産業的開發は抑も誰がしたか、といふと云ふまでもなく我が民間に於ける先蹤的事業家である。

當社はこの意味に於て、南洋諸島開發の功勞者であり、且又、大東亞共榮圏確立の先驅者であると評しても、必ずしも世辭ではあるまいと思ふ。

社名は既に「南興」である。海を通じて南洋を興し、南洋を産業的に發展せしめんとする創立の趣旨は、物の見事に成就し現に其の目的の線を更らに遠いところに置き換へて、一路邁進しつゝある颯爽たる業勢は、太平洋上の一偉觀たるを失はぬであらう。

抑も當社の創立せられた經緯を略記せば、昭和五年十一月、既設の南洋興發株式會社が靜岡縣燒津町の漁業組合と提携し、南洋群島を根據とする鰹漁業と鰹節製造に着手したのがその發祥であつて、漸次、好況を告げて豫期以上の成績を收めたので、昭和十年一月に至り、愈々本格的にこれが企業化を圖り、當初、資本金百二十萬圓の南洋水産株式會社を創立したのである。これが本社の生れた顚末であつて、それ以來、昭和十三年二月と翌十四年十二月の二回に亘り、南洋拓殖株式會社の投資に依り增資を行ひ、現在の如く總額五百萬圓に達したのである。

今では、この全額拂込濟みの巨資を擁し、南洋と、日本本國と、滿洲國をつなぐ三角形を爲す大規模の營業線を張つてゐる有様は、名實共に興亞の意氣に燃え立つ雄々しい、國策的な、男性的の快事業といふを妨げない。

株式會社 江戸川工業所東京工場

【所在地】葛飾區新宿五ノ二九〇〇
【電　話】新宿二四番
【營業項目】
沈降製硫酸バリウム、微粉バライト
各種持許接着劑菱光、グリユー、ヘキサメチレン、テトラミン、ホルマリン、スパーライト、（拔染劑）バラホルムアルデヒイド、エドライト（合成樹脂）製造
【支店工場の所在地】
大阪工場　大阪府豐能郡庄内村蔵江
山北工場　神奈川縣足柄上郡山北町山本九五〇
【沿革一斑】

東京の東端を扼する葛飾區が、新興工業地帶として今次事變の前後より急速に發達したことは、萬人の認むる通りであつて、戰時日本の産業强化といふ主要目的の爲めには、大に歡ぶべき現象といふべきで、こゝに本據を構へて潑剌とした業勢を示してゐる當工場などは、この國家目的達成に、侮り難い一役を帶びてゐるものと云ふべきであらう。

先づその營業種目に眼を放つても釋然たるものがあらうと思ふが、何よりも經營主腦者が、その營業方針に於ても、或は又運營の實際に徵して見ても、産業報國の精神が脉々と波打つてゐる、この精神、この態度こそ産業人として範を垂れるものと斷ずべきである。

當工業所の代表的製品たる沈降製硫酸バリウム、微粉バライト各種を初め、就中、特許接着劑菱光グリユーやその他の拔染劑、合成樹脂類に至つては一として當所の獨得な研究に依らないものがないのである。

即ち何と云つても製品第一主義で、私益を第二義的に考へてゐる當社の社是が尊いのである。これが當所の良心でもあり、又、將來性に富む所以でもある。

次に同工業所東京工場長の武田泰次郎氏に就て、聊か述べるならば、左の如くである、

氏は明治二十七年七月三十日を以て生れ、本年四十臺の脂の乘り切つた年配で今後に尙ほ多くの春秋に富み、多くの活躍的舞臺が約束されてゐる。

學歷は東京帝國大學理學部應用化學科の出身で、初め當社の姉妹會社たる中川製紙工場に多年勤務し、昨年、轉じて當社の人となつたものである。

斯くの如く當社には比較的に新しい足跡しか印してゐないが、前社が姉妹會社の關係から推して考へれば、氏の活躍も事蹟も前後引續き今日に至り、その間に一脉の聯絡があるものと看做して差支へあるまい。

これを要するに、刻下の國際情勢は極めて微妙で、日本の立場は甚だ重要であり警戒すべき狀態に在るのであるから、これに善處するにはどうしても眞に國力の充實を圖り、何時、如何なる局面に際會しても微動だにしない用意が必要であるから、當社の如き重要産業を分擔してゐる會社の發展こそ望ましい限りである。

高木茂

【生年月日】明治三十七年二月二十七日
【出身府縣】岐阜縣
【原　籍】牛込區矢來町一番地
【現住所】滿洲國本溪湖東山鶯友クラブ
【電　話】本溪湖一、〇〇〇番
【學　歴】東大法學部政治學科昭和二年卒

【現在職業】
株式會社本溪湖煤鐵公司

日滿一體といふ言葉は、政治經濟外交軍備の凡ゆる部面に亘つて叫ばれてゐる日滿提携の要諦であるが、萬事は人と人との協和でなければならぬ。

そしてその人の協和の上に固く强く發展せらるべき產業開發の經濟力の提携でなければならぬ。

本溪湖煤鐵公司の名は極めて古く由緒のある名である。無論、滿洲事變に先立つこと遠く、日滿支圓ブロックなどのスローガンが生れない昔からであるが、わが明治四十三年の創立から既に事業を以て提携を實現し來つた日滿協和史上の殊勳者である。

高木茂氏はこの古い沿革を誇る大陸の產業機關に對して、新しい力を注入し、新しい世界觀の觀點から東亞共榮圈の確立に、挺身努力しつゝある興亞の產業人であると云つてよい。

氏は岐阜縣の人で、明治三十七年二月二十七日を以て生れ東京帝國大學法學部政治學科に學び昭和二年卒業した。直ちに大倉鑛業株式會社に入社し、漸次累進して遂に滿洲課長の榮位に就くに及んで、氏の躍進的な本領が遺憾なく發揮するに至つた。同社に在つて精勵すること十三年の久しきに及び、同社の發展に多くの功績を殘して、現在の公司に轉じたのは昭和十五年五月であつた。

故に煤鐵公司に於ける活躍は未だ日も淺く、一々事例を擧ける譯には行かぬが、大倉鑛業の滿洲課長として多年活躍し、現在の產業事情を實地踏破して深く研究した豐かな智識と體驗とは、この煤鐵公司に轉じてから却て遺憾なく生彩を以て發揮する機會に惠まれたのである。

故に今後の氏の活躍に期待するところ甚だ多い所以は、この氏の過去の經驗と、現在、日滿兩國が當面の問題として必死の努力を拂つてゐる大陸資源の開發に屈强の時機とである。時局柄、切に氏の活躍に待つところ多いのはいふまでもあるまい。

次に氏の活躍舞臺たる本溪湖煤鐵公司に就て聊か記すべきであらう。同公司は前述の如くわが明治四十三年に創設せられ、爾來、滿洲大陸の誇たる採炭事業と、銑鐵事業を營み着々と成績を收め來つたもので、時局の切迫に鑑み內容外觀を擴充整備して株式會社に改組したのが昭和十年であつた。それ以來今日まで五ケ年を經たに過ぎないが、基礎が既に確立して局り、事變の進展と擴大の爲め、この五ケ年間に於ける發展は素晴しいものである。

只、勞働力の不足と貨車廻不圓滑の爲め實力を十分發揮出來ない狀態であるがこの故障が撤廢せられるのも決して遠い將來ではあるまい。

理研鍛造株式會社

【所在地】蒲田區本蒲田一ノ一九番地
【電　話】蒲田四八六三番、大森二二〇九番、三四二一番、三九四四番、七八二二番

【營業項目】
各種鋼材の鍛造並に其販賣機械部分品の製造販賣
他の工業會社に投資又は其製造品販賣

【資本金】五百萬圓
【拂込金】全額
【積立金】八萬三千九百六十九圓九十二錢
【決算期】三月、九月
【前期配當】一割

【現在の役員】
取締役會長　大河內正敏
同　社長　染谷關太郎
專務取締役　小林美雄
常務取締役　染谷三藏
取締役　大塚木重義
　　荒萬丈
　　星野一也
監査役　大久保八朔

貞弘重進
田中章一

【支店工場の所在地】
品川工場　品川區北品川四ノ五六〇
蒲田工場　蒲田區南六鄕二ノ三一
前橋工場　群馬縣群馬郡元總社村芦田四九七番地

【沿革一斑】
所謂理研コンツエルンの一翼をなすもので、今次支那事變の勃發に示唆せられ且つ又時局に卽應すべく生れたものである。率直に云へば事變の生んだ新興會社と云つてよい。

卽ち昭和十三年四月一日の創立に係はり同年六月十日更らに前橋工場を建設するに及んで、現在の如き整然たる機構を完備するに至つたものである。

而かも創立以來、絕えず時局の推移に細心の注意を拂つて營業の合理化を圖り無默を省き、能率の增進に努め來つた爲事業は豫測以上の好調を展開しつゝあるので、更らに將來の發展が既に約束せられてゐると看做して差支へない。

今、昭和十五年三月上半期に於ける第四期の營業報告に就て見るに、左の如きものである。

十五年上半期利益金處分案

一、金二二六七、九六四四餘　總收入金
一、金一九八二、六八六圓餘　總支出金
差引金二八五、三〇八圓餘　利益金
金二〇、二〇四圓餘　前期繰越金
計金三五五、五一三圓餘

之を處分すること左の如し

一、金一八、〇〇〇圓　法定積立金
一、金四〇、〇〇〇圓　別途積立金
一、金一二、五〇〇圓　役員賞與金
一、金二〇八、三三三圓餘（一割）　株主配當金
一、金二六、六七九圓餘　後期繰越金

以上の如く極めて好況を呈して居り株主配當も年一割を行つて尙ほ餘裕綽々たるものがある。

要するに當社の事業は事變に卽應して創設せられたるものだけに、その製品は總べて時局處理に必須缺くべからざるもののみであるから、その振否は直接間接國家の方針に影響するところ甚だ大なるものがある。

從つて會長大河內正敏氏を初め重役諸氏の責任も亦大なりと云はねばならぬ。

日本電解製鐵所
北中義

【生年月日】明治三十年十一月四日
【出身府縣】北海道函館市
【現住所】目黒區平町七七
【電　話】荏原三〇一七番
【學　歷】早稲田大學商學部大正十年卒
【現在職業】
日本電解製鐵所總務部長
【家　庭】妻フジ、三十九歳
長男、鶴雄二十歳、二男、義雄
長女、禮子、次女、節子

北海道函館市の人で明治三十年十一月四日を以て生れ、鄕里の學校を卒へると上京して早稲田大學商業部に入學すると常に好成績を收めて進級し、大正十一年優等生の一人として卒業した。

直ちに日本電力株式會社に入社し、漸次才腕を揮つて精勵これ努めた爲め、重役諸氏の信望をかち得るに至つた。

それ以來、年と共に重責の地位に進み、遂に營業課長に拔擢せられ、大會社の重要なるポストを占めたのである。然るにその後日本電力會社と姉妹關係にある、現在の株式會社日本電解製鐵所に轉じ、總務部長の要位に就いたのは、昭和十三年九月であつた。

偖て日本電解製鐵所の概要に就て述べんに、日本電力の姉妹會社だけに、重役諸氏の顏觸れは殆んど日本電力と同一であつて、大正十五年十二月に創立せられたものである。

而して同社が現在取扱つてゐる製造品目を抄記すれば左の如きものである。

製造品目
一、電解純鐵
一、超純鐵
一、マスコロイ
一、超パーマロイ
一、N・Cアロイ
一、十八・八ステンレス鋼
一、一般特殊鋼

右の如きもので孰れも優良性に於て他社などの到底企及すべからざるものであるが、就中、當社の最も誇とするところのものは特許第一三一二八四號の耐熱合金マスコロイである。

これは當社に於て多年苦心研究せる結果發明したもので、日本電業界の爲め萬丈の氣を吐く逸品であるその用途はこれ又頗る廣範圍に渉つてゐるが、殊に電氣の發熱體として最適である。

即ち叙上の有力會社の總務部長の重位に在る氏の責任は決して尋常一樣のものではないが、天賦の俊敏の材たる氏は何の凝滯するところなく圓滑に解決を與へるばかりでなく、進んで業勢の伸張に努めて實績の顯著なるものがある。

年齢の點から云つても、氏は今が丁度勢力の働き盛りであつて、將來には十分なる發展、雄躍する領域を多分に持つてゐるから甚だ多望と云はねばならない。

舟崎悌次郎

【生年月日】明治四十五年十月一日
【出身府縣】和歌山縣
【原　籍】豐島區雜司ヶ谷町二ノ四六八
【現住所】豐島區雜司ヶ谷町一ノ三〇二
【電　話】牛込二八〇六番
【學　歷】京都帝大經濟學部卒業
【現在職業】
現在日本特殊鋼材工業株式會社
取締役町田製作所長
伊藤飛行機株式會社取締役
【趣　味】繪畫、圍碁、將棋
【家　庭】妻、美枝子、二十三歳
長男、達也、二歳

まだ三十歳に達しない青年の力で有力會社に重要なポストを占め、まんまとその重任を完ふするばかりでなく、進んで社運の伸張に貢獻するところ甚だ大なる舟崎氏は、和歌山縣の生んだ新鋭と云ひ得るであらう。

和歌山縣下の名門に生れた氏は、鄕里の中學を卒へると高等學校を經て京都帝國大學經濟學部に進み、昭和十年四月好成績を收めて卒業した。

そして卒業後、直ちに入社したのは東邦電力株式會社であつた。同社は本邦電氣業界に在つて屈指の大會社であることは、苟くも業界に關心を拂ふ者ならば何人も熟知する通りで、この大會社に在つて叩きあげたから、氏の實業家としての第一課は、內容から云つても、技術的方面から云つても申分がない。

併し、氏はこの經驗を以て更らに獨立した、自由の天地に存分の飛翔を試みたいと思つたのは當然で、その後、同社を辭して現在の如く二會社に關係して、孰れも重要なる椅子を占め、東西に才腕を揮つてゐるのである。

先づ氏が取締役であり且又その町田製作所長を兼ねて居る日本特殊鋼材株式會社は、その社名が說明してゐる通り、特殊鋼材を主として取扱ひ、營業の範圍は頗る廣く、信用の厚いことは云ふまでもない。

又、他の伊藤飛行機株式會社に取締役となつて同社運營の樞機に參與してゐるが、これ又、若い潑剌たる元氣と明徵な頭腦を十分發揮して、社運を隆盛ならしめてゐる。

叙上の如く青年實業家としては、豐富な榮殖と云ひ、高邁な識見といひ、旺盛な活動力と云ひ他の老成した本格的な重役を凌ぐほどの偉材で、將來に多くの活動地帶を有してゐる氏の今後こそ、吾人の興味と期待とが懸けられてゐるのである。

美枝子夫人は九段精華女學校出身で趣味豐かに教養の高い近代女性、併かも家政の婦人としても申分がない。一男達也君は未だ二歳の幼少であつて、專ら鍾愛して措かない。

趣味の圍碁も將棋も共に疾くに笹黨を脫し、同好者中の勁敵とされてゐる。

株式會社 三洋商會

【所在地】麹町區内幸町一ノ一松村ビル
【電　話】銀座　四五六番、二〇九七番
　　六二一六番
【營業項目】電氣機械器具製造販賣
【資本金】五拾萬圓
【拂込金】全　額
【現在の役員】
取締役社長　山本秀雄
常務取締役　冬木松五郎
　　服部正計
取締役　田邊新介
　　海保龍吉
監査役　杉崎治三郎
　　山本文雄
【支店工場の所在地】
工場　豐島區西巣鴨一ノ二九三八
電話大塚三八七、三一八九、三一八八、四九三四番
【沿革一斑】

日本は水力電氣の國である。

これは山の多い島國である關係からで、この天惠的工業に依つて、日本の文化がどれだけ開發の速度を早め得たか知れない。

當社がその精巧なる電氣機械や電氣器具に獨自の技術を發揮してゐるが、これは重役諸氏が何れも斯業に對する十分の理解を有してゐることを第一條件とし、第二には能く協力一致の固い結束とそれから、萬事に亘つて科學力を尊重して研究に餘念がないからである。

資本金の點から云へば、必ずしも巨額とは云ひ得ないが、然し事業を運營して行くには何等不足のない適度の資力を擁してゐると思てよからう。

それも、今後には事業の進展に應じて增資計畫も疊に上つてゐるから、近い將來には營業成績の上に尙ほ一段の光彩を添へるであらうことは想像に難くないところだ。そしてそれを裏記するのは當社の製品が、技術が精緻で性能が素晴しいことである。これが何よりの强味でもあり、將來の發展に促進する原動力でもあると云はねばなるまい。

次は當社重役陣營の一人で、常務取締役の地位に在る服部正計氏に就て、聊か素描を試みようと思ふ。

廣島市の人で明治十六年三月十五日を以て生れ、少年時代より海外日本の精神を具現せんとの考から海軍々人を志望し順序を踏んで累進又累進、幾多の武勳を樹てゝ遂に從四位勳三等海軍少將に榮進した。文字通り海の武將である。

その後現役から退陣して、後半生を實業界の爲めに捧げんと、先づ東洋通信機株式會社の取締役に就任したのは、昭和七年六月、即ち彼の滿洲事變の當時であつた。當時わが工業界は、年末の業界沈滯の低調から漸く脱して、徐々に活氣づいて來た頃であつたから、氏の敏腕に俟つところ甚大であつた。

同社の樞機に携はること七年の永きに及び多くの功勞を殘して昭和十四年五月辭した。そして同年十一月常務取締役兼工場長として入社したのは現在のこの株式會社三洋商會である。從つて未だ年餘に過ぎないけれども、過去の貴い經驗が何と云つても物を言ふのである。今後の活躍は各方面から期待されてゐる。

現住所、世田谷區三軒茶屋町二二（六電話世田谷二五七三番）

木暮祿郎

【生年月日】明治二十二年八月十三日
【出身府縣】群馬縣
【現住所】大森區池上德持町六六
【電　話】池上、七〇七番
【學　歷】東京帝國大學工學部卒業
【經歷及現在職業】
寶製油株式會社取締役兼横濱工場長
【趣　味】謠曲
【家　庭】妻、しづ子、四十九歳、長女

日本趣味を基調とせる味覺の推進力たる『味の素』本舗の傍系事業に、取締役兼工場長たる重責を帶びてゐる木暮祿郎氏は群馬縣の人である。

夙に東京帝國大學工科大學（現工學部）に學び、優良なる成績を收めて大正四年卒業すると、直ちに函館船渠株式會社に入社した、これが氏の實業界に巨歩を踏み出した抑もの出發點である。

以來、同社に精勤を謳はるゝこと九ケ年の久しきに及び、その間に自由に才腕を揮つて同社の發展に貢獻するところ甚だ大なるものがあつた。

然るに、考ふるところあり、彼の大震災直後の大正十三年に至り飄然と同社を圓滿に辭去して上京「味の素」本舗株式會社鈴木商店に入社し、同社の川崎工場に勤務した。これが今日の地位を占むる機緣となつたのである。

即ちその後、引續き勤續して眞の力量を發揮し、嘖々たる令聞を社の内外に馳せたのである。

そして、昭和十四年七月に至り、同系の事業たる寶製油株式會社取締役に就任し、同時横濱工場長を兼務し現在に至るものであつて、當社の樞機に參畫する地位を占めてからは、多くの時日を閲しないけれども、氏が今日まで扶殖し來つた信用と、練磨した事業操縱の手腕に至つては、他に多く比類を見ないところと云はねばならない。

故に、この過去の閲歴と、天賦の叡智と、更らに該博な學殖との三拍手揃つた器量を、彌が上にも昂揚して男子の眞骨頭を現はすのは、決して遠い將來ではあるまいと信ずる。

氏は資性溫厚で、併かも胸中には一片の稜々たる氣骨を有して居り、決して權勢の前に阿ねるが如きことは斷じてないから、何人にも高潔なる人格美を以て感動せしめずには措かない。

他面、高雅にして風韻に富む趣味性を有してゐるが、就中、最も愛好してゐるのは謠曲と俳句とである。

勤務を終へると、大森區池上德持の清閑なる家庭の人となり、或は朗々と謠曲をうたひ、或は十七字詩を吟じて佳作甚だ尠くないといふ。風韻ある氏の雅懷は誠に欽慕すべきではないか。

令閨しづ子夫人（四十九歳）は宮城縣立高等女學校出身の婦德高い、そして敎養に富んでゐる人で、氏をして今日ならしめた内助の功はこれ又沒すべからざるものがある。

長女とし子孃（二十一歳）は神奈川縣横濱第一高等女學校を優等卒業した才媛で、日本傳統の女藝は勿論、近代趣味も高く才色兼備の譽がある。

株式會社 日本パッキング製作所

【所在地】蒲田區北糀谷町二五八
【電　話】大森　五三九六番
　　羽田　八九八番
【營業項目】航空機用發動機及部品、自動車用部分品、石綿製品、ゴム製品、各種パッキング及材料、電氣絶縁材料、各種ベルト、各種發條
【資本金】拾九萬八千圓
【拂込金】全　額
【現在の役員】取締役社長　松山博
　　取締役　松山澤
　　監　査　役　杉山陸
　　松山て正
　　ふ平
【支店工場の所在地】各務原出張所
　　岐阜縣稲葉郡蘇原村三市野八九八
　　奉天出張所　奉天市大和區永代町二
　　商事部　芝區濱松町一ノ四
　　商事部出張所　本所區龜澤町三ノ八
【沿革一斑】空の飛行機、陸の自動車は近代文化の表徴であり交通、軍事の尖兵である。

從つてこの文明の兩利器を製作することは現代の文化的威力をリードするものと云て差支へない。

抑も當社は大正九年十月、現社長松山博氏の個人經營として創設せられたるもので、發祥地は芝區濱松町一丁目四番地で商號を松山商店と稱し、當時の營業種目は左の通りであつた。

創業當時の營業品目

一、ゴム製品
一、石綿製品
一、各種パッキング及材料
一、各種ベルト
一、電氣絶縁材料
一、各種發條類

以上を今日の多彩で文化の尖端的な營業種目と對照すれば。轉た感慨無量なきを得ないであらう。

然るに創業三年足らずして突如遭遇したのは、彼の關東大震火災である。然し、熱灰の裡から逸早く蹶起して、滿一年後の同十三年九月には完全に復興再起したのである。

次で昭和三年五月には店舗を本所區龜澤町三丁目八番地に設置し、同七年四月に至り、松山商店製作所を日本パッキング製作所と改稱した。

ところが同七年の滿洲事變が勃發直後の我が對米爲替に變動を來し、米國より輸入する自動車用パッキングは價格急騰を告げ、市場に於ける品拂底を招來したので、これに卽應して純國産に着目したのである。然し、在來よりこの國産化は頗る至難とされてゐたが、當店は種々辛苦の結果、漸く同年十二月にこれが完成をなし、米品を防遏するばかりでなく、却て南米、南洋方面へ多量に輸出する盛況を呈した。

越えて昭和九年九月、飛行第五聯隊、所澤陸軍飛行學校より航空機關發動機に使用するパッキング類の試作を命ぜられ好評を博したが今日の盛大を招來する機緣で、次で日本パッキング製作所を現地に移轉擴大し、益々需要に應じて聲價を昂めたが、同十一年八月に至り、愈々改組すると同時に社名を現稱に變更した。現に陸軍の指定工場として産業報國の第一線に起つてゐる。

日本デイゼル工業株式會社

【所在地】川口市彌平町二五三
【電　話】足立　二六五四番
　　川口　三一三番—四番
【營業項目】機械器具工業、デイゼル發動機製造車輛製造
【資本金】二千萬圓
【拂込金】一千五百萬圓
【積立金】七十七萬四千四百圓
【決算期】五月十一月
【現在の役員】社長　佐久間成一
　　副社長　城戸季吉
　　取締役　佐藤文藝、平沼覺治郎、佐竹三吾、木根淵淡水、小林秀雄、榊春喬
　　監査役　成富信夫
【支店工場の所在地】北京出張所　北京先農壇西六號
　　群山出張所　朝鮮全羅北道群山府東濱町二
【沿革一斑】日本唯一の鑄物都市として、全日本の産業界に燦然なる存在を誇つてゐるのは埼玉縣の川口市である、

この鑄物都市に在つて、就中、特殊なる工業的生彩を發揮し、戰時日本の銃後に於ける强化を、産業部面より分擔し推進しつゝあるのはこの日本デイゼル工業株式會社である。

巨大の資本力を擁し主、としてデイゼル發動機の製造に主力を注ぎ、日本の斯種工業の最高峰を占め、他の諸會社を斷然凌駕して「斯界の王者」たる貫祿と威力を以て君臨してゐる威風堂々たる業勢は、正に驚嘆の舌を捲かざるを得ないであらう。

製作品目はその他、主として自動車の車輛で、これ又、精巧にして著しい性能は他社の到底企及すべからざるもので當社の聲價は昇天の如き勢ひと評しても決して曲筆舞文ではあるまい。

元來、當社は創立以來、本店を東京市麴町區丸の内三丁目二番地に置いたが、昭和十五年一月八日を以て現在の川口市に移轉せしめたものである。

尙ほこの移轉に先立ち、同十四年十月には營業目的の内容を變更しこれが登記を了したのである。卽ち次の通り。

(一) 機械器具工業
　一、原動機製造業（特にデイゼル發動機）
　二、採鑛、選鑛及製錬機械器具製造
　三、工作機械器具、金屬工機械、工具品
　四、車輛製造（自轉車）
　五、造船業
　六、航空機製造
　七、其他の機械器具製造
　八、前各業の製造品の販賣並輸出入
(二) 兵器及兵器部分品製造業
(三) 自動車による對旅客貨物の運輸營業
(四) 前各號に關聯する業
(五) 他會社に對する投資及有價證券保有利用

以上の如きもので、その廣範圍に亘り各種重要機材を網羅してゐるところ、當社の國家的重要性がある。

利益金處分抄（昭和一五年上半期）

一、當期利益金	三二三、八七九圓餘
一、前記繰越利益金	二六、九五八圓餘
合　計	三五〇、八三八圓餘

以て堅實振りを推知するに足らう。

株式會社 木下商店

【所在地】京橋區寶町二ノ五
【電　話】京橋 一三五二、一三五三、二四六二、八八七二、五八四七番
【營業項目】
鋼材一般、釘針金、スコップ、鋲力板、特殊鋼材、ショベル、トタン板各種合金板、美裝鋼板
【資本金】五拾萬圓
【拂込金】全額
【決算期】十月
【前期配當】年六分
【現在の役員】
代表取締役　木下茂
取締役　久保辰吉
　　三輪種彦
　　馬場正吉
監査役　鶴森龜藏
　　齋藤文雄
【支店工場の所在地】
大阪支店　大阪市西區立賣堀南通二ノ五七
天津出張所　天津日本租界芙蓉街二六

【沿革一斑】
營業の根據を都心たる京橋區寶町二丁目に構え、潤澤なる資本力と、强靱なる重役陣とを以て、各種の機材を販賣して隆々たる業務を誇つてゐるのは、卽ち、この株式會社木下商店である。
その取扱ふところの鋼材一般を初めとして、釘、針金、スコップ、鋲力板、特殊材、ショベル、トタン板、各種合金板及び美裝鋼板は、一として品質の卓越せざるはなく、性能の素晴しく他店の商品を壓倒せざるはなしといふ有樣で店運の隆々たるのは當然のことと云はざるを得ない。
又、當社と姉妹關係に在る中藤シヤリング株式會社の現況を摘記すれば次の通りである。

中藤シヤリング株式會社

【所在地】本所區綠町三ノ二四ノ三
【電　話】本所三三三二番
【營業項目】鐵板切斷販賣
【資本金】拾萬圓
【拂込金】五萬圓
【決算期】十一月
【前期配當】年六分
【現在の役員】
代表取締役　高木龍尙
取締役　中村藤太郎
同　鵜川澤太郎
監査役　中村正太郎
同　高野勝藏

當社は旣報の如く、前社と姉妹會社といふ密接不可分の關係に於て成立せられたもので、その取扱ふ品目は專ら鐵板切斷販賣である。
營業成績も、亦極めて順調であつて、必ずしも目覺しい好況を示さないまでも至つて堅實なるコースを辿り、將來の發展性を十分に培養しつゝあることは、その利益處分に就て見ても一目瞭然たるところと云はねばならない、
これを要するに當社は、前揭の木下商店と兩々相俟つて、戰時下の日本の產業界に、直接間接寄與するところ尠くないのは兩社を通じて重役諸氏が產業報國の精神に燃え公益優先を率先して實行しつゝあるからである。

羽田精機株式會社

【所在地】蒲田區糀谷町五丁目一、二二二
【電　話】大森 二二四二、三五六〇、六八七三、六九四五番
羽田 六九五番
【營業項目】
車輛、內燃機製造
【資本金】五百萬圓
【拂込金】全額
【現在の役員】
取締役會長　林莊治
專務取締役　佐藤外美雄
常務取締役　久慈榮壽
監査役　林二郎
　　高橋信一
【工　場】羽田工場、龍ヶ崎工場

【沿革一斑】
一と口に羽田と云へば直ちに飛行場を聯想し、近代科學の空の王者が蒼空を切つて快翔する姿を想はないものがないほど、羽田と飛行機、羽田と近代科學工業とは不可分の關係に結ばれてゐるのである。
當社は、斯る近代科學の發祥地とも評すべき羽田に製作の本據を構え、主として、車輛、內燃機の製造を營んでゐるが、この兩機は孰れも精巧なる技術と、性能の威力と耐久力又驚くべきものがあり、何れの角度から檢討しても、何等批難すべき缺點も認められない優良品であることからは、喧々たる市場の評判が、何よりも雄辯にこれを物語つてゐると見てよいと思ふ。
當社は昭和十二年七月三日の創立と云へば、實に今次支那事變が勃發する四日前である。
この機微なる時期に、雄々しくも發祥の產聲をあげた當社は謂はゞ、生れ乍らにして先づ「天の時」に惠まれたものと云ひ得る。
次に重役陣を構成する會長初め各重役諸氏の顏觸れである。これは一人として報國精神に燃えないものもなく、一人として斯業と時局との密接なる關係を自覺せざるはなく、而かも强力なる團結力を以つて結ばれた、固い强い紐帶である。これが卽ち「人の和」である。
第三には、劈頭に述べた通りの發祥した地域の關係であつて、こゝに「地の利」が認められるのである。
以上、「天の時」と「人の和」とそして「地の利」の三位一體が完全に、且つ又、適時適度に結ばれたことは、何よりも當社の發展を先づ根柢に於て確立したものと云ふべく、支那事變と共に生れ、事變と共に進展し來つた當社の營業成績は、今後那邊にまで伸張するか、俄かには豫測を容さないものがある。
尙ほ當社は、羽田工場と、龍ヶ崎工場の二大製作機關を有して居り、孰れも內容諸設備の完全と、製作能力の絕大、技術の卓越を誇つてゐるが、殊に龍ヶ崎工場は車輛及び內燃機の製作場として專ら擴充に努め生產量增强の强行軍を斷行しつゝある。
從つて前半期には過渡期にも拘らず、半期の生產額三百四十九萬六千餘圓の多額に達し、三十一萬九千餘圓の利益を收めた好況振りである。

小沼　靜

【生年月日】明治二十九年十一月一日
【出身府縣】茨城縣
【現住所】水戸市田見小路六五五
【學　歴】水戸中學校大正三年卒業
【經歴及現在職業】
昭和產業株式會社赤坂工場長
【趣　味】圍碁、園藝、讀書
【家　庭】妻　すゑ、四十二歳
長男　太郎

久しく地方に警察官を奉職してゐた關係上、身を持するに極めて謹嚴で、實業家の動もすれば放縱の弊などは微塵もなく、而かも恩威竝びに行はれる態の圓滿な性格は、流石に、その前職の威力であると思はしむるのである。

斯く評し來る時、氏の如き識見高く威嚴があり、加ふるに胸裡に溫かい同情心を懷いてゐる士こそ、眞に理想的な工場長と云はねばならぬ。

從つて氏をその製作機關の一翼たる赤坂工場長の重信に起用した、當社重役諸氏の炯眼に至つては驚嘆するところである。

氏は茨城縣の人である。明治二十九年十一月一日の誕生と云へば、今は四十臺の壯氣旺盛たる働き盛りで、今後の活躍に期待せられるところ甚大なるは、決して異しむに足りない。

鄉里の水戸中學校を大正三年卒業すると、直ちに警察官を希望して奉職以來よくその本分を自覺し、格勤精勵、地方の治安の維持と警察行政の上に多大の功績を樹てたので、水戸警察署長に拔擢せられたのである。そして益々其の重責を完うするに汲々之れ務めた爲め、治責大に見るべきものがあり令名四隣を壓するものがあつた。

昭和十一年九月、愈々、退官して實業界に轉向し、當昭和產業株式會社の聘に應じて入社、赤坂工場長の重椅を占めたのである。

一體、工場長の職責は甚だ至難の地位であつて、上には經營首腦者の重役諸氏があり、下には生產戰士として煤煙濛々たたちこめる。工場裡を職場とする多くの從業員がある。その中間に在つて、兩者の意志をよく疎通せしめ、兩者の福祉增進を圖らねばならない楯の兩面を有するものと云はねばならないのである。

斯る至難且つ重大なるポストに坐はる人物は、先づ多くの從業員を心服せしむるに足る人格者でなければならぬ、第二には業界全般の動向を察知して過らざる洞察力が必要である。

こういふ地位に、わが小沼靜氏の如き最適、最良の人材を得た昭和產業の將來は實に多倖と云ふべきであらう。

家庭には令閨との間に一男あり、すゑ夫人は土浦高等女學校を卒業した婦德の高い婦人で、長男太郎君(二一歳)は現に水戸高等學校に在學中で、頭腦明晰、學術優等といふ文字通りの秀才である。

然し、所謂俗に秀才型と云はれる、蒼白い不健康タイプではなく、身體も亦强壯、心身共に完き學生で、將來の洋々たる多倖なる活舞臺は、今より想望するに餘りありと云ふべきである。

昭和計器工業株式會社

【所在地】世田谷區玉川用賀二ノ二一三
【電　話】青　山　一四六〇番
世田谷　四四六四番
玉　川　三五九番
【營業項目】一般計器
【資本金】五拾萬圓
【拂込金】全　額
【現在の役員】
取締役社長　鈴木由郎
常務取締役　櫻井正勝
取　締　役　鈴木啓介
同　山崎種二
同　佐野米松
監　査　役　山崎孝
總務部長　川久保明

總べての工業製作上の基準となり、その精密度、正確度の如何に依つて、施工上に甚大なる影響を與へるものは云ふまでもなく各種計器類である。

從つて現在の如く精密機械萬能時代には、計器類の需要と、これに對する要求の最も著しい現象は當然の歸趨を見るべきであらう。

當社は斯る時代の欲求に應じて、最も正確度誇る優良品の各種計器を製作し、廣くこれを一般に提供して嘖々たる市場の聲價を恣にする、本邦斯業界の至寶と云つても、決して溢美ではあるまいと思ふ。

資本力の點に於ては、必ずしも巨大ではないが併し事業經營上に適度の資力を擁し、これが運用には各重役諸氏は協心一體となつて萬遺漏なきを期するばかりでなく、最も有効適切の途を講じてゐるところに、當社の堅實性が窺はれるのである。

創立は昭和十二年二月と云へば、宛も今次支那事變の勃發した年であつて、當社は恰も其の年の夏七月七日の彼蘆溝橋の銃聲一發を未然に感知して、わが銃後の產業の整備と强化とに備へたかの觀がある。それほど、時局の動向、變化に敏感であつたことは、特記に値ひする處と思ふ。

故にこれは決して偶然でもなければ、僥倖でもない。要するに社長鈴木由郎氏、常務取締役櫻井正勝氏を初め各重役諸氏の先見の明と云つて然るべきではあるまいか。

即ち創立後僅々半歳を出でずして未曾有の戰亂を大陸に展開するに至つた爲め製品の需要は加速度的に激增を來たし、製作は常に需要受註に追はれ勝ちの盛況を呈して、忽ちの間に今日の如き泰山の如き固い、そしてどつしりとした社礎を築き上げたのである。

尙ほその發展の背後を具さに檢討すれば、發展の原因は單に外界の事情のみに依るのではない。內容の整備は勿論、これが運營に直接携はるところの人的要素の嚴選である。

重役諸氏の顏觸れは勿論、經營の中心となる總務部長に新進氣鋭の士川久保明氏を配したことである。

氏は新潟縣の人で明治四十一年三月二十六日生れ、昭和五年東京商大を卒業すると或は北海道の銀行に或は横濱の兵器會社に展勤し本年五月當社に招聘せられてこの椅子を占めたもので、今後の活躍を各方面から囑望せられてゐる。

昭和電工株式會社

【所在地】 京橋區寶町一ノ七
【電　話】
【營業項目】
アルミニウム、ニッケル、金、銀、銅鐵其他金屬類、硫酸アムモニア、石灰窒素其他肥料類、化學工業機械鑛山機械、其他機械の製作並に賣買

【現在の役員】
取締役社長　鈴木忠治
專務　佐野精一、石渡吉治
常務　米村貞雄、安西正夫
取締役　高田儀三郎、石坂泰三
穴水熊雄、安田彥四郎、横山武一、藤村龍麟、中島康作
新井章治
監査役　浦山助太郎、曄道文藝
石毛竹治郎

【沿革一斑】
日本業界の現況に於て、昭和電工の偉名は苟くも斯界に一隻眼を放つものゝみに均しく熟知する處と云つてよい。

その營業項目に就て見ても、戰時下に於て國防上にも、軍事上にも、將又所謂平和產業にも凡ゆる方面に缺くべからざる重要なる效用價値を有する金屬類を初め、化學工業機械、鑛山機械、その他の諸機械の製作を行ひ、廣くこれを販賣してゐる隆々たる業勢に至つては、誠に驚嘆に値ひするところと云はざるを得ないのである。

創立以來、着々と業績を伸張せしめて來たのはいふまでもないが最近、殊に今次支那事變の勃發以來は、一層、急角度を描いて發展し、業務隆々として四隣を壓するの概がある。

今、試みに最近に於ける即ち昭和十五年度上半期）自昭和十五年四月一日至昭和十五年九月三十日（に發刊公表した第三回營業報告書に就て、營業狀態を點檢するに、極めて良好であるが、その中でも利益金の處分狀況に就て、少々計數を示せば左の通りである。

第三期損益計算書
（自昭和一五・四・一
至同一五・九・三〇）

一、當座總益金	五四、二三四、一六〇圓餘
一、當期總損金	四五、九三五、五八一圓餘
一、差引利益金	八、二九八、五七九圓餘
內 資產償却金	四、〇〇〇、〇〇〇圓
再差引純利金	四、二九八、五七九圓餘
利益金處分	
一、當期純益金	四、二九八、五七九圓餘
一、前期繰越金	一、〇九六、六九〇圓餘
合計	五、三九五、二六九圓餘
內 法定積立金	二一五、〇〇〇圓
役員賞與金	一一〇、〇〇〇圓
職員給與基金	一五〇、〇〇〇圓
配當金（年八分）	三、八〇〇、〇〇〇圓
後期繰越金	一、一二〇、二六九圓

以上掲げた數字に就て見ても、極めて堅實なる成績を收め、利益金も豐富であるに拘らず、株主配當金も年八分に止め專ら社礎の强化と、繰業資力の增强とに當てゝゐるところは、流石に强大を誇る昭和電工だけはあると、何人をも首肯せしめすには措かないであらう。

時局益々多岐となり重大化しつゝある現在、當社の負うべき國家的使命は愈々大である。

杵島炭鑛株式會社

【所在地】 佐賀市白山町二十七番地
【資本金】 壹千萬圓
【拂込金】 全額
【現在の役員】
社長　高取盛
副社長　高取九郎
專務　小野好郎
取締役　永井永儔
同　吉田榮治
同　垂井保平
同　多々見茂平
監査役　森永卓次郎
【支店工場の所在地】 東京、大阪、佐賀
名古屋

燃料國策といふ言葉は、我々には最早や耳にたこの出來るほど絶えず叫ばれてゐる問題である。

殊に、今次の支那事變が勃發してからは、一層、力强く高唱せられ、その振否は延いては我が國運の、或は國防上の隆替に非常なる影響を及ぼすことは、何人も熟知するところであらう。

顧つて我が國に於ける石炭の分布狀況に就て見るに、大別すれば九州地方と、東北地方と、北海道地方の三大別することが出來るが、中でも最も採炭量も多く炭質の良好なるものは云ふまでもなく九州地方である。こゝに現況の略記せんとする杵島炭礦株式會社は、該地方は勿論廣く九州採炭界を通じて大小幾多の炭礦がある中にも、炭質の優秀を以て誇る屈指のものである。

現に公稱資本金壹千萬圓（全額拂込濟）の巨資を擁し、古い沿革と、新しい機構と、最良の炭質と、最多の採炭量と、凡ゆる誇るべき特色を遺憾なく發揮してゐる當社の偉觀は、九州採炭界を睥睨して餘りありといふべきである。

而して當社の代表的炭坑は次の如き二大炭坑である。

當社二大炭坑

一、佐賀縣樣島郡大町杵島炭坑
一、同縣松浦郡八野村大鶴炭坑

以上が卽ちそれで、敎れも當社の至寶とするほど豐富なる埋藏量を有してゐるが、殊に杵島炭坑は當社の企業を代表し社名に冠せられてゐるだけに最も有力なるものである。

この兩炭坑に從事する從業員の數は頗る多く、晝夜の別なく懸命の努力を拂ひ經營者側もこの從業者側も協力一致して採炭報國の精神を捧じ、戰時日本の燃料問題の解決に備へんとしつゝある有樣は全く推服せざるを得ないところである。

次に營業機關に就て、略述すれば、左の如きものである。

當社の營業機關

一、支店所在地
東京、大阪、佐賀
名古屋、住の江
一、出張所々在地
以上がそれで、何れも佐賀市白山町の本社と緊密なる連絡を執り、迅速敏活なる機能を以て需給の圓滑を圖つてゐるのである。社長高取盛氏、副社長高取九郎氏、專務小池好郎氏等を初め他の重役諸氏は何れも信望あり、實力ある有力者揃である。

理研アルマイト工業株式會社

【所在地】京橋區銀座西二ノ三
【電　話】
【營業項目】アルマイト加工
【現在の役員】

取締役社長　平沼覺治郎
專　務　佐久間成一
同　池田寅一
常　務　鹽入德義
同　中西善太郎
取締役　圓城留二郎
同　田邊德五郎
同　木根淵淡水
監査役　中山五郎
同　成富信夫

戰時日本が、こゝに五年越しの軍事行動を續行せんとする古今未曾有の國家非常時體勢を持續し來つたが、この間に於ける國内産業部面の統制と、强化とは何人も聞睹する通りである。

就中、目覺ましい發展を遂げ來つたものは、アルマイト工業の發展であつて、アルミニウム製品の最後の一箇に至るまでこれをアルマイト化せんとするの傾向を示し、特需に民需に、晝夜間斷なく加工を續け將にアルマイト輕合金時代を現出せんとするの偉觀を現出したことは、時局に鑑みて誠に歡ぶべき現象と云はねばならない。

斯る歡ぶべき傾向を馴致した功勞者にこの理研アルマイト工業株式會社の活躍を到底見逃してはならぬ。

こは當社が年來の理想となし、營業達成の目標として邁進し來つたところであつて、國産アルミニウム資材の增産と相俟つてアルミニウム輕合金の新たなる用途の開拓に懸命の努力を拂ひ、以て産業報國の實を擧げつゝあるのは、單に當社の爲めに慶賀するばかりでなく、廣く國家の爲めに、力强さと、頼母しさを痛感するものである。

當社が豪に投資した日本デイゼル工業會社は、愈々技術陣の充實を完成し生産力の增進を圖り、國産資料によるその性能は獨逸製品を凌駕する秀優品を、併かも相當量生産するに至つたことは特記に値ひするところである。

殊に技術上最も困難とせる噴霧ポンプ並にノヅルの製作にも成功し、近く輸入の要なきまでに至つたことは、時局柄、頗る意を强うするところである。

而してその組立材料たる輕合金が豫期の如く、當社工場に於て製作せられつゝあるのは固よりで、今後同製品の新品は益々輕合金化せられんとする傾向を示してゐるから、この二社兩々相俟つて今後益々大發展を遂げるのは、火を睹るごとき明かなところと信ずる。

偖て、當社の沿革であるが、昭和九年三月の創立に係はるもので、今、最近に於ける卽ち昭和十五年九月の營業成績に就て見るに、數字上よりすれば次の通りである。

一、三十五萬圓（年一割）株主配當金

であつて、この好配を斷行し得るのは當社の經營方針よろしきが爲である。

東工業株式會社

【所在地】日本橋區大傳馬町二の一の一
【電　話】
【營業項目】木炭瓦斯發生爐製作販賣
【現在の役員】

取締役社長　鈴木修三
常務取締役　津島秀登
取締役　下郷豐彦
同　田中龜一
同　渡邊定二
同　柏木登
監査役　彔房重太郎
同　町田三郎

【沿革一斑】

時局の深刻化に伴れて、ガソリンの節約が益々聲高く叫ばれ、街頭より自動車の無統制なる疾驅を停車せしめ、只管燃料の確保に努力を拂ひつゝある現在のわが狀態は、時難克服の爲めこれ又當然の所置と云はざるを得ない。

然らば、ガソリンは節約するが、自動車の必要は決して減少した譯ではなく却つて必要が增加しつゝあるので、この矛盾を整理し、最善の解決を與へんとするものは卽ち木炭瓦斯の發明でありその出現である。

當社は斯る國策の線に添ひ、燃料報國の至誠を第一義となし、所謂、國家の爲めに公益優先の趣旨を根柢として、昭和十三年八月五日を以て創立せられた、新興會社中有力なる一翼を爲すものである。

卽ちその營業目的は木炭瓦斯發生爐の製作に在るもので、當社が創立以來、獨創的な研究の結果に成つた精巧で、効率の高い木炭瓦斯發生爐を製作し、忽ちにして市場の好評を博した所以は、全く製品そのまゝの優良性に基くものであることは云ふまでもない。

先づ當社の製作上、營業上の兩部面に亘つて機構化せられてゐる二大部門に就て、夫々その現質を略記すれば左の通りである。

一、發生機部

當部に於ては前期に引續き好調を示せる成績を示し、販路益々擴大化しつゝある狀態である。

先に川口工場火災の際幸に發生機部は損害極めて僅少で、何等操業に支障なく木炭瓦斯の認識昂まるに伴れて當社製作の該機の需要は益々拍車をかけ、移動式に於ては日本燃料機會同會社設立を見、定置式に於ては農林省及各府縣の後援のものとに、益々販賣網を擴張し國策的事業の眞價を發揮した。

一、兵器部

當部も前期に引續き躍進途上を一路邁進しつゝあり。今年二月の工場火災に打擊を蒙つたが、全職員協力一致して復興に努め、忽ち倍舊の業勢を展開するに至つたのである。

利　益　金

一、二萬七千九十五圓　當期純益金
一、二萬四千八百六千七圓餘　前期繰越金
合計五萬一千九百六十二圓餘

で、株主配當は年七朱に止め、專ら社礎の强化に努めてゐる。

東洋紡織工業株式會社

【所在地】 城東區龜戸町七丁目五十番地
【電　話】
【營業項目】 毛糸毛織物、綿製品の輸出
【現在の役員】

取締役社長	門野重九郎
專務取締役	古澤大作
常務取締役	松阪德重
取締役	河西豐太郎
同	田邊七六
同	太田文雄
同	中村庸
同	松下外次郎
監査役	佐野精一
同	園部潛
同	脇道譽
同	橋爪庸藏

【沿革一班】

日本の工業を代表するものは纖維工業であつて、各種の人造纖維類の製作技術が、長足の進歩を以て發達し、纖維日本の威力を世界に示してゐるのである。

當社は、その世界に誇るべき纖維日本の爲めに、萬丈の氣を吐く强力なる一翼である。

抑も當社は明治四十年一月十五日の創立に係はり、今日まで實に三十三年の貴い沿革を誇る本邦斯界の雄である。

創立以來、幾多の變遷を經て現在に及んだもので、その間、時には多少の消長を免れなかつたが、概して好調を以て終始し、年と共に社礎を强固ならしめ、遂に今日の微動だもしない盤石の强靱さを築き上げたものである。

今、昭和十五年上半期に於ける營業成績を略記すれば次の如きものである。

即ち歐洲戰亂の擴大に伴ひ諸列强の向背は全く端倪を許さないものがあり、一方、南京政權の樹立後もにわかに平和來が豫想せられない情勢下に在つて、わが平和產業の使命を擔ふ當社は、一路邁進した爲め、輸出に於ては專門工場を充實して販路の擴張をなし、積極的進出を實現した。又、內需向としても多年研究の精華たる代用纖維の應用に依る各種新製品の生產に獨特の技術と餘力と注ぎ、殖々たる好評を獲得した。

次に當社の營業及び製作機關の所在地を列記すれば左の如きものである。

諸機關の所在地

一、東京營業所
　京橋區銀座三ノ三中屋三間ビル
一、大阪出張所
　東區淡路町三ノ二〇淡路町ビル
一、名古屋出張所
　中區廣小路通六ノ三住友ビル
一、濱松出張所
　濱松市板屋町一六一
一、各工場名
　龜戸、靜岡、練馬、三重、神根

右の如き整然たる機構を所有して、何れも圓滑敏活なる連絡を保ち、社業の運營に萬全を期してゐるところ、正に一大偉觀と云つてよい。

これを要するに、日本の纖維工業を代表する當社の隆替は、延いて國力の消長に影響する處大であるから、當社の將來に期待するところ甚大である。

合資會社 石橋計器製作所

【所在地】 葛飾區新宿町三ノ二九八九
【電　話】 新宿二七七番
【營業項目】
自動車計器、自動車部品、航空計器
精密一般計器、刄具工具、檢査具、
化學用機器、精密部品加工
【資本金】 十六萬圓
【拂込金】 全額
【決算期】 三月
【現在の役員】

代表社員	石橋毅
專務理事	小川豐明
支配人	齋藤盛雄

【支店工場の所在地】
巢鴨工場　豐島區西巢鴨三丁目
販賣部　芝區田村町二丁目

精密工業の眞價を發揮し得るか否は、一に懸つて計器類の性能の良否に在りと云つても過言ではない。

この重要性に着眼して、石橋新次郎氏が大正六年五月個人經營として創業したのが、即ち本社の今日在る抑もの發端である。

それ以來、石橋氏の奮鬪と努力とに依つて、國產タキシーメーターの試作に成功し、着々と基礎を築き上げたのであるが、創立當時は、宛も第一次歐洲大戰の影響を受けて、わが一般財界は好況を傳へ、加速度に好調を昂めつゝあつた時とて、氏の事業も亦この氣運に乘つて隆盛に趨いたのは當然だ。

越えて昭和十一年六月に至り、愈々時運に順應すべく個人經營を改めて當初資本金五萬圓の合資會社となしたのである。次で今次の事變に促され一擧十六萬に增資を行つたのは同十三年六月であるが、實投資額は五十萬圓に達してゐるので社礎の强固なることはこれに依つても明かであらう。

尙ほ同年四月には商工省度器製作免許を受け、同年八月には、三千五百餘坪の地域を買收し、これに新工場を新築し、機械器具の大增設を爲し、內容の充實に努め、生產の擴充を圖ると同時に本社をこゝに移轉したのである。同年十二月には優良國產自動車部品として商工省より認定を受けた。即ち當社の自動車用「速度計」が斷然他を壓倒して優秀振りを發揮したのである。

次で同十四年四月には、優秀なる技術及德育を施すを目的として青年學校を創設し、男女青少年見習工を入學せしめ、青年技術者養成に努めてゐるが、現在五十二名の學生を收容してゐる。この良心的な、國家的な點は特筆すべきところである。

而かも同年には、陸軍兵器本部より秤計器及び電流計を、又、陸軍第一造兵廠よりは鑑、雜金具等を夫々指定せられたのである。

次に、當社の主なる取引先は、陸軍各方面を初め、次の如くである。

主なる取引先
陸軍各方造兵廠
商工省
東京府
東京市
株式會社京三製作所
株式會社新六商店
其他民間有力會社多數に及んでゐる。

株式會社丸鐵工所

【所在地】深川區毛利町二番地
【電　話】本所　一三八八、三二四四
　　三八〇三、三九〇三
　　五八三六、五九七八番
【營業項目】
　蒸氣罐、消毒機、各種諸機械
【資本金】五十萬圓
【拂込金】二十七萬五千圓
【決算期】三月、九月
【現在の役員】
　社　長　丸　清　治
　專務　中原三治
　取締役　三弊庫吉
　　小川富士男
　　丸　美
　監査役　兒玉勝一郎
【沿革一班】

江東深川は漸次工業色を濃厚ならしめつゝあることは、少しく活眼を放つ者の何人も感知するところと思ふ。

そして、その傾向を感知し得る程の者ならば、そこに新興の意氣を煙突の媒煙高く誇つてゐる、株式會社丸鐵工所の存在眼をそばだたさざるは無からうと思ふ。

云ふまでもなく當社の沿革は、社長丸清治氏の奮鬪記そのものであつて、昭和十二年に時局に鑑みて株式會社に改組擴大するまでの個人經營時代は、丸氏の苦心と活動の連續であつた。

偖て當鐵工所の製品に就て述べんに、第一に技術の精巧であるばかりでなく性能も素晴しく、耐久力の點に於ても他に比類を見ないと云はれてゐる蒸汽罐を初め、消毒機、その他各種諸機械は一として當鐵工所が苦心研究の餘になつた優良たらざるはないが、それは總べて社長丸氏の努力精勵の結晶と云はねばなるまいと思ふ。

勿論、株式組織の今日社長の個人的力のみを重視すべきでなく、專務取締役中原三治氏の統御力と、三幣庫吉氏、小川富士男氏及び丸英氏等三取締役と監査役兒玉勝一郎氏等の精勵と協力とが大に與つて力あるが、丸社長を中心とし、これ等五重役が萬事協議體的に事業運營に對して熟議を凝らし、產業報國の精神を以て終始してゐることが、當所の隆盛を招來した最大原因である。

纏つて生產都市としての東都の使命といふか分擔といふか、兎に角、現下の戰國日本の進み行く爲の東京に於ける產業力に就て、少しく考察を試みる必要があらうと思ふ。

といふと、如何にも理論的になつて來るが、要するに東都の生產機關が時局に對してどの程に分擔し、奉公すべきかの問題であつて、それは資本多寡や、規模の大小や、沿革の新舊など總べてを撤底して、みな一樣に遵守せねばならぬことは、最大限の生產能力を發揮すること、と公益優先を實踐することより外にはないと信ずる。

然るに、この丸鐵工所は、先づ社是に於て良品主義をモットーとしてゐることと、營利を第二義的に置き、國益增進を重視してゐるが故に、假令へ、資本力其他に於て他に讓るべきものが多々あらうとも、この點に於て一頭地を抽んじてゐるのである。

大谷貞雄

【生年月日】明治四十二年十一月六日
【出身府縣】京都府竹野郡網野町
【現住所】鶴見區生麥町四七八
【電　話】神奈川　三三七一番
【經歷及現在職業】
　昭和產業横濱工場長代理
【趣　味】スポーツ
【家　庭】妻　貴美

成功の要訣は必ずしも學問ではない。尙ほ更ら財力でもない。只、縱横に働く機略であり、時機を見拔く烱眼でなければならぬ。

この欄の主人公大谷貞雄氏は、この前提を裏記する生きた證左と云つていい。

京都府の人で明治四十二年十一月竹野郡網野町に生れた。網野尋常高等小學校を卒業すると、男子の往くべき途は實業方面であるとの强い信念を抱いて、先づ伊藤英夫氏の店舗に入店したのは大正十二年三月であつた。固より機智に富んで居り、骨身惜しまず、忠實に店務に働いてゐるのは云ふまでもない。他の朋輩が安易を貪つてゐる暇にも、氏は蔭ひなたなく忠勤を抽んじたその精勵振りに、店主伊藤氏も激賞して寵愛した。

この伊藤商店に於てみつちり叩き上げた修業は、今日の氏を育てる上に於て、重要な原動力となつたことは牢記せねばならない。

次で日本肥料株式會社に入社したのであるが、その後、昭和產業となり、間もなくその才幹を認められ横濱工場長に拔擢せられこの重要なる製作機關のポストを占むるに至つた。

以上は大谷氏の略歷であるが、この素描に齊しい荒筋を見ただけでも、氏の凡庸ならざる人物の片鱗を窺知することが出來ると思ふ。

年齡から云つても、氏は未だ漸く三十一歲の青年であつて、尙ほ春秋に富むところ頗る多いものがある。從つて今後氏の活躍が那邊にまで擴大せらるゝか全く豫測を容さないものがある。何となれば年の若さは、未開拓の活躍的領域を多分に持つてゐるからである。

而かも、現下のわが國では新體制の絕旨實現が急務中の急務とされて居り、總ゆる陳いものは新しいものと置き換へられる時勢であるから、年齡の若さは時局の最も要求してゐるところで、政治部面でも、文化部面でも、產業部面でも、青年の雄飛に俟つところ甚大である。殊に生產機關の運營には、青年の蹶起が何よりも必要であるから、氏の如き血氣旺んなる青年工場長の活躍こそ待望措かざるところである。

資性は甚だ機敏で、而かも穩健で、明朗性に富んでゐるから、氏に接する者は初對面の時から宛も十年の知己の想ひなさしめるほどである。

趣味として氏がスポーツを愛好し自らも拔き競つて强豪を誇るスポーツマンの一人であるといふ。令閨貴美夫人は銚子高等女學校出身の才媛で、理想的の好配と云つてよい。

大阪商工會議所

會頭　片岡安

副會頭　中山太一

同　湯川忠三郎

理事　經濟學博士　猪谷善一

廣……六七

浦賀船渠株式會社

廣……六八

體位向上の船旅

「大島下田へ」

東京灣汽船株式會社

本社 東京・芝橋（電三田二一四一—七）

京橋營業所（京橋交叉點 電京橋九二二）

日劇案内所（日劇地下街 電丸ノ内四〇三二）

淀橋〃（成子坂上 電淀橋一〇四四）

五反田〃（白木屋一階 電大崎九三九）

毎夜十時芝浦發

大島往復 四圓

下田〃 五圓

廣……六九

中小工業資金低利融通
各種財團擔保長期工業金融
普通銀行業務・地方債社債引受

株式會社

日本興業銀行

東京市麹町區丸ノ内一丁目八番地

電話丸ノ内(23)二五〇(代表番號)
二六一(代表番號)

支店所在地

日本橋支店　日本橋區通二丁目
大阪支店　大阪東區高麗橋五丁目
神戸支店　神戸市神戸區西町
名古屋支店　名古屋市中區廣小路通六丁目
福岡支店　福岡市天神町
東北支店　仙臺市大神町
富山支店　富山市櫻橋通
廣島支店　廣島市中島本町
北海道支店　札幌市北三條西四丁目

株式會社

三井銀行

東京市日本橋區室町二丁目一番地
電話日本橋㉔(代表)一二二〇
(代表)二六三〇一　(長)一二二〇
(長)二六三〇五

支店所在地

內地

池袋(東京)　目黑(東京)　日本橋(東京)
丸之內(東京)　新宿(東京)　五反田(東京)
田村町(東京)　小樽　横濱
名古屋　名古屋上前津　京都
大阪　大阪堂島　大阪西
大阪川口　大阪船場　神戸
廣島　門司　若松(九州)
福岡

海外

大連　上海　スラバヤ(ジャワ)
ボンベイ　ロンドン　ニューヨーク

內國業務（諸預金・諸貸出金・送金爲替・諸取立・保護預・代理事務）

外國業務（送金・各種信用狀の發行・輸入爲替の取扱・輸出爲替の買取・輸出入代金取立）

本店 東京市日本橋區通一丁目

株式會社 第百銀行

取締役頭取 關根善作

支店所在地（東京・八王子・横濱・川崎・名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・廣島・水戸・福山・徳山・鳥取・千葉・銚子）

（其他全國樞要の地に支店出張所あり）

廣……七二

資本金壹億五千萬圓

諸積立金七千九百萬圓

東京市麴町區大手町一丁目六番地

株式會社 安田銀行

全國支店＝百三十二箇所

電話丸ノ內（23）

長	代表番號
三四五九番	三四五一番
三四五〇番	三四六一番

廣……七三

年賦定期貸付
普通銀行業務

日本銀行代理店
日本勸業銀行代理店
朝鮮貯蓄銀行代理店

京城府南大門通リ二丁目百四十番地ノ一

株式會社
朝鮮殖産銀行

頭取 林繁藏
副頭取 渡邊彌幸

東京支店 東京市麴町區丸ノ内電話丸ノ内(23)二一八八番
全鮮各地に支店派出所六十七ヶ所並に内地大阪に支店あり。

エト5Q23

OJI PAPER MFG CO LTD

王子製紙株式會社

取締役社長　高島菊次郎

本社　東京市王子區王子町

營業所　東京市麹町區有樂町
三信ビルヂング內

終